令和２（2020）年度

茨城大学 全学教育機構年報

令和３年１１月

茨城大学 全学教育機構 点検評価委員会

まえがき

茨城大学の第３期中期計画においては，グローバル化や人口減少・少子高齢化など 21 世紀の社会的変化を背景に地方国立大学に求められる役割を追求し「地域創生の知の拠点となる大学，その中で世界的な強み・特色の輝く大学の構築」を大学のミッションとして掲げ，６つの戦略的取り組みが目標達成に向けて行われてきた。その取り組みの１つに，茨城大学型基盤学力育成（能動的学修の全学的な実施や教育の質保証システムの構築によって，ディプロマポリシーで定めた５つの茨大型基盤学力を身につけた人材を輩出する）があり，全学教育機構はその推進母体として第３期中期計画のスタートとともに平成29年度に設置された。令和2年度は第３期中期計画（６年間）の５年目に当たり，全学教育機構においてもこれまでの成果について評価をし，次のステップに向けた検討をすべき時期にある。特に社会的に大学における教育の質保証が大きく問われる昨今において，全学教育機構がその設置目的とされる役割を果たすことは学内に限らず学外からも強く求められているものである。使命遂行においては実施している取り組みの進度や方向性を定期的に確認し，周囲の状況変化に応じて PDCA サイクルを円滑に回しつつ恒常的に前進を試みる必要があり，その過程において本年報は必要不可欠であり非常に重要なものとして位置づけられる。

令和２年度は，COVID-19 により生活様式を根本から見直すような大きな社会的変容がもたらされたが，全学教育機構の活動においても例外ではなく，通常の教育や学生生活支援とは異なる対応が求められ，課外活動や国際交流の停滞，就職活動の変容，経済的困窮学生の増加などがあった一方で，これまで実行の難しかった教育 DX が一気に進むなど正負両面の様々な影響があった。これまで経験したことのない多くの問題に直面しながら教職員一丸となりできる限りの教育環境の提供が試みられ，計画していたものとは異なる成果も多かったが，取り組むべき新たな課題の発見や部門間での連携の可能性を見出すなどの成果が見られた。以下，令和２年度の全学教育機構における取り組み成果について，COVID-19 の影響によりもたらされた特徴的な活動を中心に部門毎に概要を紹介する。

総合教育企画部門においては，全学のリモート授業導入において大きく貢献した。COVID-19 により年度当初から Teams によるリモート授業への全面的切り替えが余儀なくされ，全学教職員のリモート授業への対応のための FD を IT 基盤センターと協力しつつ，技能習熟状況に合わせて年間を通じて複数回実施した。急遽導入されたリモート授業ではあったが，大きなトラブルもなく非常にスムーズに進められたのには，このような FD に因るところも大きかったと思われる。また，総合教育企画部門が中心となり取りまとめている学生対象のアンケート調査結果からは自主学修時間や授業満足度における向上が，更に成績においてはこれまでの対面授業以上の結果が示され，今後の教育 DX の推進に向けた有用な情報を提供することができた。

共通教育部門においては，部会が非常によく機能しコロナ禍の基盤教育を支えることができた。すなわち，非常勤講師率の高い基盤教育において大きな問題なくリモート授業への対応を可能にし，更にリモート授業における教育の質保証を目指して部会毎の授業評価が例年通り実施され，今後進むであろう教育 DX をにらんだリモート授業における改善点の検討が行われた。また，多くの部会でオンディマンド教材をはじめリモート授業を生かした教材開発が進められた。これらは今後の教育 DX の進化につながるものと思われる。

学生支援部門においては，リモート授業が主になり入構規制などもあったことからバリアフリー推進室における学生相談件数，合理的配慮件数いずれも前年度よりも減少したが，面談のリモート化やリモート授業であるがゆえの合理的配慮への対応などが行われた。また，不安をより強く感じる学生を対象に，十分な感染対策を講じた上でのピアサポーターの運用など，多様な学生への対応として新たな取り組みも行われた。一方，就職支援に関しては，リモート面談など前例がない就職活動様式に不安を抱える学生が多かったが，キャリアセンターを中心に就職相談，ガイダンス等においてリモート化を導入し細やかな情報提供が試みられ，前年度と同等の高い就職率の維持に大きく貢献した。

国際教育部門においては，学生の出入国が難しくなり，留学生数の減少，直接的な国際交流の機会を持つことの困難など，COVID-19の影響を特に強く受け活動が非常に厳しかった。しかしながら，ネットを通じた協定校をはじめとする海外の大学生らとの交流を多数試み，今後の茨大生らの国際意識や留学への関心を高めることにこれらネットを通じた交流を生かしていくことの可能性を見出すことができた。活動が困難な状況下にあっても，結果を出そうとする強い姿勢がうかがわれた。COVID-19収束後の通常の国際交流が可能になった際にも，これら新たな国際交流の手法は十分活用可能と思われる。

以上が部門ごとの成果概要だが，令和２年度においては特に部門内に加えて部門間のコミュニケーションの活発化，教育の質の向上に向けたコラボレーションの可能性を求める動きがこれまで以上に増してきたように思われた。例えば，総合教育企画部門からのデータ提供に基づく基盤教育の改善，学生のニーズに沿った学生支援のあり方の検討，グローバル教育と英語教育との連動性の追求など，次年度以降の更なる発展に期待したい。

全学教育機構のこれまでの成果について振り返ってみると，その使命を果たそうと懸命に走り，徐々に部門内外のネットワークが強化されてきたことを感じる。特に令和２年度のCOVID-19による教育環境の変化に対して迅速に協力し対応できたことはその証明のように思われる。このように全学教育機構が順調な成長発展を遂げてこられたのには，太田学長，久留主理事，栗原前機構長をはじめ本機構に関係した教職員の方々の惜しみない献身的な協力によるところが大きく，関係する皆様には心より感謝申し上げる。本年報が次のステップに十分生かされ，茨城大学の更なる発展に今後とも全学教育機構が寄与できることを切に願うものである。

令和３年10月30日

全学教育機構長 西川 陽子

＜もくじ＞

まえがき ･･･ 2

① 部門の活動［定例業務］ ･･･ 5

② 部門の活動［令和２年度の活動・特色ある業務］ ･････････････････････････････････ 10

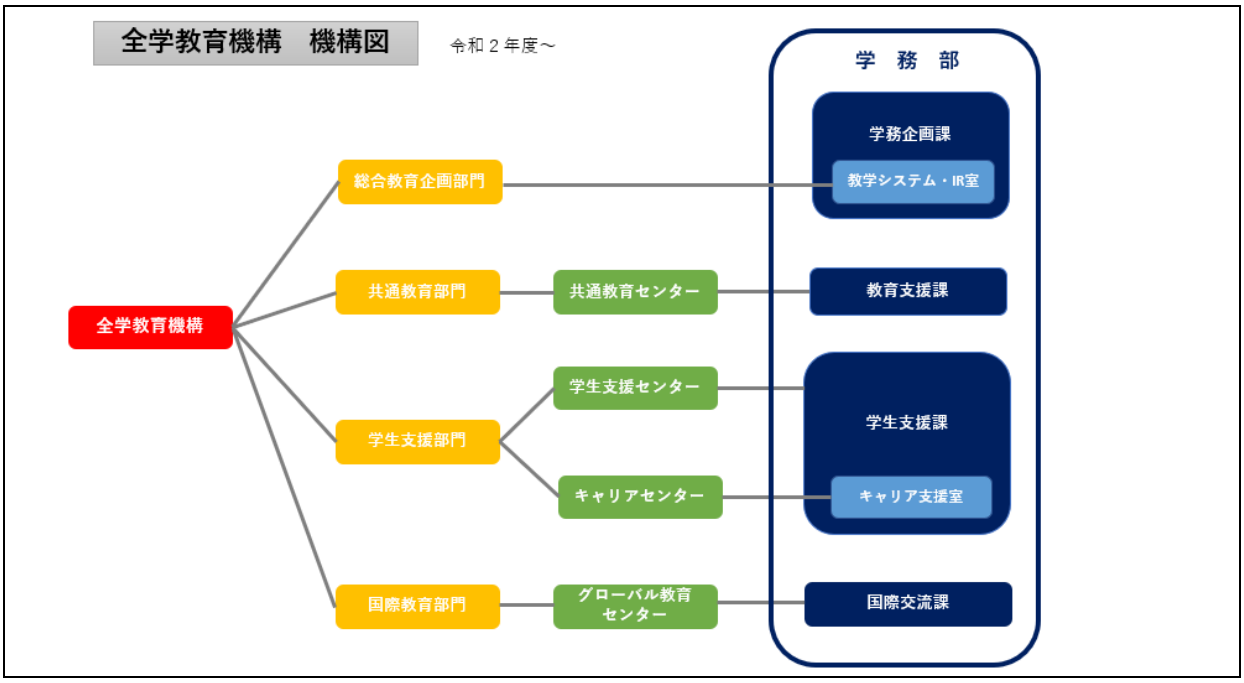
③ 令和２年度における教員の活動 ･･･ 53

④ 機構内各種委員会委員 ･･･ 106

⑤ 別紙資料リスト ･･･ 107

① 部門の活動［定例業務］

全学教育機構では，本学のディプロマ・ポリシーに則した人材を育成するため，全学的な観点から，教育・学生支援活動に関する企画，調整，運営，実施，評価等を総括的に行います。継続的な改善を伴う教育の質保証の全学的な統括，共通教育や学生支援の企画・運営，グローバル教育の推進などを担うため，４部門４センターを置いています。



略年表

大正９年（1920 年）４月：旧制水戸高等学校開学。

昭和 24 年（1949 年）５月：茨城大学開学。文理学部を設置。

昭和 37 年（1962 年）４月：学生相談室（学生相談センターの前身）が発足。

昭和 42 年（1967 年）６月：文理学部を改組し，人文学部，理学部の２学部及び教養部（共通教育部門の前身のセンターの元となる）が発足。

平成８年（1996 年）４月：大学教育研究開発センター設置。（同年３月をもって教養部を廃止）

平成 13 年（2001 年）４月：国際教育部門の前身となる留学生センターおよび学生支援部門の前身となる学生相談センター設置。

平成 14 年（2002 年）４月：学生支援部門の前身となる学生就職支援センター設置。

平成 17 年（2005 年）３月：評価室（現在の大学戦略・IR 室）を設置。

平成 18 年（2006 年）４月：大学教育研究開発センターを大学教育センターに改組。

平成 29 年（2017 年）４月：大学教育センター，留学生センター，学生相談センター，学生就職支援センターに，大学戦略・IR 室の一部機能も移行した上で全学教育機構に再編成。

○ 総合教育企画部門

関係部署との連携による，共通教育と専門教育間の連携・調整，教育活動の点検・評価及び改善等並びに IR と結びついた総合的なエンロールメント・マネジメントに関する基本方針の策定，企画及び運営を行なっている。

第１四半期（４月～６月） ・新入生調査 ・学生生活実態調査，２年生調査 ・授業アンケートとりまとめ（前年後期分）	第２四半期（７月～９月）
第３四半期（10 月～12 月） ・授業アンケートとりまとめ（前期分）	第４四半期（１月～３月） ・卒後３年目調査 ・企業向け学修成果調査（隔年） ・卒業時・修了時調査
通年（随時）実施事項 ・学部アドバイザリーボードへの情報提供 ・学部，学科の FD ミーティングへの情報提供 ・教務情報システム，LMS 等の運用支援（IT 基盤センター教育 IT 化推進部門と共同実施） ・FD/SD の企画，運営（教育 DX・授業改善 FD/SD：IT 基盤センターと共同主催）	

○ 共通教育部門

ディプロマ・ポリシーに基づく共通教育(基盤教育，プログラム教育及び大学院共通教育)の基本方針の策定，企画及び運営を行っている。

第１四半期（４月～６月） ４月：基盤教育科目クラス編成 ４月：前学期セメスター及び第１クォーター授業開始 ４月：前年度後学期セメスター学生授業アンケートに対する教員自己点検の実施 ５月：次年度基本方針（修得目標等の設定）策定 ６月：ガイドライン（科目区分ごとの実施概要等の設定）策定 ６月：第１クォーター学生授業アンケート実施 ６月：第１クォーター成績入力 ６月：第２クォーター授業開始 ６月：前年度後学期セメスター学生授業アンケートおよび教員自己点検の集計結果を踏まえた分野別 FD の実施	第２四半期（７月～９月） ７月：基本計画（授業開講本数，授業担当の概要，重点目標等の設定）策定 ７月：前学期セメスター及び第２クォーター学生授業アンケート実施 ８月：前学期セメスター及び第２クォーター成績入力 ８月・９月：夏季集中講義 ９月：夏季集中講義成績入力
第３四半期（９月～12 月） ９～１０月：実施計画（開設科目，授業担当教員の設定）策定 ９月：後学期セメスター及び第３クォーター授業開始 １０月：前学期セメスター及び第１・第２クォーター学生授業アンケートに対する教員自己点検の実施	第４四半期（１月～３月） １月：次年度シラバスの点検・確認 １月：後学期セメスター及び第４クォーター学生授業ア

１１月：第３クォーター学生授業アンケート実施 １２月：第３クォーター成績入力 １２月：第４クォーター授業開始 １２月：前学期セメスター及び第１・第２クォーター学生授業アンケート並びに教員自己点検の集計結果を踏まえた分野別 FD の実施 １２月：次年度基盤教育科目シラバス入力依頼	ンケート実施 ２月：後学期セメスター及び第４クォーター成績入力 ３月：春季集中講義 ３月：春季集中講義成績入力

［ 共通教育センター］

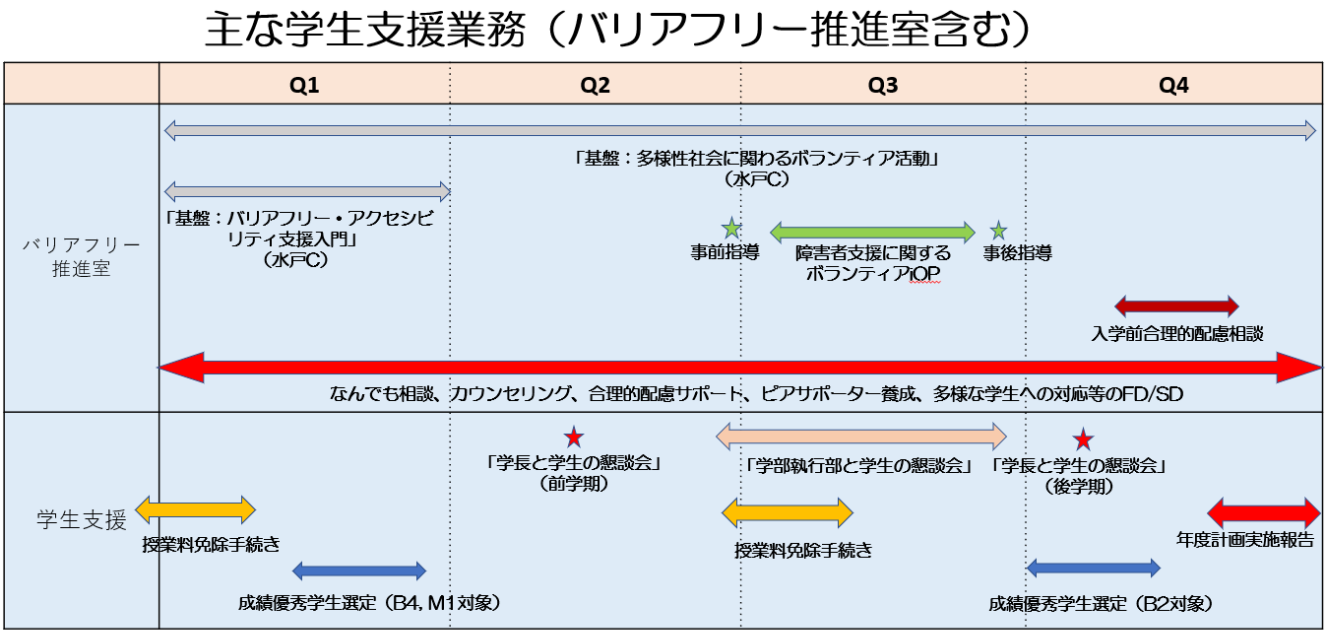
１年次からの基盤教育及び全学共通プログラムの履修手続きなど，共通教育全般に関する窓口である（旧 大学教育センターなど)。

○ 学生支援部門

学修，生活，心身の健康，就職等のトータルなサポートによる学生の成長を促す学生支援を行っている。２つのセンターと２つの室を持っている。

［ 学生支援センター ］

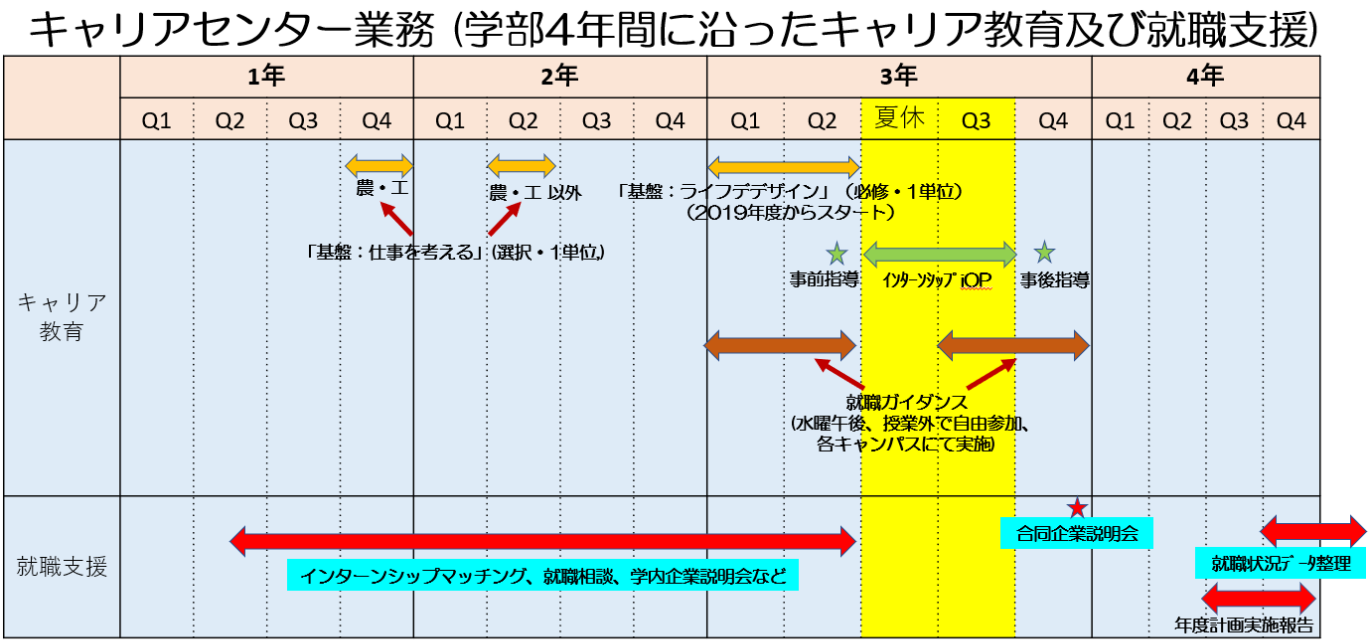
学生生活全般について取り扱い，学生の成長を促す学生支援を行う。奨学金や授業料免除の申請，学生寮，サークル活動などの窓口である。茨大なんでも相談室およびバリアフリー推進室があり，それぞれ学生相談および障害のある学生向けの支援を行っている。



※ 上記のほか、入学式、オープンキャンパスでの説明、事件事故の対応などの業務がある。

［ キャリアセンター ］

就職支援や，インターンシップをはじめとする将来を見据えた幅広いキャリア支援を行う。就職相談や求人情報，インターンシップの受付などの窓口となっている。



※ 上記のほか、オープンキャンパス、助成会などでの保護者説明や大学広報など、就職状況の資料提供を行っている。
※ 3キャンパス間の支援格差の軽減に向け、定期的な情報交換を行っている。

○ 国際教育部門

留学生教育及び日本語教育を実施し，国際社会に適応し活躍する人材を育成するためのグローバル教育を推進している。

［ グローバル教育センター ］

海外留学や研修，英語コミュニケーション力の強化など，グローバル教育を推進。留学や国際交流の相談のほか，外国人留学生の日本語教育や修学支援，国際交流会館などの窓口となっている。

	1Q	2Q	夏季休暇	3Q	4Q	春季休暇
留学生受入	**4月** ・ 交換留学生オリエンテーション ・ 交換留学継続生ガイダンス ・ 外国人留学生新入生ガイダンス ・ チューターガイダンス 留学交流室／会館／個人チューターのサポート 留学生の生活上の指導および助言	**7月** ・ 交換留学帰国生ガイダンス ・ 交換留学継続生ガイダンス		**9月** ・ 交換留学生オリエンテーション ・ 交換留学継続生ガイダンス ・ チューターガイダンス **11月** ・ 国際交流会館防災講座 留学交流室／会館／個人チューターのサポート 留学生の生活上の指導および助言	**1月** ・ 交換留学帰国生ガイダンス ・ 交換留学継続生ガイダンス ・ チューター募集説明会	
学生派遣	**4月** ・『海外留学のすすめ』刊行 海外留学相談	**5月** ・ 海外留学説明会 **6月** ・ 海外ボランティア・TOEFL説明会 ・ 海外留学サロン **7月** ・ 海外派遣危機管理ガイダンス ・ 日本語教育プログラム海外演習経験者による報告会 ・ TOEFL-ITPの実施	**8月・9月** ・ スペイン語短期研修 ・ 韓国語短期研修 ・ ブルネイ・ダルサラーム短期語学文化研修 ・ オーストラリア短期語学研修	**10月** ・ 交換留学説明会・報告会 ・ TOEFL-ITPの実施 **11月** ・ 海外ボランティア・TOEFL説明会 海外留学相談	**1月** ・ 日本語教育プログラム海外演習経験者による報告会 ・ TOEFL−ITPの実施 **2月** ・ 海外派遣危機管理セミナー	**3月** ・ マレーシア短期語学研修 ・ ベトナム日本語教育短期研修
国際連携教育活動	協定校との授業交流 国際連携教育イベントの開催	**6月** ・ 留学生の茶道・華道体験 **7月** ・ 国際交流合宿研修	**8月** ・ 日越オンライン国際交流学習	**10月** ・ 留学生、チューター、教職員のための国際交流パーティー 協定校との授業交流 国際連携教育イベントの開催 タンデム学習プロジェクト	**12月** ・ 茨城学生国際会議	
地域交流	中学校・高校への留学生派遣	**6月** ・ 水戸市の姉妹都市アナハイム市の学生親善大使との交流 ・ ひたちなか市国際交流協会との連携（「5学部混合地域PBL IV」）		**9月** ・ 茨城県高等教育機関留学生関係担当者連絡会 **10月** ・ 茨城県地域留学生交流推進協議会 中学校・高校への留学生派遣		
その他	海外の教育機関との協定締結	**7月** ・ オープンキャンパスへのブース出展 ・ オンライン同窓会	**8月** ・ 県内高校生向け公開講座 ・ 外国人学生のための進学説明会へのブース出展			

② 部門の活動［令和２年度の活動・特色ある業務］

全学教育機構では，それぞれの部門において，大学の中期目標・中期計画などに従い，特色ある活動を行っています。令和２年度の特色ある活動は以下のとおりです。

○総合教育企画部門

総合教育企画部門は，学務企画課（教学システム・IR 室）と一体的な活動を行っているが，令和 2 年度からは，遠隔授業の導入など教育 DX の進展に伴い IT 基盤センターとの連携強化も進めている。特に，令和 2 年度はオンラインの FD/SD には力を入れ，20 回以上の全学 FD/SD を開催した。

4 階層質保証システムについては，「茨城大学における教育の内部質保証の実施に関する要項」および「教育の内部質保証マニュアル」としてとりまとめ，教育改革推進委員会において承認いただき運用を始めている。

令和 3 年度には機関別認証評価を受審するため，学内各所と協力の上，準備作業を進めている。

１．中期目標・中期計画および年度計画に関連する活動

中期計画 8【教務情報に基づく質保証（エンロールメント・マネジメント（ＥＭ））】 学士課程から博士後期課程を通して，全学生の学修成果を把握し，学修成果に基づいた効果的な教育改善を行い，教育の質保証につなげる。 そのため，ＰＤＣＡサイクルを機能させ，確立していくのに必要なデータを確保するため，全学を通じて，学生の授業理解度，満足度に対するアンケート調査の全学的実施体制を確立するとともに，卒業生の進路状況調査，卒業生の能力等評価に対する企業等へのアンケート調査などを定期的に実施する。また，ＩＲの体制及び機能を強化して各教員に対し的確に教学情報を提供するとともに，後述の全学教育機構などでの分析・評価，改善のための検討につなげていく。さらに，全学教育機構に学生支援部門を設置することにより連携支援体制を強化し，学生への指導に生かす。 <u>令和２年度計画</u>： 入口から出口までの体系化された学生調査情報について iEMDB，FD/SD 支援システムを活用して学内共有を図るとともに，人材養成 Annual Report（学修成果ファクトブック）の紙媒体版も発行して，教育改善情報の流通を強化する。
令和２年度実績 前期，後期の授業終了時に学生を対象とした学修におけるアンケート調査を実施し，その結果について全学教育機構総合教育企画部門会議，教育改革推進委員会などの全学委員会にて共有を図り，各部局における教育の改善の検討に生かせた。 茨大生の主な就職先企業を対象に，卒業生においてディプロマポリシーに掲げる資質が身についているかなどを中心にアンケート調査を実施し，結果を全学委員会等で共有し，教育改善の効果の有無，更なる改善の必要性等について検討できた。 iEMDB 及び人材養成 Annual Report の運用化に向けて作業は進められ，これらは次年度にも継続される。 前期，後期の授業終了時に実施される学生を対象とした学修におけるアンケート調査結果から，学修時間の

向上，授業における満足度向上など，授業改善の成果が推察可能となった。
中期計画９【体系的で柔軟な教育システム】 国際化等に対応する柔軟なカリキュラム編成を可能にするとともに，体系的なカリキュラムの編成により，学生がより学修計画を立てやすくする。 そのため，平成 29 年度からクォーター制を導入するとともに，平成 27 年度から導入している科目ナンバリング制度について恒常的な改善を行い，より学生にとってわかりやすいものとする。 また，学生のモチベーション向上にむけた指導の工夫，Concept Map などを活用した授業内容・カリキュラムの可視化，電子シラバスの活用を含む既存の教務関係システムの統合等による新たな学修マネジメントシステムの整備及び利用率の向上，ルーブリックなどを用いた評価基準の明確化等に取り組む。 令和２年度計画： 全学部において学位プログラム制度の導入に向けた検討など，我が国の高等教育に求められる社会的要請を踏まえ，教育体制，内容の改善に関する検討を進める。特に，科目ナンバリング，アクティブラーニングに関する見直しを進める。
令和２年度実績 科目ナンバリングの改善をはじめアクティブラーニング科目の明確化など，カリキュラムの体系が学生に理解されやすいようシラバスの改善検討等を行いシラバスガイドの修正版を作成し，教育改革推進委員会において修正内容の周知と次年度シラバス入力の徹底及び各部局におけるシラバス入力におけるチェックシステムの強化を図った。 シラバスの役割（教育の質の保証，学生との教育に関する理解と合意など），重要性に関する全学の FD を開催し，次年度シラバスのブラッシュアップを図った（第１回 茨城大学 FDdays：【資料 2-A-02】）。 リモート授業におけるアクティブラーニングの導入等を促進し教育の質の維持向上を図る一環として，次年度の manaba の活用に関する FD を実施した（⇒第３回 茨城大学 FDdays：【資料 2-A-02】）。 学生により理解がしやすく教育の質の保証を確かなものにするシラバスガイドのブラッシュアップ（修正版）ができた。 次年度受審する認証評価の根拠資料として十分耐えうる令和３年度シラバスの内容のチェックと修正が各学部研究科も含めてできた。【資料 2-A-03】
中期計画 20【教員の教育力向上（FD）】 エンロールメント・マネジメント活動等により教育上の課題を明らかにし，これに基づいて，教員の教育力の向上に取り組む。 そのため，教務情報に基づく分析を踏まえ，個々の教員に対して教育上の課題を助言できるような仕組みを構築する。また，これに基づく FD プログラムを検討・開発し，広く受講させる。 令和２年度計画： ・4 階層の質保証システムの各階層に対応した FD の内容と実施体制を点検評価し，その改善策とともに ibaraki enrollment management data base（iEMDB）を活用した FD を実施して，ディプロマポリシーの達成とカリキュラムポリシーに基づいた教育をさらに推進する。 ・iEMDB をもとに学修成果アニュアルレポートの定期的公表を行い，学内のエンロールメント・マネジメントに資する情報を提供する。また，全学統一 FD 実施日（FD ディ）の試行を行う。
令和２年度実績

教育の質保証に関連する全学 FD(前期：新任教職員を主とする FD（計 3 回）【資料 2-A-01】，後期は全学教職員を対象とした FD（計 3 回）【資料 2-A-02】)が実施できた。教育の質保証に関する全学 FD の試みは初めての取組だったが，今後の年間を通した計画的な FD の実施に向けて参考となった。

各部局単位で，教育における学生アンケート結果をもとにした FD を実施し，教育の質の向上について意識を高めることができた。

iEMDB をもとに学修成果アニュアルレポートの定期的公表を行うことで学内のエンロールメント・マネジメントに資する情報を提供していくことに関しては，今年度も iEMDB への学生の情報入力は着実に進められた。しかし，教職員に情報提供できる段階には至っておらず，次年度に作業を引き継ぎ iEMDB の完成を目指すこととする。

２．令和２年度における各部局での FD 実施状況（とりまとめ）

・学務企画課（教学システム・IR 室）とともにとりまとめを行った。

☆：総合教育企画部門においてデータ提供だけでなく話題提供なども行ったもの

取組	主催	実施内容・方法	参加者数
人文社会科学部各メジャーにおける FD（前期：令和 2 年 6 月 10 日～7 月 1 日，後期：令和 3 年 1 月 23 日～2 月 8 日）	メディア文化，国際地域共創，法学，経済学・経営学，文芸・思想，歴史・考古学，心理・人間科学の各メジャー	各メジャー単位で，指定された課題について議論，改善案を立案した。	令和 2 年 前期：82 名， 後期：82 名
人文社会科学部各学科における FD（前期：令和 2 年 7 月 8 日，後期：令和 3 年 2 月 10 日）	現代社会学科，法律経済学科，人間文化学科	学科単位で，各メジャーの報告をもとに総括議論を行った。	令和 2 年 前期：79 名， 後期：79 名
人文社会科学部における FD☆　（令和３年３月 17 日）	人文社会科学部教務委員会	学科 FD・メジャーFD の成果と卒業予定者アンケートの結果を学部全体で共有し，議論を行った。	77 名
人文社会科学研究科各コースにおける FD　※原則，学士課程と同日程で開催	文芸・思想コース，歴史・考古学コース，心理・人間科学コース，メディア・情報社会コース，国際・地域共創コース，法学・行政学コース，経済学・経営学コース	各（新）コース単位で，指定された課題について議論，改善策を立案した。	82 名
人文社会科学各専攻にお	人文科学専攻，社会	（新）専攻単位で，各コースの報告をもとに	79 名

けるFD　※原則，学士課程と同日程で開催	科学専攻	総括議論を行った。	
教育実践高度化専攻内ＦＤ（実施日：令和２年５月21日）	教育学研究科教育実践高度化専攻	Teamsの使い方について説明会を開催し共有した。また連携授業があるため，とくにTeamsにおける外部ゲストの招待の仕方について共通理解を図った。	25名
教育実践高度化専攻内ＦＤ（実施日：令和３年３月18日）	教育学研究科教育実践高度化専攻	教職員支援機構の研修会についての報告（とくに振り返りの在り方）。教職員支援機構の研修会の内容について，とくに個人リフレクト及び相互リフレクトの重要性について共通理解をした。	17名
第１回教職大学院ＦＤ（実施日：令和２年12月２日）	教育学研究科専門委員会，教職大学院準備委員会	令和３年度教職大学院の拡充に伴い，カリキュラム全般，実習科目，実践研究報告書と実践研究報告会等について周知,検討を行った。	97名（対面15(内事務3)，オンライン82)
第２回教職大学院ＦＤ（実施日：令和３年２月17日）	教育学研究科専門委員会，教職大学院準備委員会	令和３年度教職大学院の拡充に伴い，教育委員会や研修センター等，学外教育機関との連携が重要となるため，年間スケジュール，実習内容，外部との連携について周知，検討を行った。	85名（対面4(内事務1)，オンライン81)
教育学部・教育学研究科授業アンケート結果を用いた授業点検ＦＤ（令和３年１月27日）	教務委員会，研究科専門委員会，点検評価委員会	教室，専修毎にミニFDを実施した。ミニFD実施後に各自点検レポートを提出した。後日，全体FDを行い,点検レポートに基づきいくつかの教室から点検結果が報告され，それに関する意見交換と情報共有がなされた。	93名
教職実践演習ＦＤ（実施日：令和２年10月21日）	教育学部教務委員会	令和２年11月から開講される教職必修科目「教職実践演習」の関係教員を対象にオンライン方式（Microsoft Teams）により実施。教務委員長および各回の演習担当教員が講師として授業の日程，オンラインでの講義・演習の進め方，課題・レポートの取扱いや成績評価方法などを講習した。 授業等により参加できない対象者は，Teamsの録画により別途受講。	34名
大学入門ゼミ・大学院共通科目及び	教育学部教務委員会，全学教育機構	教育学部教員を対象に，対面及びオンライン方式（Microsoft Teams）により実施。	50名

遠隔授業に関するＦＤ（実施日：令和３年１月27日）		「大学入門ゼミ」，「大学院共通科目」及び遠隔授業全般に関する学生アンケート結果に基づき，全学教育機構教員が講師として各授業の現状と今後の改善点などを講習した。 授業等により参加できない教員は，Teams の録画により別途受講。	
教職課程の質保証のためのガイドライン及び教職課程学生の ICT 活用指導力育成に関するＦＤ（実施日：令和３年３月４日）	教育学部教務委員会，全学教職センター	教育学部教員を対象に，オンライン方式（Microsoft Teams）により実施。 教職課程の自己点検評価の義務化に伴う今後の見通し及び GIGA スクール構想に基づいた茨城県内の教育現場における ICT 活用状況等について，全学教職センター教員及び本学特命教員が講師として講習した。 授業等により参加できない教員は，Teams の録画により別途受講。	85 名
第１回研究カフェ兼ＦＤ（実施日：令和２年６月17日）	教育学部教育・研究支援委員会，教務委員会，大学院専門委員会	「遠隔授業におけるグループワーク，特に，チャネルを使ったグループディスカッションの試み」と題し，実践豊富な教員から Teams や Forms を利用した授業展開についての話題提供をする。さらに，これらについて意見交換する。	38 名
第２回研究カフェ兼ＦＤ（実施日： 令和２年７月17日）	教育学部教育・研究支援委員会	教科連携を推進するための一施策として，理科のなかでも地球科学の分野におけるものの見方・考え方について学ぶ。特に，地球科学的な時間・空間・循環の捉え方について学習し，それを教育心理学的な視点で捉え直してみる。	20 名
第３回研究カフェ兼ＦＤ（実施日： 令和２年９月16日）	教育学部教育・研究支援委員会	教科連携推進の一環として，国語のなかでも書字学習の分野におけるものの見方・考え方について学ぶ。特に，寺子屋の時代から連綿と続く茨城の書字学習について学習し，その教育効果の変遷を脳科学的な知見も踏まえ，捉え直してみる。	25 名
第４回研究カフェ兼ＦＤ（実施日： 令和 2 年 10 月 20 日）	教育学部研究・教育支援委員会	教科連携推進の一環として，数学，とくに解析学における身近な現象説明,微分積分により導入される現象の観測（モデリング）と観測の復元という２つのプロセスを学ぶ。また，プレゼンテーションに GoodNote 5 というア	17 名

		プリケーションを使用し，オンラインでの「手書きで板書」の授業実践について説明する。さらに，これについて意見交換する。	
第５回研究カフェ兼ＦＤ（実施日： 令和 2 年 11 月 27 日）	教育学部研究・教育支援委員会	「研究と教育現場の往還」と題し，美術教育専門とする教員が小学校教員時の教育方法，研究成果の活用，同時に教育現場で出会う様々な事象がどのように研究に生かされたかについて話題提供を行う。それについて，中学校での教職経験を有する教員からの助言も踏まえ，参加者で考える。	21 名
第６回研究カフェ兼ＦＤ（実施日： 令和 3 年 3 月 17 日）	教育学部研究・教育支援委員会	教科連携推進の一環として，社会，そのなかでも人文地理の分野におけるものの見方・考え方について学ぶ。特に，地理的な空間理解の時代変化を，茨城の先駆的な地理学者長久保赤水が残した業績を追いながら確認し，自身の専門分野との関連性について考える。	29 名
理学部教育改善 FD（令和 2 年 11 月 18 日，令和 3 年 1 月 27 日）☆	理学部教学点検委員会 理工学研究科大学院学務委員会	１回目は，主に遠隔授業での学生の学修状況および生活状況についてデータをもと議論（現状把握，共通理解のための討論）を行い，２回目は 10 年分の成績データ解析結果から，改善活動の学生のまなびへの影響について議論を行った。	第 1 回 61 名 第 2 回 67 名
理学部コース FD（令和 2 年 12 月から令和 3 年 1 月）	理学部全コース	成績分布，授業アンケート結果をもとにカリキュラムの点検を行った。	コース教員全員
理工学研究科博士前期課程，研究科共通科目 FD（実施日：令和 3 年 3 月 25 日）	理工学研究科博士前期課程学務委員会	学生および授業担当教員からのアンケート等を元に，授業の優れた点，改善するべき点について共有し，授業の質向上につなげる。特に遠隔授業についての学生・教員からの反応を確認し，より良い遠隔授業の実施方法について考える。	9 名
工学部 FD 研究会 （令和 2 年 12 月 16 日）☆	工学部教育改善委員会	本学全学教育機構教員による機関別認証評価で求められる内部質保証システムと工学部の教育改善の取組についての講演・研修，SPOD フォーラム参加報告	159 名
工学部 推奨授業公開	工学部教育改善委員会	年２回（前期・後期）推奨授業に選出された授業の公開を行い，実践的な手法の共有の場を提供した。	前期 10 名 後期 3 名

工学部機械工学科 FD ※原則，新課程の学科に合わせ実施	工学部機械工学科	年２回（前期・後期）当該学科カリキュラム構成員に対し，授業担当教員からシラバスに基づく授業内容の説明，学生からの授業アンケート集計結果・意見を勘案し，優れている面，改善すべき点について評価を実施。	42 名
工学部機械システム工学科 FD （令和 2 年 10 月 14 日～27 日に全体会と８分野別点検会議）	工学部機械システム工学科	同上	101 名
工学部知能システム工学科 FD ※原則，新課程の学科に合わせ実施	工学部知能システム工学科	同上	21 名
工学部電気電子工学科 FD（令和 2 年 11 月 16 日）	工学部電気電子工学科	同上	18 名
工学部電気電子システム工学科 FD（令和 2 年 10 月 14 日）	工学部電気電子システム工学科	同上	34 名
工学部メディア通信工学科 FD（令和 2 年 10 月 14 日）	工学部メディア通信工学科	同上	13 名
工学部物質科学・生体分子機能工学科 FD（令和 2 年 10 月 28 日）	工学部物質科学工学科，生体分子機能工学科	同上	前期 16 名 後期 31 名
工学部情報工学科 FD （令和 2 年 9 月 14 日，令和 3 年 3 月 30 日）	工学部情報工学科	同上	前期 22 名 後期 21 名
工学部都市システム工学科 FD （令和 2 年 9 月 18 日）	工学部都市システム工学科	同上	前期 20 名 後期 18 名
大学院理工学研究科 機械システム工学専攻 FD （令和 2 年 10 月 16 日～27 日に全体会と５分野別点検会議）	大学院理工学研究科機械システム工学専攻	同上	86 名
大学院理工学研究科 知能システム工学専攻 FD ※原則，新課程の専攻に	大学院理工学研究科知能システム工学専攻	同上	21 名

合わせ実施			
大学院理工学研究科　電気電子システム工学専攻 FD（令和 2 年 10 月 28 日）	大学院理工学研究科 電気電子システム工学専攻	同上	27 名
大学院理工学研究科　量子線科学専攻　FD（令和 2 年 10 月 28 日）	大学院理工学研究科 量子線科学専攻（工学野）	同上	25 名
大学院理工学研究科　情報工学専攻　FD（令和 2 年 9 月 14 日，令和 3 年 3 月 30 日）	大学院理工学研究科 情報工学専攻	同上	前期 22 名 後期 21 名
大学院理工学研究科　都市システム工学専攻　FD（令和 2 年 9 月 18 日）	大学院理工学研究科 都市システム工学専攻	同上	前期 19 名 後期 17 名
工学部アドバイザリーボード	工学部	学部の教育活動及び教育改善等に関する事項について，学外の産学官民のステークホルダーから助言を得る。	28 名
工学部機械システム工学科，大学院理工学研究科機械システム工学専攻 産学連携カリキュラム改良委員会	工学部機械システム工学科 大学院理工学研究科 機械システム工学専攻	学科・専攻の教育活動及び教育改善等に関する事項について，学外の産学官民のステークホルダーから助言を得る。	15 名
工学部電気電子システム工学科，大学院理工学研究科電気電子システム工学専攻 産学連携カリキュラム改良委員会	工学部電気電子システム工学科 大学院理工学研究科 電気電子システム工学専攻	同上	11 名
工学部物質科学工学科 大学院理工学研究科量子線科学専攻（工学野） 産学連携カリキュラム改良委員会	工学部物質科学工学科 大学院理工学研究科 量子線科学専攻（工学野）	同上	25 名
工学部情報工学科，大学院理工学研究科情報工学専攻 産学連携カリキュラム改良委員会	工学部情報工学科 大学院理工学研究科 情報工学専攻	同上	25 名

工学部都市システム工学科，大学院理工学研究科都市システム工学専攻産学連携カリキュラム改良委員会	工学部都市システム工学科 大学院理工学研究科都市システム工学専攻	同上	15 名
農学部ＦＤ（令和 2 年 10 月 21 日）	農学部総戦略・IR 委員会	令和 2 年度 4 月の学生アンケート結果をもとに新型コロナウイルス感染症下での学生の動向について確認を行い，今後の指導に向けた共通理解を得た。	50 名
令和元年度・2 年度卒業・修了生の就職状況に関する FD（令和 2 年 12 月 16 日開催）	農学部	令和元年度・2 年度卒業・修了生の就職状況について情報共有を行った。（講演：福與徳文教授）	42 名
農学分野データサイエンス教育事業 FD 第 1 回（令和 3 年 2 月 17 日開催）	農学部	大学共同利用法人・システム研究機構統計数理研究所名誉教授田村義保先生をお招きし，統計科学とデータサイエンスについて学部全体での認識共有を図った。	25 名
農学部情報リテラシーFD（令和 3 年 3 月 4 日）	農学部	農学部 FD：情報リテラシー 講師：田附明夫教授	52 名
数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム令和 2 年度　関東・首都圏ブロック第 8 回ワークショップ ～農学分野における数理・データサイエンス・AI の教育，研究の展開普及～（令和 3 年 3 月 25 日開催）	数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム，茨城大学農学部	講師：茨城大学農学部　教授　岡山毅，統計数理研究所　特任教授　田村義保，鯉渕学園農業栄養専門学校　教授　大熊哲仁，株式会社フォーカスシステムズ　櫻井伸吾，茨城大学農学部附属国際フィールド農学センター係長　高田圭太，茨城大学農学部教授・附属国際フィールド農学センター長　小松﨑将一	106 名（Zoom 開催）
令和元年度後学期共通教育 FD（令和 2 年 11 月 19 日）	全学教育機構共通教育部門会議	令和元年度後学期に開講された基盤教育科目，全学共通プログラム科目，大学院共通科目の FD 実施報告	93 名
令和 2 年度前学期共通教育 FD（令和 3 年 3 月 18 日）	全学教育機構共通教育部門会議	令和 2 年度前学期に開講された基盤教育科目，全学共通プログラム科目，大学院共通科目の FD 実施報告	93 名
第 1 回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 4 月 17 日）	IT 基盤センター	Teams 操作説明・Teams に関する Q&A	195 名

第２回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 4 月 22 日）	IT 基盤センター	Teams 操作説明・Teams に関する Q&A	112 名
第３回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 4 月 24 日）	IT 基盤センター	Teams 操作説明・Teams に関する Q&A	69 名
第４回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 5 月 14 日）	IT 基盤センター	遠隔授業 TF からの報告，Teams に関する Q&A	126 名
第５回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 5 月 28 日）	IT 基盤センター	Teams の機能紹介，Teams に関する Q&A	122 名
第６回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 6 月 11 日）	IT 基盤センター	Teams 利用ガイドライン，研究活動での利用，Teams に関する Q&A	80 名
第７回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 6 月 25 日）	IT 基盤センター	Teams の基本的な操作方法（2Q から遠隔授業を始められる方向け）	56 名
第８回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 7 月 10 日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	第 1Q 開講科目の受講学生に実施した授業アンケートの結果を紹介，Teams に関する Q&A	67 名
第９回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 7 月 22 日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	教員向け調査結果から見えてきた茨城大学の遠隔授業の現状と課題，Teams に関する Q&A	36 名
第 10 回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 8 月 6 日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	遠隔授業と著作権	61 名
第 11 回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 9 月 23 日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	遠隔授業の実施方法について（後期から遠隔授業を始められる方向け）	105 名
第 12 回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 10 月 15 日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	Teams の機能の変更等について，遠隔授業に関する Q&A（Teams の活用，著作権等）	34 名
第 13 回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 10 月 29 日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	授業実施における著作権法上の留意点，Q&A（遠隔授業全般について。特に技術的な内容）	32 名

第 14 回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 11 月 19 日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	学校現場における ICT 化の流れからハイフレックス授業まで,Q&A コーナー	41 名
第 15 回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 2 年 11 月 27 日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	manaba と Teams，教務情報ポータルの使い分け，Q&A コーナー	99 名
第 17 回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 3 年 1 月 28 日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	遠隔授業/遠隔会議をそつなく行うための Tips，LMS(manaba)の使い方	60 名
第 19 回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 3 年 3 月 26 日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	VPN サービスの利用の手引	140 名
第 20 回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 3 年 3 月 26 日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	LMS(manaba)の活用方法	76 名
第 1 回 FD ディ（令和 2 年 12 月 9 日）☆	全学教育機構	令和 3 年度のシラバス作成に向けて，基本的な事項（学則，大学設置基準）と内部質保証として求められる事項（DP との関連等）の解説を行った。	177 名
第 2 回 FD ディ・第 16 回遠隔授業/テレワークに関する FD(令和 2 年 12 月 24 日）☆	全学教育機構・IT 基盤センター	教育の DX 化も見据えた授業改善を考えるべく学内での実践事例の共有を図った。	115 名
第 3 回 FD ディ・第 18 回遠隔授業/テレワークに関する FD（令和 3 年 3 月 18 日）☆	全学教育機構・IT 基盤センター	来年度の授業実施に向け授業支援システムである manaba の活用法について説明,全体討論を行った。	265 名
新任教職員オリエンテーション（令和 2 年 4 月 2 日）	人事労務課	新規採用教職員に茨城大学の成り立ち・ビジョン・改革，就業規則・教員業績評価，教育システム，学生支援，研究，組織概要およびリスク管理，個人情報保護と情報セキュリティについて解説し，今後の自己のミッションについて整理した。	30 名（教員のみ）
第 1 回新任教員 FD(令和 2 年 7 月 21 日)	全学教育機構・人事労務課	新任教員を主な対象として，指導者及び研究者としての基本姿勢を備えるとともに，学内のシステムに対する理解を深めることを目的としたテーマを取り上げて，説明を行った。第 1 回テーマ：「学生と関わる　ー支援，配	30 名

		慮，コンプライアンスー」	
第２回　新任教職員FD/SD(茨城大学オンラインFD/SD)（令和２年８月４日）☆	全学教育機構	新任教員を主な対象として，指導者及び研究者としての基本姿勢を備えるとともに，学内のシステムに対する理解を深めることを目的としたテーマを取り上げて，説明を行った。第２回テーマ：「茨城大学の教育システム －シラバス，学則，質保証－」	29 名
第３回　新任教職員FD/SD(茨城大学オンラインFD/SD)（令和２年10月28日）☆	全学教育機構	新任教員を主な対象として，指導者及び研究者としての基本姿勢を備えるとともに，学内のシステムに対する理解を深めることを目的としたテーマを取り上げて，説明を行った。第３回テーマ：「データから見る茨大生」	34 名

３．FD 以外で各学部等からの要請により情報提供を行ったもの
※教育研究評議会，経営協議会，教育改革推進委員会などでの報告は除く

実施日	催し物名	演題
R2.11.13	茨城大学 大学教育シンポジウム オンライン授業の経験と知見を教育改革に活かすために	茨城大学の遠隔授業の知見から教育改革を展望する
R2.11.25	同窓会連合会意見交換会	全国の同窓会による在学生支援の現状と課題
R3.1.12	理学部アドバイザリーボード	茨城大学の新型コロナウイルス感染症対応と理学部学生の状況について
R3. 3.15	人文社会科学部アドバイザリーボード	環境の変化にともなう学生の履修状況について－遠隔授業および改組の状況をデータから振り返る－
R3.3.21	農学部アドバイザリーボード	遠隔授業の状況および農学部卒業生の学修成果について
R3.3.24	茨城大学パートナーズフォーラム	オンライン授業による学修成果への影響と教育の質保証
R3.3.25	教育学部アドバイザリーボード	教育学部の主要指標および卒業時・修了時の成果について

４．他大学等からの要請により本学の教育改善の仕組み等の紹介を行ったもの

実施日	催し物名	演題
R2.7.9	鳥取大学 エンロールメント・マネジメントに係る講演会	なぜエンロールメント・マネジメントを行うのか？
R2.8.7	亜細亜大学 令和 2 年度第 2 回全学	なぜ教育改善が必要なのか，学修成果を測

	FD・SD 研修会	定するのか？
R2.9.4	第 22 回 山形大学 基盤教育ワークショップ	茨城大学の遠隔授業から見えてきた授業の質を高めるいくつかの方法
R2.10.1	埼玉大学 FD/SD 研修会	計画を立てる，測る ーロジックモデルと指標による計画立案と進行管理ー
R2.11.6	会津大学短期大学部 FD 研修会	遠隔授業をきっかけにした授業改善・教育改善
R2.11.27	教育の質保証・質向上オンラインセミナー ～After コロナを見据えて今大学ができること～(株式会社朝日ネット)	教育の内部質保証・質向上のために IR ができること
R2.12.10	埼玉大学 FD/SD 研修会	教育の内部質保証のために実際にやるべきこと
R2.12.18	ＩＲｅｒ養成講座（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室,名古屋大学高等教育研究センター）	実務担当者の分析事例（演習）
R3.1.12	大学改革支援・学位授与機構 研究開発部研究会（第 10 回）	大学評価で何が変わったのか -内部質保証の理想と現実とは-

５．自主的に行った本学の教育改善の取組に関する報告

実施日	催し物名	演題
R3.3.5	継続的改善のための IR/IE セミナー E2：ロジックモデル＆指標策定演習［国立大学計画立案担当者編］（大学評価コンソーシアム）	指標の立て方・使い方ー事例・考え方・演習・妥当性ー
R3.3.22	継続的改善のための IR/IE セミナー 2021 R1：IR 実務担当者セッション（大学評価コンソーシアム）	新型コロナウイルス感染症の影響把握のための IR 活動を振り返って

○共通教育部門

(1) 初年次教育部会

本部会は，新入生必修科目である大学入門ゼミ，茨城学，情報処理の科目群を担当する。

・大学入門ゼミは，共通テキストをベースに各部局・学科独自のコンテンツを加え，それぞれの担当で運営されている。年１度の FD によって全体的な問題点等を確認している。

・茨城学は地域志向教育の入門科目と位置付けられるもので，当該年度においては新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により，急遽 Teams のライブイベントを利用した遠隔授業を余儀なくされたものの，ライブイベントの Q&A 機能を生かして，学生の意見を多く受け付け，それを学生・講師とシェアして講師のコメントをもらうことができた。学生には好評であった。

・情報処理の科目群については以下のとおりである。

○情報リテラシー相談室の開設（特色ある業務）

PC 必携化（BYOD）が令和元年度からいくつかの学部で実施されており，本年度からは全学部で実施された。本部門では，学生がトラブルなく PC を授業で利用できるように，昨年度から「情報リテラシー相談室」を設けている。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により，急遽 Teams のライブイベントを利用した遠隔授業を余儀なくされた授業が多かったが，その円滑な実施に貢献した。

○FD の実施

令和２年 12 月 25 日に情報リテラシーFD を実施した。まず，情報リテラシーについて，アンケート結果を確認した。新しいものの見方や知識・技能を獲得した実感がある学生が全体のほぼ 8 割を占める。また，授業の理解度は良好であった。全体の満足度も同様に良好であった。積極的に取り組めた学生が７割から９割以上いた。しかし予習・復習の時間については科目によって大きな差があった。将来役立つ課題を設定し，事前に提示すると良いことが指摘された。遠隔授業で十分な学修ができたかというアンケート結果はきわめて良好であったことから，各教員の努力により，高いレベルの授業が提供できたことが確認された。また，数理・AI・データサイエンス教育リテラシーレベル認定校への申請について，篠嶋部会長補佐より現状報告があり，今後申請を検討していくこととした。

(2) プラクティカル・イングリッシュ部会

○部門の活動（特色ある業務）

本年度は期せずして，すべての活動を通して，「感染防止対策をとりながらいかに効果的な語学授業を提供していくか」を模索する年度となった。教員により IT に関する知識のレベルも様々であり，特に初期は新しいツールの対応に苦慮するなど困難もあったが，徐々に全員が各々のノウハウを獲得していくことができた。結果として，多くの知見を得，対面授業が復活しても単に従来の授業の形に戻るのではなく状況によってより多くの選択肢や授業方法を選択できる教員集団に成長しつつある。

- **FD の実施**

例年非常勤教員を含めた全体の FD を年に２回，部会員を対象とした FD を年１回実施し，教

育効果の向上を図っていたが，本年度においてはコロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて，対面での全体 FD は中止の措置を取った。その代わりに以下の形態で３種類の FD を行った。

① 新規採用の非常勤講師に対しては年度頭に個々にミニ FD としてプログラム全体の理解，科目担当者との連絡および意見交換等の機会，そして遠隔授業のための情報提供を行った。

② 夏には PE の部会員を対象に，オンラインにて資料を共有，メールによるディスカッションという形で，前年度の授業アンケート結果からそれぞれの科目における課題を明らかにし，カリキュラム改善とプログラム全体の質的向上を検証考察する FD を行った。

③ 年度末には全体の FD を行った。今年度は特に遠隔授業のノウハウを共有することを重点目標と定めた。アンケート結果よりオンライン授業を行うに際して多くの工夫を実施し学生からも高い評価を受けている教員を選出し，その具体的な方法をまとめてもらい，資料を専任・非常勤教員全員で共有する，という形をとった。対面での集会は叶わなかったが，有益な情報を共有化できたことは意義深かった。

- **オンラインによる学習相談を行う機会の提供**

前年度までは各コースコーディネータによる学習相談の機会を設けていたが，本年度は感染防止対策として Teams 上で行う形をとり，引き続き実施することができた。

- **ニューズレターによる自律学習支援**

前年度に引き続き，英語学習についての適切な情報提供，学習意欲の喚起を目的として，ニューズレターの発行を行った。ポータルでの告知に加えて，各授業においても認知度を向上させる依頼を行った。今年度は特にコロナ禍において遠隔授業を受ける上での学生の不安を軽減するために内容を充実させた。

この自律学習支援の試みは，授業以外の時間の学生の自律的な学習こそ日本における学習の成否を決定づけるという言語学習観に基づくものである。

- **プレイスメントテスト・クラス配置作業などのオンラインでの実施による作業効率化**

クラスの配置のために入学時に行うプレイスメントテストは，従来は会場を用意しペーパーテストで実施していた。今年度は感染防止対策のために，オンラインで受検できるアルクネットアカデミーNEXT の模擬テストを利用することとし，共通教育 G と情報連携しながら，リモートワークにて配置までをスムーズに行うことができた。このことにより，今後も継続的にオンラインによる効率的なプレイスメントテスト実施が可能になった。

(3) 心と体の健康部会

１．コロナ禍における対応

（１）オンラインでのガイダンスおよびクラス分けの実施

例年，前期および後期受講者を曜日・講時毎に大体育館に集め，クラス分けを実施していたが，

コロナ禍において実施が不可能となった。そこで，教育支援課の協力の元，オンライン上で希望調査を行い，クラス分けを実施した。

（２）対面授業の実施許可が降りない中でも，学びを止めることなく授業を実施

コロナ禍において，対面授業の実施が中止となった。その中で，学びを止めることなく，学生の健康状態を維持する為，どのような形でも授業を実施すべきと判断し，その方法を模索した。結果，教科書を用いた座学と動画を独自で作成および配信（google）することにより，各自が自宅で実技を実施する方法を選択した。

これを実現する為，常勤講師が総力を上げて課題作成に取り組んだ。

・座学に関しては，教科書講義資料（ppt），出席確認および小テストの作成。

・動画に関しては，配信内容の検討および撮影，撮影した動画の編集，特定の受講生のみが視聴可能な動画の配信（３つの群から，選択する配置とした。１群：ストレッチング・マッサージ，２群：コーディネーション・ダンス，３群：トレーニング，合計 52 映像）。

・提出物のデジタル化（実技実施計画用プログラム一覧表，オンデマンド教材，学習カード，メンタルヘルスチェック表，ヘルスチェック表　等）

（３）合理的配慮が必要な学生への対応

クラス分けを行う際に「合理的配慮が必要な学生」は自主的に申し出ることになっており，すでに設定されている授業（コンディショニング）への移行等で対応していた。

これに加え，感染するリスクを考え，通学したくてもできない学生や様々な事情を抱えている学生，また，海外渡航の許可を得られない学生（合計 14 名）に対して，新規授業を立ち上げ，オンライン授業を実施した。

（４）「感染症」の受講者全員に対する授業の実施（前期および後期受講者対象：約 1,600 名）

例年，１年生対象の授業で「体力測定」を実施しているがコロナ禍においては実施ができなかった。その代替として「感染症」についての講義を全ての授業で行った。

講義の構成は，４つから成っており①感染症の基礎，②がんと感染症，③新型コロナウイルス感染症，④授業・大学生活を送る上での留意点に関する情報を学んだ。

身体活動を通じて，管理するのではなく，受講者の主体的な行動変容を目指し，指導した。

学生への配布資料には，以下の文章を記載し，配布している。

「感染症を知っていても，‘できなければ’意味がありません。一人ひとりの感染予防に対する自覚が肝心です。授業を通して適切な感染症対策をつけてください。」

２．授業改善に関する FD の実施（2020.9.4「身体活動」，2020.9.7「健康の科学」）

令和元（2019）年度後期の受講生アンケートを踏まえて，授業改善 FD を行った。

受講者アンケートからは，例年に引き続き「心と体の健康」の授業を通して，自分の「健康」の維持や向上を図ることの意味や価値を見出している姿が伺えた。

今回は，「対面授業」を実施していた時と変わらず「生活習慣記録表」を活用し，レポートを

課した。この課題により，学生は，自らの課題を可視化することができた。その効果から，自らの身体活動量の減少を自覚することができていた。それと同時に，学生は普段当たり前に通学してきた頃を思い出し，当たり前に歩数（身体活動量）を稼げていたことに気づいたようである。その歩数（身体活動量）を確保する為には，積極的に身体活動量を確保する必要があることを実感した姿がみられた。

3．布施泰子先生（保健管理センター長および，健康の科学担当者）による授業の取組に関する紹介（2020.12.11　心と体の健康部会構成員，非常勤講師，学務課担当者等 11 名）

「健康の科学」では，担当する先生によって特徴的な授業が展開されている。現在「健康の科学」は，選択授業として開講している。しかし，「健康の科学」で展開されている授業内容は，大学生活を過ごす上で学生に大切な内容が多く盛り込まれている。そこで，「身体活動」を担当する教員にも共有しておくことが，学生の深い学びに繋がると考え実施した。

今回は，ご自身の授業で「自殺予防」について取り上げている布施先生に情報提供を依頼した。数年前に茨城大学の在学生が命を落とす事故が起きた。この状況を，部会としてどのように考えていくかべきか，考えた末に開催した FD であった。

布施先生の授業では，自殺予防のための教育プログラム「ＣＡＭＰＡＳ」の紹介がされていた。このプログラムは，主に３つのポイント「自分の心の状態を理解する」，「自分の心を健康に保つ方法を知る」，「大切な人の危機に気づき，対応できる」で構成されており，メンタルヘルスの知識と正しい理解に加え，自殺予防と危機介入に関しても具体的にまとめられていた。

今回の FD を通じて，授業担当者が日頃行なっている行動「声をかけ，話を聴く（傾聴する）」の重要性が明らかになった。これにより，その異変に気づくことができれば「専門家に繋げる」あるいは「見守る」ことへと繋がり，結果として事故を未然に防ぐことができると考えられた。

以上のことから，「身体活動」が必修授業として存在する意味を再確認することができた。

(4) 自然・環境・科学部会（科学の基礎，自然・環境と人間）

〇部門の活動（特色ある業務）

1）プレスメントテストの作成，実施支援，統一授業のクラス分け

工学部入学者を対象とした必修基礎教育科目科学の基礎「微積分学」「力と運動」のクラス分けのためのプレスメントテストとそのガイダンス支援のための説明書の作成と，その採点，及び採点結果をもとにしたクラス分けを行った(「微積分学」担当：小西，「力と運動」担当：山崎)。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため,従来の対面形式ではなくオンライン形式としたため，e ラーニングシステムに対応できるようにした。

2）統一授業　基礎教育科目　科学の基礎「微積分学」「力と運動」について

統一授業　基礎教育科目　科学の基礎「微積分学」「力と運動」について以下のような活動を行った(「微積分学」担当：小西，「力と運動」担当：山崎)

1．クラスの打ち合わせ会の運営

2. ｅラーニング教材の作成と改訂
3. 教科書の作成と改訂(編集委員会の立ち上げ，諸設定の検討を含む)
4. 期末試験問題の作成支援
5. 期末試験問題の全体および問題別の統計と全体成績の統計
6. オンライン形式に対応した授業ノートとスライドの作成と改訂(力と運動のみ．2021 年度開講授業用だが，作成は 2020 年度中)
7. 過去の期末問題の整理と統計
8. on demand 動画教材の作成(2021 年度開講授業用だが，作成は 2020 年度中)

3）授業改善に関する FD の実施(2020 年 9 月 9 日-16 日，2021 年 2 月 2 日-8 日)
授業アンケート， 教員評価および GPA の総合的分析結果を踏まえて授業改善のための FD を on demand 形式で開催した。 授業アンケート，教員評価および GPA の結果を総合的に分析した結果，対象となった授業に関して時間外学習以外においては，改善を強く促すべきものがなかった。時間外学習に関しては，e-ラーニングシステムを利用した宿題の実施などによる予習・復習や，グループによる時間外学修やプレゼンテーション準備などを通して，授業外の学修時間を確保する工夫は行われたが，一部の科目においての平均実時間は目標時間に達していないものが見られた。ただし，アンケートによる理解度や達成度，GPA を総合的に分析すると，時間外学習の実効果は目標時間分に相当すると判断できる。
FD の on demand 形式については， 前期開催分は，参加者の約 73% (24/33)， 後期開催分は参加者の約 76%(22/29)が，対面式より on demand 形式が良いと回答しており， 今後も on demand 形式を継続して問題ないと思われる。

(5) 多文化理解部会（異文化コミュニケーション，ヒューマニティーズ，パフォーマンス＆アート）
■異文化コミュニケーション（初修外国語）
異文化コミュニケーション（初修外国語）においては例年と同じく，ドイツ語，フランス語，中国語，朝鮮語，スペイン語を初歩から学ぶ「Ⅰ」（前学期・週 2 回）と「入門」（後学期・週 1 回）が開講された。また，前学期「Ⅰ」の学修を踏まえてその先を学ぶ「Ⅱ」が後学期に開講（週 2 回）された。コロナ禍によりオンライン授業を余儀なくされたが，各担当教員の努力により，科目ガイドラインに規定された学修を提供することができた。
令和 2 年 7 月と令和 3 年 2 月には，初修外国語を担当する専任教員による FD が実施され，特に後者ではオンライン授業の成果と課題を教員間で共有した。履修学生の授業外学修時間はおおむね十分と思われるが，学生の自発的な学修をさらに促進すべく，たゆまず工夫を続けることとなった。
■異文化コミュニケーション（初修外国語以外）
1）活動（特色ある業務）に関して
以下の短期海外研修を異文化コミュニケーション科目「多文化共生」として開講した。

・「短期海外研修Ⅰ，Ⅱ（韓国オンライン）」（ご担当：安龍洙先生）
・「短期海外研修Ⅰ，Ⅱ（スペインオンライン）」（ご担当：池田庸子先生）
・「短期海外研修Ⅰ，Ⅱ（ブルネイオンライン）」（ご担当：瀬尾匡輝先生）
・「短期海外研修Ⅰ，Ⅱ（オーストラリアオンライン）」（ご担当：青木香代子先生）
・「短期海外研修Ⅰ，Ⅱ（マレーシアオンライン）」（ご担当：瀬尾匡輝先生）
・「短期海外研修Ⅰ，Ⅱ（ベトナムオンライン）」（ご担当：瀬尾匡輝先生）

■ヒューマニティーズ

ヒューマニティーズにおいては，思想・文学，歴史・考古学，人間科学，メディア文化に関して多彩な授業を提供した。

ヒューマニティーズを担当する教員を対象にFDを実施して，課題を共有するとともに，その解決に向けた方策について議論し，改善に努めている。とりわけ，コロナ禍でのオンライン授業の導入については，利便性の向上を高く評価する一方，受講生の反応が分かりづらいことや学生の負担が増加しやすいことなど課題も見られることから，その利点と問題点について情報を収集する必要性を認識している。

■パフォーマンス＆アート

パフォーマンス＆アートにおいては，比較的少人数授業によりユニークなコンテンツを提供している。例えば音楽文化では独唱やオペラ，美術文化では仮名の書，絵画に親しむ授業，ダンス・演劇文化では水戸芸術館で学芸員から直接学べる授業が開設された。

令和 2 年度には前期後期それぞれの担当者がオンラインでの問題点などを提示し，その解決策を話し合うなど定期的に見直しを行った。またガイドラインの趣旨と授業内容との関連を同じ分野内で相互にチェックするなどして充実を図った。オンラインでの開講を経験したことによって，より一層少人数での対面でなければ得られない表現活動の理解について確認することが出来た。

(6) 社会と生活部会（グローバル化と人間社会，ライフデザイン）

■グローバル化と人間社会

「グローバル化と人間社会」では国際社会と地域社会に対する理解を深め，社会を対象とする諸科学の基礎学力や課題解決能力を育むことにより，意欲的かつ自律的な人材を育てることに重点を置く。当該年度の FD においては，科目すべてについて検討し，学生アンケート結果により，基本計画を十分に達成したことを確認した。一方，授業難度の平準化を図るにあたって，現状の問題点を確認した。特に日本国憲法において，同一科目でありながら成績分布の差が顕著であることが認識された。その解決に向け，前後期ともに，日本国憲法の全先生に，部会としての成績評価の考え方をお伝えすることとした。すなわち，本科目「グローバル化と人間社会」の成績分布の平均は，A+３０％，A３５％，B２０％，C１０％，D と欠５％程度であり，この分布に近づけるようご留意いただくことをお伝えした。また，日本国憲法以外の科目においても，成績評価において，上記の点にご留意いただくこととした。

■ライフデザイン

開講２年目となる「ライフデザイン（１単位・３年次必修)」を学部と連携して開催した。社会に出て活躍できる能力を身に付け，働く意義を理解し，自らの将来に思いをめぐらし，今後の主

体的な生き方を設計できる能力の基礎をつくるカリキュラムを学生全員が履修する。

授業のオンライン化にともない，学生が自らの進路を考えるための基盤づくりを再検討した。従来からの対面形式による「活躍する職業人」の講話から，「職業を知る（業界研究・企業研究）」を学生自身がオンラインで調べる内容に変更した。大学独自のシステム「茨大 career Navi」を利用して，遠隔方式で「業界・企業を知る」方法論を身に着ける内容である。就職活動についても学生が孤立化し不安を抱える状況下の中，本学キャリアセンターからの情報及び「茨大 career Navi」の他機能（相談予約やガイダンス参加など）利用を理解し，支援を得るための準備とした。

身近な社会を知る１年次の「茨城学（必修）」，１年次，２年次を対象とした「仕事を考える（選択）」，「インターンシップ実習（1 単位・選択）」，日立キャンパス開講の「キャリアデザイン論（1 単位・選択）」と合わせ，大学での学びを活かし，キャリアを考えるための授業をキャリア教育体系に位置付けた。

(7) グローバル英語プログラム部会

〇部門の活動（特色ある業務）

中期目標達成のための方策として，GEP 運営上の問題点とその解決策について GEP 専門部会会議を通して協議してきた。中期目標の達成のための施策として（１）学習者のニーズ分析によるシラバス改善（２）受講学生の英語力の二極化による授業難度の設定検討（３）インセンティブ強化の検討をしてきた。また，GEP の質保証として（１）GEP 授業担当者の確保と授業改善（２）令和３年度用シラバスチェック（３）「GEP プログラム科目概要・補足説明」の英語版を授業担当者に配布してきた。

中期計画の目標は，GEP 受講者数が 2 年次生 320 名（学年 1600 名の 20%），3 年次生 320 名（学年 1600 名の 20%）である。前提となる TOEIC550 点以上取得者数は，H30；267 名，R1；302 名，R2；546 名と増加傾向を辿っているのに対して，GEP 受講学生数合計は H30 年度が 87 名（導入 1 年目で 2 年生のみ），R1 年度が 252 名（2 年次生，3 年次生）と全体の 7.9%とまだまだ低迷している。履修促進の方策としては，GEP に対する理解，認知度がまだ高いとは言えず，内的（シラバス精査），また外的（PR 活動）アプローチを用いる必要があげられる。

１．GEP 履修促進の方策（GEP の現状と改善点）

（１）学習者のニーズ分析によるシラバス改善

第３・4 クォーター終了時に GEP 受講生を対象として Dream Campus 上でアンケートを実施した。主な内容は GEP 科目履修の動機，満足度，要望等。集計・分析は次年度とする。

（２）受講学生の英語力の二極化による授業難度の設定検討

プログラムの導入により受講学生の英語力の二極化により授業難度の設定に支障をきたしていることが学生のアンケート結果及び授業担当者から問題点として挙げられた。そこで GEP 科目の中で，例えば TOEIC 740 点以上の上級（Advanced）レベルとそれ以下の中級（Intermediate）レベルを設定するという対応策について協議したが，現状での少ない GEP 科目受講希望者をさらに限定することになるため，現段階では授業運営の中で多様な学生の英語力に対応する施策が求めることとなった。

（３）インセンティブ強化の検討

GEP 受講意欲促進の鍵は，授業内容への関心とインセンティブにある。インセンティブという観点では，例えば農学部の AIMS プログラム参加のように，各学部での GEP 受講メリットが明確になると効果的である。更に，他大学，他学部を参考にしながら留学プログラムの充実を図る（例：千葉大学の全員留学制度や，茨大農学部国際食産業コース全員の留学制度）。

２．GEP の質保証

GEP 各科目のシラバス，授業内容等については GEP ガイドラインに基づき授業担当者個人に任されている。質保証という点でシラバスチェックによる現状把握が必要であるため，令和元年度以来 GEP 部会によるシラバスチェックを実施してきた。評価方法については,GEP の評価基準を設けて次年度の評価の適正化に努めることとする。またネイティブの担当者も多いことから，ガイドラインの英語版を作成し，GEP 各授業の質的向上に努めることとした。

（１）GEP 授業担当者の確保と授業改善

GEP 授業担当者について，水戸地区は人文社会科学部教員が中心であるが，阿見地区，日立地区とも非常勤に頼っている。まず，学生のニーズに合った授業を行える担当者の確保が重要である。プログラム自体の訴求力を上げるために，各科目で改善を図り，学生にとって意義あるものを提供することが重要である。AE IIIC は，GEP へ段階的な準備を行うブリッジ的存在になるように，授業内容の改善や差別化を継続して行う必要がある。

（２）令和３年度用シラバスチェック

クオリティコントロールの観点から，令和３年度に開講する GEP 科目のシラバスの形式及び内容についての確認作業を下記の通り実施した。

GEP 科目シラバス	担当部会員
TOEIC and TOEFL 4 科目，English for Socializing 2 科目，Studies in Particular Fields 1 科目	小林
Reading & Discussion 4 科目，Studying Abroad 2 科目	岡崎
Studies in Particular Fields 1 科目，Studies in Contemporary Japan 1 科目，Presentation in English 3 科目	瀬尾
Bilingualism ２科目，Studies in Particular Fields 4 科目	館
Academic Speaking 3 科目，Academic Writing 3 科目	菊池

（３）「GEP プログラム科目概要・補足説明」の英語版の配布

GEP 科目の質的な向上を図るため，英語のネイティブスピーカー教員用に，各部会員が分担して作成した「GEP プログラム科目概要・補足説明」の英訳を授業担当者に配布し，GEP 授業設計の共通認識と授業の質の向上を図った。

(8) 日本語教育プログラム部会

(1) 活動（特色ある業務）に関して

外国語としての日本語を指導するために必要な専門知識と基礎能力の習得を目的としたプログラムである。人文社会科学部と教育学部の学生を対象としている。人文社会科学部のサブメジャーになっている。
2020 年度は前学期 1 名，後学期 14 名が本プログラムを修了した。
◎2020 年度は新型コロナウィルスの感染拡大により，世界中の大学でオンラインによる授業が展開されたことから，日本語教育プログラムの多くの必修科目で海外の大学との授業交流を行った。
【日本語教授法 I】
10～11 月はミシガン州立大学（アメリカ）の初級日本語学習者とオンラインによる交流を計 5 回行った。学生たちは初回の交流で行ったニーズ・レディネス調査をもとに，ミシガン州立大学の学生に向けた日本語コミュニケーション活動を考え，実践した。1 月には，ハイフォン大学（ベトナム）との授業交流を行った。その授業交流では，【日本語教授法 I】の受講生がハイフォン大学の日本語授業に交代で参加し，模擬授業を行った。両活動には 16 名の学生が参加した。
【日本語教授法Ⅱ】
6 月 15 日からの 4 週間はペンシルバニア州立大学（アメリカ）の日本語 1 のオンライン授業に受講生が数名ずつ参加して授業観察を行い，その後の日本語 2 のクラスでは 7 月 14 日から約４週間，茨大生 25 名が各自 15 分の模擬授業を行った。
【日本語教授法演習】
ウィスコンシン大学スペリオル校（アメリカ），ペンシルバニア州立大学（アメリカ），アイオワ大学（アメリカ），ニューカッスル大学（イギリス），インドネシア教育大学（インドネシア），マレーシア科学大学（マレーシア），仁済大学（韓国）の海外協定校の協力を得て，オンラインによる日本語教育実習を実施し，14 名の実習生が参加した。
【ベトナム・日本語教育短期海外研修（オンライン）】
参加学生は，3 月 1 日～6 日の 6 日間，毎日 11 時から 14 時半，15 時半から 17 時に ZOOM にアクセスし，ハイフォン大学が提供するプログラムに参加した。 そのプログラムは，ハイフォン大学及び現地の中学校，高校の日本語の授業の見学・参加のほか，現地の先生による日本語教育事情に関するレクチャー，ハイフォン市内の日本語学校・日系企業への訪問，アオザイ試着体験，ベトナムコーヒーの淹れ方紹介等の文化紹介，車窓からの市内ツアー，学生によるランチ紹介など，盛りだくさんの内容であった。研修には 3 名の学生が参加した。
◎2020 年度は，以下の通りオンラインによる海外協定校との授業交流を行った。
・【日本語教授法 II】ペンシルバニア州立大学との授業交流：5 月 18 日
・【日本語教授法 II】ペンシルバニア州立大学との授業交流：7 月 29 日
・【日本語教授法 II】ペンシルバニア州立大学との授業交流：6 月 15 日～8 月 3 日
・【日本語教授法 I】アメリカ・ミシガン州立大学の学生との交流（1 回目）：10 月 12 日
・【日本語教授法 I】アメリカ・ミシガン州立大学の学生との交流（2 回目）：10 月 26 日
・【日本語教授法 I】ベトナム・ハイフォン大学の学生との Facebook を介した交流：11 月～1 月
・【日本語教授法 I】アメリカ・ミシガン州立大学の学生との交流（3 回目）：11 月 9 日
・【日本語教授法 I】アメリカ・ミシガン州立大学の学生との交流（4 回目）：11 月 23 日
・ニューサウスウェールズ大学（UNSW）の学生とのオンライン交流：10 月初旬～11 月下旬
・【日本語教授法 I】アメリカ・ミシガン州立大学の学生との交流（5 回目）：12 月 7 日

・【日本語教授法Ⅰ】　ベトナム・ハイフォン大学の日本語教員をゲストに招いた交流：12 月 18 日
・【日本語教授法演習】：9 月～12 月
・【日本語教授法Ⅰ】ベトナム・ハイフォン大学との交流：1 月 13 日，14 日，15 日，20 日，21 日，22 日

(9) 地域志向教育プログラム部会

１）部門の活動

①「茨城学」の推進

６年目を迎えた全学生必修の「茨城学」については，全学教育機構初年時教育部会での運営が４年目となった。常勤教員 1 名・コーディネーター1 名の体制となり，業務・工程の見直しを図りつつ，授業の質を担保すべく取り組んだ。多様な分野の教員が茨城の現状と課題，課題解決の取組を紹介し，学生とともに現在と未来を見据えた課題への解決策を考察した。学生アンケートの評価は良好であり，毎回教員が変わること，400 人規模の大規模授業であることを考えあわせると，達成度は高いものと思われる。特に当該年度においては新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により，急遽 Teams のライブイベントを利用した遠隔授業を余儀なくされたものの，ライブイベントの Q&A 機能を生かして，学生の意見を多く受け付け，それを学生・講師とシェアして講師のコメントをもらうことができた。学生には好評であった。

②「５学部混合地域 PBL」の実施

全学共通科目の「５学部混合地域 PBL」は，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳのうち Ⅰ，Ⅱ，Ⅲが開講された。５学部混合地域 PBL-Ⅳ，地域協創 PBL については，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により不開講とせざるを得なかった。５学部混合地域 PBL-Ⅲ（１年生以上対象，連携先： 茨城県，常陸大宮市）では早期の開講を決断し，コロナ禍にあっても十分な感染対策をしたうえで現地での授業を展開したこともあり学生の満足度が高かった。５学部混合地域 PBL-Ⅰ（１年生以上対象，連携先：ひたちなかまちづくり株式会社ほか），　５学部混合地域 PBL-Ⅱ（２年生以上対象，連携先：株式会社サザコーヒー）に関しては，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）蔓延防止のため延期を決断し，年度末の実施となった。いずれも現地での活動を縮小して本学水戸キャンパスでプレゼンテーション発表を行った。学生満足度は概して高かったが，もう少し現地で活動したかったとの声もあった。

２）地域志向教育プログラムの修了生

平成 27 年度から開始された本プログラムも６年が経過し，令和２年度には 149 名のプログラム修了生を輩出した。

(10) 地域協創人材プログラム部会

１）部門の活動（特色ある業務活動）

①「茨城学」の COC プラス参加校への配信

COC プラス事業大学間連携地域志向科目である茨城大学全学教育機構基盤教育科目「茨城学」の COC プラス参加校への配信は，本年度は毎回の講師に作成いただいた音声入りパワーポイントファイルを配付し，運営を各参加校の担当教員が行った。

令和元年度からは COC プラス参加校からの講師の登壇が開始された。初回となる令和元年度は茨城県立医療大学の講師が「茨城の医療について考える」を，また令和２年度は茨城キリスト教大学の講師が「地域の子育て事情」をテーマに授業を実施した。令和３年度は常磐大学が「茨城の防災」について，そして令和４年度は茨城工業高等専門学校が「茨城の環境問題」について講義を１コマ担当することが決定している。

３）地域協創人材教育プログラムの認定

平成 28 年度から開始した本プログラムも 6 年が経過し，令和元年度は初めての「地域協創人材」の認定者を 6 名輩出することができた。令和２年度の認定者は本学で 50 名であり，プログラム修了者の大幅な増加がみられた。

(11) AIMS プログラム部会

1) AIMS 部門の活動

AIMS(Asian International Mobility for Students)プログラムとは，インドネシア，タイ，マレーシア，フィリピン，ベトナム，ブルネイ・ダルサラーム，シンガポール，韓国および日本の 9 か国（2020 年現在）が加盟する国際共同教育推進プログラムであり，日本からは茨城大学を含む 11 大学が参加している。AIMS の目的は，「ASEAN 共同体」の持続的発展に資する 10 分野（農学，工学，食糧科学技術，経済学，国際ビジネス，言語・文化，観光科学，環境管理科学，生物多様性，海洋学）の学生交流を促進し，国際的な視野をもった人材を育成することである。

茨城大学は，2013 年度大学の世界展開力強化事業により採択された「ASEAN 発，環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成」(幹事校：東京農工大学）に対応するため，AIMS プログラム科目を整備し，環境保全・経済発展における課題解決に向けた国際人材の育成に取り組んでいる。

本学は，地域社会の持続的発展の基礎となる安全な地域づくりと環境保全に主眼をおいた「地域サステイナビリティ」をテーマとして，受入学生向けに「環境変動適応・防災論」や「環境共生論」，「環境保全型農業論」など 11 科目 16 単位の AIMS プログラム科目を開講している。令和２年度は新型コロナ感染症拡大の影響により，オンライン交換留学生のみの受け入れとなったため，講義科目 5 科目（環境変動適応論，環境共生論，環境保全型農業論，地域サステイナビリティ学特別講義 I，地域サステイナビリティ学特別講義 II）のみの遠隔開講となった。実地留学を伴わない学生受け入れとなり，教育効果の担保や学習意欲の持続が課題と考えられたが，独自に実施した授業アンケート結果によれば「母国の持続可能な発展のために意欲がわいた」という回答は例年よりも概ね高評価であり，遠隔開講であっても学生の主体性や意

欲を引き出すことができた。

2）AIMS 関連イベントの報告

令和２年度は交換留学生の来日が実現しなかったため，例年実施していた地域住民との交流イベント等，地元自治体の国際交流組織との連携事業は一切実施されなかった。授業科目の遠隔対応に時間を費やしたこともあり，授業外での日本人学生との交流も促進することができなかった。本学学生の“世界の俯瞰的理解”や，研究交流を通した“課題解決能力・コミュニケーション力”の強化のため，今後，授業外でのオンライン交流会の実施などが望まれる。

しかしながら，独自に実施した授業アンケートにおいて，ほとんどの講義科目で半数以上の学生が「問題解決能力の向上」に“大変有意義であった”と回答しており，オンラインでの発表やグループワークを取り入れた活発な授業内容とすることができた。一方，一部科目では学習意欲の顕著な低下がみられ，特に PBL 要素が強い部分では，遠隔での実施方法について担当教員による工夫が必要であることが明らかとなった。

以上により，茨城大学として“環境と調和した多文化共生社会の持続的発展”の実現に貢献する国際教育を展開できることが示された。今後，グローバル教育センターや各学部との連携を深め，多様な国際教育機会を創出していくことで，アフター・コロナ，あるいはウィズ・コロナの時代に向けて，オンラインおよび実地を組み合わせた複層的な教育プログラムの展開が期待される。

【AIMS 受入学生による授業評価結果】

Course Title:	Adaptation to Environmental Change & Disaster Risk				Environmental & Symbiotic Sciences				Environmental Conservation Agriculture				Special Lecture on Regional Sustainability Science I				Special Lecture on Regional Sustainability Science II			
Year:	2020	2019	2018		2020	2019	2018		2020	2019	2018		2020	2019	2018		2020	2019	2018	
(1) **(Motivation for sustainable development)** The course increased my motivation to work for sustainable development of my country and ASEAN.	2.8	2.8	2.7	0.1	2.8	2.4	2.8	0.2	2.9	2.6	2.7	0.3	2.7	2.8	2.5	0.0	2.7	2.6	2.5	0.2
(2) **(Basic academic skills and logical thinking)** The course helped me to improve basic academic skills and logical thinking ability.	2.4	2.9	2.7	-0.4	2.8	2.7	2.7	0.1	2.9	2.6	2.5	0.4	2.6	3.0	2.4	-0.1	2.4	2.6	2.3	0.0
(3) **(Problem-solving abilities)** The course developed my problem-solving abilities.	2.0	2.5	2.4	-0.5	2.3	2.5	2.5	-0.2	2.7	2.5	2.4	0.3	2.0	2.7	2.2	-0.5	2.3	2.4	2.2	0.0
(4) **(Specialized knowledge)** The course helped me to acquire advanced specialized knowledge.	2.4	2.7	2.6	-0.2	2.9	2.1	2.8	0.4	2.6	2.3	2.6	0.1	2.7	2.8	2.6	0.0	2.7	2.4	2.5	0.2
(5) **(Scientific research skills)** The course helped me to train my scientific research skills.	2.4	2.2	2.4	0.1	2.8	2.2	2.6	0.4	2.8	2.2	2.4	0.5	2.7	2.6	2.4	0.2	3.0	2.3	2.3	0.7
(6) **(Ethics and communication)** The course helped me to develop a sense of responsibility for realizing sustainability.	2.4	2.8	2.7	-0.3	2.8	2.3	2.6	0.4	2.9	2.3	2.7	0.4	2.5	2.9	2.5	-0.2	2.6	2.6	2.5	0.0
(7) **(Content: Text)** Slides not overcrowded, well outlined/organized.	1.8	2.2	2.6	-0.6	2.4	2.2	2.6	0.0	2.5	2.6	2.4	0.0	2.5	2.7	2.3	0.0	2.4	2.6	2.3	0.0
(8) **(Content: Language)** Upheld and maintained University English standards.	2.4	2.6	2.6	-0.2	2.6	2.2	2.8	0.1	2.6	2.2	2.6	0.2	2.5	2.5	2.5	0.0	2.6	2.2	2.5	0.2
(9) **(Encourage participation)** The course instructor(s) encouraged students to express their own ideas in the class.	2.8	2.8	2.6	0.1	2.8	2.6	2.8	0.1	2.9	2.8	2.6	0.2	2.2	2.7	2.5	-0.4	2.1	2.6	2.7	-0.5
(10) **(Respect for others)** The course instructor(s) encouraged respect for different opinions and experiences in the class.	2.8	2.9	2.8	0.0	2.9	2.8	2.8	0.1	2.9	2.8	2.8	0.1	2.6	3.0	2.7	-0.2	2.9	2.7	2.7	0.2
(11) **(Difficulty of contents)** The level of the course contents was (A. too high/ B. high/ C. low/ D. too low).	2.0	2.6	2.0	-0.3	2.0	2.2	2.3	-0.2	1.8	2.7	2.1	-0.6	1.8	2.3	2.3	-0.5	2.9	2.2	2.3	0.6

※過去 3 年間の評価係数（3 点満点）および遠隔（2020）と実地対面（2019-2018 平均）との差

(12) 大学院共通科目部会

○「大学院共通科目部会」の活動

・大学院共通科目実施要綱を令和 2 年 7 月 16 日の共通教育部門会議において審議了承した。その中で科目群を I:横断型基盤科目，II:地域サステイナビリティ科目の 2 群に分け，大学院共通科目の役割を規定した。また，遠隔授業（VCS）の運営方法についても規定した。

・上記の大学院共通科目の役割に対応するために，科目の見直しを行い，茨城大学院共通科目規程を一部改正した。

・令和元年度前期・令和２年度後期開講の科目について FD 活動を行い，科目運営が円滑になされていることを確認した。

(13) 数理・情報・データサイエンス部会

○部門の活動（特色ある業務）

SDGs や超スマート社会（Society5.0），第 4 次産業革命など，社会変化が激しく予測不可能な時代において，数理・データサイエンス教育が未来社会を開くと期待されている。本専門部会では，AI・データサイエンスと社会の関りを学ぶことを目的に，「AI・データサイエンス入門」を 3Q，4Q にて開講している。全 8 回のオムニバス形式で実施し，部会のメンバーである IT 基盤センターおよび工学部，全学教育機構の教員が担当している。

また，当該年度では「AI・データサイエンス基礎演習」を 4Q に本格開講した。この科目は，AI・データサイエンスの仕組みとして技術的な基礎を演習にて学ぶことを目的とし，教員 2 名（機構，IT 基盤センター），TA（1 名）にて BYOD 科目として全 8 回で実施した。前半 4 回ではデータサイエンスに関する演習，後半 4 回では深層学習の基礎としてのニューラルネットワークに関する演習を行った。

○学生支援部門

１． バリアフリー推進室関連

① 学生相談件数

バリアフリー推進室カウンセリング件数は，コロナ禍での入構制限などにより減少したが，オンラインを活用した面談等の充実を図ることで対応することができた。

バリアフリー推進室キャンパス別・相談件数	区分	水戸	日立	阿見	計
	延べ人数（名）	1103	315	271	1689
	実人数（名）	120	52	43	215

※ 過去相談件数との比較

2019 年度（水戸・日立・阿見 合計）：延べ人数 2226 名　実人数 305 名

② 授業等における合理的配慮手続き

・配慮に向けての相談及び実際の手続き等を行った人数　22 名

・これらの学生が受講する各授業の配慮内容検討と各部局との適切な配慮の調整等をコーディネートした。

③ 2021 年度入試における障害等のある入学志願者の事前相談

・受験上等配慮人数 実人数 13 名

・申請のあったこれら受験者の適切な配慮について，受験者とのやり取り，当該部局との適切な配慮の調整等を行った。

④ ピアサポーターの育成

2018 年度から学内における専門ピアサポーター認定制度を整備し，研修や認定試験合格後に全学教育機構長による認定を行っている。

1）専門ピアサポーター認定学生数　17 名（院生１名含む）

2）専門ピアサポーター養成講座（研修会）開講及び認定試験実施：計 20 回

⑤ アクセシビリティリーダーの育成

多様な可能性を開拓する社会の構築推進をしていくために，必要なアクセシビリティに関する知識・技術・経験とコーディネート能力をもった人材を輩出することを目的とした，アクセシビリティリーダーの育成のための体制整備等を行っている。

2020 年度は，2 級アクセシビリティリーダー認定試験（アクセシビリティリーダー育成協議会主催）に 16 名（院生 1 名含む）の合格者を輩出した。

⑥ 障害のある学生を対象とした自主学習室の整備

2017 年度に開設し，試験的に運用していた主に発達障害や精神障害のある学生の学習や休息のスペースである自主学習室（やすらぎルーム，水戸キャンパス共通教育棟 1 号館 131 室）について，2018 年度より運用を本格始動し，2020 年度も一定の需要があった。

※　2020 年度利用学生数　延べ人数　20 名

２．　キャリアセンター関連

１）令和 3 年 3 月卒業生の進路状況

・令和 2 年度における学部卒の就職・進学率は 95.4%（前年度　95.1%），大学院卒では 93.8%（前年度 90.7%）となっており，例年と同様の率で推移した。

２）令和 3 年 3 月卒業生および令和 4 年 3 月卒業予定学生の動向及び支援

（資料２－Ｃ－０１：茨城大学水戸地区合同企業 WEB 説明会）

（資料２－Ｃ－０２：茨大キャリアセンターMondayLIVE）

（資料２－Ｃ－０３：就活継続セミナー）

・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行下において，就職支援についても新たな対応が必要となった。（令和 3 年 3 月の合同企業説明会はオンライン形式で実施など）

・遠隔授業及び入構規制により，就職活動などに不安を抱える学生に対し，新たな支援（遠隔実施のため 3 キャンパス学生参加可）として，キャリア相談の遠隔化（Web，電話）及び予約制の相談に加え，事前予約不要のフリー相談を新設し，学生の利便性向上を図った。

・就職ガイダンスを Web（Teams）で実施（※昼休み時間帯に複数回ライブ配信）し，緊急事態宣言解除後の 6 月以降は「就活リスタート講座（履歴書・ES 対策，企業研究，面接対策）」「オンライングループディスカッション・面接練習会」「就活継続セミナー」などを複数回実施した。

※茨大キャリアセンターMondayLIVE を開催。新型コロナウイルス感染症の影響で孤立しがちな就活生に向け「つながり」を感じてもらうことを目的として毎週月曜日の昼休みに Teams を使用し 15 分間のライブ放送を実施した。

【茨大キャリアセンター Monday LIVE の様子】

・公務員からの進路変更者や就職活動を継続している学生への支援として，カウンセラーが継続的に支援するオーダーメイドサポートを実施し，応募書類の添削や模擬面接，就職活動の進め方の相談など，それぞれの学生のニーズや悩み，課題に寄り添い，個別性を重視した対応を行った。

３）キャリアセンターの取組について
・キャリアセンターでは就職支援に加え，学生のライフデザイン形成などへの支援を行っている。
・日立キャンパス(工学部)及び阿見キャンパス(農学部)でも，就職相談コーナーの支援を行っている。

① 就職ガイダンス　※全てオンライン開催
（資料２－Ｃ－０４：就職ガイダンス実績）
（資料２－Ｃ－０５：就職ガイダンス実施日程）
・「インターンシップ直前対策」「職務適性テスト」「自己分析講座」「面接対策講座」など，年間を通して就職活動の時期に合わせた様々な就職ガイダンスを開催した。
・留学生向けの就職ガイダンスを開催した。
・各業界の企業を招く「業界・企業研究会」，公的な仕事を理解するための「国家・地方行政機関等業務説明会」，実践的な採用試験対策講座として「グループディスカッション対策講座」「個人面接練習会」などを定期の就職ガイダンスとは別に開催した。

② キャリア教育
（資料２－Ｃ－０６：ライフデザイン・シラバス）
・学生が自身の個性と仕事を理解し，主体的に進路を選択するためのキャリア教育を行っている。
　1 年次生には地域志向科目の「茨城学」
　1～2 年次生には「仕事を考える」
　3 年次生には必修授業科目「ライフデザイン」を学部ごとに開講。

③キャリア相談　※キャリア相談の遠隔化（Web，電話）で対応
・キャリアセンターや工・農学部のキャリア相談コーナーでは，キャリアカウンセラー及び企業の人事経験者により，学生一人ひとりに合わせたきめ細かな指導や相談を行っている。
・相談内容は，進路，就職活動に関する悩み事相談，エントリーシートの添削，模擬面接の実施など，就職活動中の学生に限らず，1・2 年次生も気軽に相談できるようになっている。障害を持つ学生への情報提供や支援も行っている。

※2020 年度（延べ人数：水戸 1938 人，日立 1073 人，阿見 189 人）

④インターンシップ
・企業，団体やその仕事内容を理解することは，進路を決定する上でとても重要である。キャリアセンターでは，企業・団体の中で研修生として働くことができるインターンシップへの参加を推奨している。
・インターンシップのための「業界研究講座」「マナー講座」などの事前・事後指導など，学生がインターンシップに踏み出すためのサポートを充実させている。

・令和２年度はコロナ禍の影響もあり減少した。

⑤求人票，就職ガイダンス，インターンシップ等各種情報の発信
・学生は情報配信システム「茨大キャリアナビ」を使用し，パソコンやスマートフォンを使って企業からの求人情報や，キャリアセンターからの案内などを見ることができる。
・求人については，県内外の企業から本学生に向けた求人を閲覧できる。（年間約２万３千件）

⑥主な学内イベント
（資料２－Ｃ－０７：地方行政機関等業務説明会案内）
・大学主催学内合同企業説明会（Web で実施）
2019 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止したが，2020 年度は，水戸・日立地区で開催した。　※別途「茨大生限定の WEB 個別企業説明会」も実施

・業界・企業研究会
主に次年度卒業予定者を対象として，キャリア教育の一環として，早くから業界や企業，仕事の内容を知る機会の提供を目的に行っている。企業の担当者を学内に招き，業界・企業の研究を行うイベント。
・国家・地方行政機関等業務説明会
公務員を志望する学生を対象として，国及び地方行政機関や特殊法人など，約 30 団体が参加し，業務説明を行うイベント（2 月に開催）。

３．　学長と学生の懇談会 主催　（資料２－Ｃ－０８：2020 年度前学期 学長と学生の懇談会（実施報告），資料２－Ｃ－０９：2020 年度後学期 学長と学生の懇談会（実施報告））
① 2020 年度前学期 学長と学生の懇談会
日時：2020 年 6 月 24 日（水）13：30 ～ 15：10
場所：オンライン（Teams），教職員は共通教育棟 1 号館第一会議室
内容：新型コロナウイルス感染症拡大の影響による本学の課外活動規制について，現在の大学が検討している段階的な緩和の方針を提示した後，各課外活動団体の考えや意見等を尋ねた。
参加者：学生 39 名（課外活動団体 30 団体），教職員 12 名（太田学長，久留主理事・副学長ほか）。
成果：学生たちからの質問や意見を受け付け，議論を行うことで，部活動・サークルなどの課外活動の再開方針を決めることができた。

② 2020 年度後学期 学長と学生の懇談会
日時：2021 年 2 月 10 日（水）9：30 ～ 12：00
場所：オンライン（Teams）
内容：2020 年 12 月に太田学長より「イバダイ・ビジョン 2030（素案）」が示されたことを受け，

学生の考える（想う）「2030 年の茨城大学の姿」について，学長をはじめ大学執行部教職員と学生が直接対話した。

参加者：学生 86 名，教職員 5 名（太田学長，久留主理事・副学長ほか）。

成果：「イバダイ・ビジョン 2030」の策定にあたっては，学生との意見交換の場を持つことで，学生の意見を反映することができた。

【オンラインでの懇談会に臨む太田学長】

【オンライン懇談会の様子】

４． 学生支援に関する FD/SD 主催 （資料２－Ｃ－１０：ゲートキーパー養成講座資料）

① ゲートキーパー養成講座

日時：2020 年 12 月 15 日（火）14:20 ～15:50

場所：オンライン（Teams）

内容：布施保健管理センター長より，大学生の自殺を防ぐための対応などについて，説明があった。

参加者：教職員 144 人

成果：講座終了後の参加者を対象としたアンケート調査（回答者 87 人）より，90%がゲートキーパーへの理解が深まったと評価していることが確認された。

５． 各学部における学生担任マニュアルの実質化

前年度の令和元年度までに学部ごとの「担任マニュアル」が試行的に策定実施されていたが，試行期間の実施状況を鑑み，また，新型コロナウイルス感染症拡大の影響により担任による学生への細やかな把握がより重要になったことから，各学部とも学部に応じたより実質的なものに修正がなされ，教職員への周知も進められた。

６．課外活動（サークル活動）再開に向けた取組

①茨城大学課外活動（サークル活動）再開に向けた研修会の開催

活動自粛となっていた課外活動の再開に伴い，課外活動団体の学生へ向けた感染症対策に関する研修会を開催した。

目的：学内での課外活動再開を前に，本学課外活動団体に対して感染防止対策に関する講習会を開催し，感染防止の一助とすること。

※学内で活動を再開するためには，本研修会の受講を義務づけ。

※対面式研修会参加学生以外は，録画した本研修会動画を 10 月 19 日までに視聴。

対象：本学課外活動団体に所属する代表者 2 名（必須）

場所：水戸キャンパス（講堂），

日立・阿見キャンパス（Teams で実施）

日時：１０月１２日～１５日

講師：保健管理センター所長 布施泰子（研究分野：精神神経科学）

人文社会科学部 教授 加藤敏弘（研究分野：スポーツ社会学）

【布施保健管理センター所長による講義】

【加藤人文社会科学部教授による講義】

○国際教育部門

・国際教育部門の令和２年度の活動記録は以下のとおりである。

【部門の活動】

月	活動記録
4月	4月22日― 交換留学継続生のためのガイダンス 外国人留学生新入生ガイダンス チューターガイダンス 4月24日―工学部の先輩留学生との交流会【つながろうプロジェクト第１弾】
5月	5月17日―いっしょに作って食べよう！【つながろうプロジェクト第２弾】 5月18日～6月5日―アメリカ・ペンシルバニア州立大学との授業交流（人間とコミュニケーション：Japanese Pop Culture A）
6月	6月8日―オンライン海外留学説明会（6月8日よりオンデマンド配信） 6月15日～8月3日―アメリカ・ペンシルバニア州立大学との授業交流（日本語教授法II） 6月26日― ZOOMで映画鑑賞会&ディスカッション【つながろうプロジェクト第３弾】 6月29日・7月1日・3日―オンライン海外留学サロン【つながろうプロジェクト第４弾】
7月	7月11日―茨城大学元留学生のためのオンライン親睦会 【つながろうプロジェクト第５弾】 7月12日・18日・19日―日本の祭りで踊ろう！【つながろうプロジェクト第６弾】 7月29日―アメリカ・ペンシルバニア州立大学との授業交流（人間とコミュニケーション：Japanese Pop Culture B）
8月	8月上旬―リモート水戸黄門まつりへの参加 8月17日～25日―ブルネイ・ダルサラーム短期語学・文化研修（オンライン） 【資料2-D-1-01】 8月24日～9月4日―韓国語研修（オンライン） 【資料2-D-1-02】
9月	9月（メール会議）―茨城県高等教育機関留学生関係担当者連絡会 9月24日―日本語研修コースオリエンテーション 9月26日―JALT Study Abroad SIG Conference 2020 9月30日―TOEFL-ITPの開催
10月	10月1日～11月30日―オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学との授業交流 10月9日～12月18日―海外協定校との授業交流（日本語教授法演習） 10月12日～12月7日―アメリカ・ミシガン州立大学との授業交流（日本語教授法I） 10月20日～2月28日―タンデム学習プロジェクト 10月21日―水戸市防災課と地域住民との防災訓練 10月28日―交換留学説明会・報告会

	10 月 31 日―オンライン坐禅ワークショップ【つながろうプロジェクト第 7 弾】
11 月	11 月（メール会議）―茨城地域留学生交流推進協議会 11 月 4 日―春季オンライン短期海外研修説明会・報告会 11 月 9 日―地域の国際化を考える円卓会議（阿見町との地域連携事業） 11 月 13 日―オンライン国際交流パーティー【つながろうプロジェクト第 9 弾】 11 月 16 日～27 日―海外留学個別相談&オンライン留学相談窓口 11 月 18 日・20 日―アメリカ・ウィスコンシン大学スペリオル校との授業交流（Studies in Particular Field） 11 月 30 日―iOP チュートリアル「人権問題について考えよう」成果発表会 11 月 30 日―日本語研修コースレベル４（総合）データセッション
12 月	12 月 12 日―折り紙ワークショップ【つながろうプロジェクト第 8 弾】 12 月 19 日―学生国際会議
1 月	1 月 13 日―TOEFL-ITP の開催 1 月 13 日～15 日―ベトナム・ハイフォン大学との授業交流（日本語教授法 I） 1 月 21 日―日本語教育プログラムガイダンス 1 月 29 日―日本語研修コースレベル４（総合）データセッション 1 月 13 日～3 月 3 日―阿見町国際交流協会「日本語教育ボランティア養成講座」への講師派遣
2 月	2 月 1 日―悩みをシェアして，ゲームで交流しましょう 2 月 15 日～3 月 5 日―オーストラリアオンライン短期語学研修（オンライン） 【資料 2-D-1-03】 2 月 5 日～26 日―公開講座「多文化理解パートナー育成講座―茨城の多文化共生を考える」（オンデマンド配信） 2 月 15 日～26 日―韓国語短期海外研修（オンライン） 【資料 2-D-1-04】
3 月	3 月 1 日～9 日―ベトナム日本語教育短期海外研修（オンライン） 【資料 2-D-1-05】 3 月 8 日～26 日―スペイン語短期海外研修（オンライン） 【資料 2-D-1-06】 3 月 8 日～19 日―マレーシア短期英語研修（オンライン） 【資料 2-D-1-07】 3 月 9 日―ベトナム・日本語教育短期海外研修（オンライン）　参加者報告会 3 月 13 日―茨城大学リカレント教育プログラム「2020 年度多文化理解パートナー育成講座ふりかえりセッション」 3 月 17 日―国際交流のためのオンラインふろしきワークショップ【つながろうプロジェクト第 10 弾】 3 月 19 日―新交換留学生向けオリエンテーション 3 月 21 日―コロナ禍のグローバル教育を考える～茨城大学の挑戦～」シンポジウム

【特色ある業務】

１．オンラインを駆使した海外協定校との授業交流活動の実施

① 「日本語教授法 II」（2020 年度前学期）

- 茨城大学の学生 25 名とアメリカ・ペンシルバニア州立大学の学生 23 名がオンラインによる以下の交流活動を行った。

1. 茨城大学の学生が Zoom で ペンシルバニア州立大学の日本語授業に参加し，授業観察を行った。
2. 茨城大学の学生がペンシルバニア州立大学の日本語授業で 15 分間の応用・発展ドリルの模擬授業を行った。
3. 茨城大学の学生とペンシルバニア州立大学の学生が 4 名程度のグループを作り，授業外で週 1 回程度交流した。

② 「Japanese Pop Culture A」（2020 年度第 1 クォーター）

- 茨城大学の学生 35 名とアメリカ・ペンシルバニア州立大学の学生 11 名が 3 週間（5 月 18 日～6 月 5 日）にわたって毎晩オンラインによる交流を行った。交流では，日本のポップカルチャーについて日本語で約 30 分間話し合った。

③ 「Japanese Pop Culture B」（2020 年度第 2 クォーター）

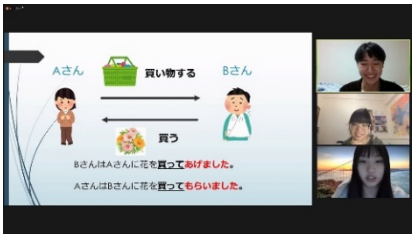
- 茨城大学の学生 37 名とアメリカ・ペンシルバニア州立大学の学生 24 名がオンラインによる交流を 7 月 29 日（水）の夜に 1 時間半行った。交流会に向けて，茨城大学の学生がオンラインでできる交流活動を企画し，実践した。

④ 「英語コミュニケーション」（2020 年度第 2 クォーター）

- 茨城大学の学生 19 名とアメリカ・ペンシルバニア州立大学の学生 24 名が計 8 回各 30 分間の英語による交流を行った。

⑤ 「日本語教授法 I」（2020 年度後学期）

- 茨城大学の学生 16 名とアメリカ・ミシガン州立大学の学生 30 名と計 6 回各 60 分間の日本語による交流を行った。交流では，茨城大学の学生が日本語によるコミュニケーション活動を企画し，実践した。



- 茨城大学の学生 16 名とベトナム・ハイフォン大学の学生 25 名と計 6 回各 90 分間の日本語による交流を行った。交流では，茨城大学の学生が日本語によるコミュニケーション活動を企画し，実践した。

⑥ 「日本語教授法演習」（2020 年度後学期）

- 茨城大学の学生 14 名がウィスコンシン大学スペリオル校（アメリカ），ペンシルバニア州立大学（アメリカ），アイオワ大学（アメリカ），ニューカッスル大学（イギ

リス），インドネシア教育大学（インドネシア），マレーシア科学大学（マレーシア），仁済大学（韓国）の日本語授業においてオンラインによる教壇実習を行った。

⑦ 「Studies in Particular Field」（2020 年度第 3 クォーター）

- 茨城大学の学生 10 名とアメリカ・ウィスコンシン大学スペリオル校の学生 9 名が日本語・英語による交流会を 11 月に 2 回（それぞれ 60 分間）を行った。交流では，茨城大学の学生がオンラインでできる交流活動を企画・実践した。

⑧ 茨城大学工学部の教員が主となり，茨城大学の学生 40 名とオーストラリア・ニューサウスウェールズ大学の学生 40 名による約 8 週間のオンライン交流プロジェクト行われた。

２．オンライン短期海外研修の企画及び実施

新型コロナウィルスの感染拡大で学生を海外へ派遣できないなか，国際教育部門ではオンラインによる短期海外研修の実施を積極的に行った。

① 「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（ブルネイオンライン）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（ブルネイオンライン）」（8 月 17 日～24 日）を開講した。本学より 19 名の学生がブルネイ・ダルサラーム大学の提供する短期語学・文化研修に参加した。

② 「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（韓国オンライン）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（韓国オンライン）」（8 月 24 日～9 月 4 日及び 2 月 15 日から 26 日）を開講した。本学より計 10 名（夏季 9 名，春季 1 名）の学生が韓国・インジェ大学の提供する短期韓国語研修に参加した。

③ 「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（スペインオンライン）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（スペインオンライン）」（3 月 8 日～26 日）を開講し，本学より 2 名の学生がスペイン・アルカラ大学の提供する短期スペイン語研修に参加した。

④ 「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（オーストラリアオンライン）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（オーストラリアオンライン）」（2 月 15 日～3 月 5 日）を開講し，本学より 2 名の学生がオーストラリア・カーティン大学の提供する短期英語研修に参加した。

⑤ 「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（マレーシアオンライン）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修（マレーシアオンライン）」（3 月 8 日～19 日）を開講し，本学より 6 名の学生がマレーシア・マレーシア科学大学の提供する短期英語研修に参加した。

⑥ 「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（ベトナムオンライン）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修（ベトナムオンライン）」（3 月 1 日～9 日）を開講し，本学より 3 名の学生がベトナム・ハイフォン大学の提供する短期研修プログラムに参加した。

【関連イベント報告】

①こんな時だからこそつながろう！ 茨城大学国際交流プロジェクトの企画・運営

新型コロナウィルスの感染拡大で，国や地域を超えた移動に制限がかかったことから，オンラインによる国際交流活動を企画・運営した。

第 1 弾：「工学部の先輩留学生との交流会」（4 月 24 日，参加者 4 名）

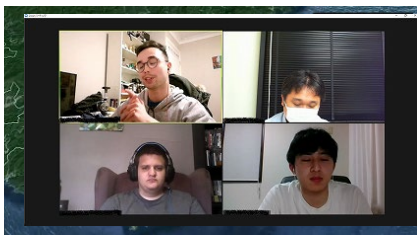
工学部の先輩留学生と新入留学生の交流会をオンライン上で行った。教科書の購入方法や工学部での勉強方法などのアドバイスがあり，先輩の「生」の声を聞け，とても役に立っているようだった。

第 2 弾：「いっしょに作って食べよう！」（5 月 17 日，参加者 22 名）

イベントでは，ZOOM をつないで，参加者が各自自宅から「おにぎらず」を作った。そして，作った後は，小グループに分かれて，おしゃべりをしながら，食べた。その後，4 月から水戸市のごみ分別が難しくなったこともあり，ごみ分別のクイズ大会を行った。久しぶりに顔を合わせて交流をし，参加者は楽しいひと時を過ごしていた。

第 3 弾：「ZOOM で映画鑑賞会＆ディスカッション」（6 月 27 日，参加者約 40 名）

【資料 2-D-2-01】



イベントでは，まず和歌山県太地町のイルカ漁を題材にしたドキュメンタリー映画『おクジラさま ふたつの正義の物語』を視聴した。映画視聴後は，小グループに分かれてディスカッションを行い，映画に対する理解を深めた。シドニー工科大学（オーストラリア），ニューカッスル大学（イギリス），ペンシルバニア州立大学（アメリカ），ウィスコンシン大学スペリオル校（アメリカ），モンタナ州立大学（アメリカ），ブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ），インジェ大学（韓国）からの参加があり，さまざまな観点からディスカッションが行われている姿が印象的だった。

第４弾：「オンライン海外留学サロン」（6 月 29 日，7 月 1 日，3 日，延べ参加人数約 60 名）

【資料 2-D-2-02】

サロンでは，まず国際交流課のスタッフが茨城大学の交換留学制度について説明をした。その後，海外留学担当の教職員や留学経験者が参加者の質問に答えた。

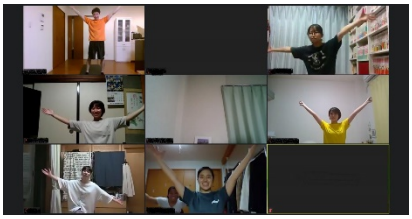
第５弾：「茨城大学　元留学生のためのオンライン親睦会」7 月 11 日，参加者 32 名）

【資料 2-D-2-03】

元留学生 16 名，元チューター4 名，現役留学生 1 名，現役チューター3 名，元教員 2 名，現教職員 6 名の合計 32 名が参加した。それぞれ自分の好きな飲み物・食べ物を持ち寄って，それを楽しみながら，思い出話に花を咲かせた。世界中の茨大生が世代を超えて，また，過去・現在の茨大生がつながっている姿がとても印象的だった。

第６弾：「日本の夏祭りで踊ろう！」（7 月 12 日，18 日，19 日，延べ参加人数約 30 名）

【資料 2-D-2-04】



水戸の夏の風物詩「水戸黄門まつり」が「Remote」で開催されることになったことから，茨城大学の留学生・日本人学生・教職員，海外協定校の学生からの参加者を募り，茨城と海外から「Remote 水戸黄門まつり」に参加した。Remote 水戸黄門まつりでは，ダンス動画のコンテストが行われていたことから，ダンスの練習をオンライン上で計 3 回行い，モンタナ州立大学（アメリカ），シドニー工科大学（オーストラリア），インドネシア教育大学（インドネシア）の学生と一緒に交流を交えながら行った。

第７弾：「オンライン坐禅ワークショップ」（10 月 31 日，参加者 39 名）

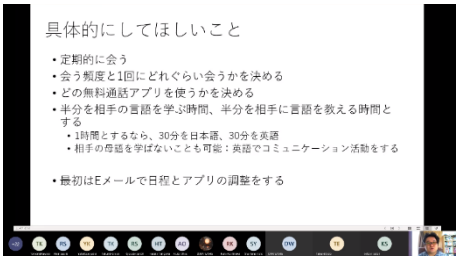
【資料 2-D-2-05】

ワークショップでは，水戸市祇園寺の副住職による坐禅の説明，体験を行った。参加者からは「今のご時世，坐禅をして心を落ち着ける機会はとても重要でした」（日本人学生），「COVID-19 のなかでもたくさんの新しい日本の文化をオンラインで学ぶことができた」（協定校の学生），「2021 年 4 月から茨城大学に交換留学したら（もしできれば…），祇園寺を訪れたい！」（協定校の学生）など，肯定的な声が聞かれた。ワークショップのあとは，少人数に分かれたグループディスカッションを行い，参加者同士で交流を深めた。

第 8 弾：「タンデム学習プロジェクト」（2020 年 10 月～2021 年 2 月，参加者 72 名（茨城大学），97 名（協定校））

【資料 2-D-2-06】

本学の学生 72 名と協定校の学生 97 名がペア・グループとなり，2020 年 10 月から 2021 年 2 月にかけてウェブ会議システム(SKYPE や ZOOM 等)を用いてタンデム学習を行った。タンデム学習とは，母語の異なる者同士がペアとなり，互いの言語や文化を学びあう学習形態のことである。本プロジェクトでは，定期的に情報交換会を開催し，タンデム学習の進捗状況を確認した。そこでは，タンデム学習についてだけではなく，自身の留学の計画や自身が抱えている留学に関する疑問について話す姿も垣間見られ，コロナ禍においても留学に関する情報交換の場を創出することができた。



第 9 弾：「国際交流のためのオンラインおりがみワークショップ」（12 月 12 日，参加者 74 名）

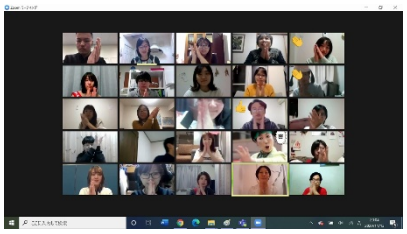
【資料 2-D-2-07】

海外からの参加者も事前に折紙を受け取り，ワークショップでは，日本折紙協会の講師の日英両言語による指導の下，ペンギン，富士山，鶴を折った。その後，少人数に分かれたグループディスカッションを行い，参加者同士で交流を深めた。

第 10 弾：「オンライン国際交流パーティー」（11 月 13 日，参加者約 60 名）

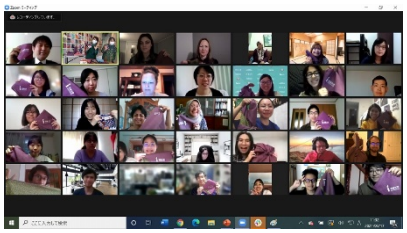
【資料 2-D-2-08】

イベントの前に，日本国内在住の参加者は「茨城の味覚セット」を受け取り，茨城大学グローバル教育センターが編集した「お蕎麦のゆで方」のビデオを視聴して，自分達で「そば」や「けんちん汁」を事前に準備して，参加した。そして，準備したそばを堪能しながら，学生スタッフが準備したゲームや活動に参加した。参加者たちが楽しそうにしている姿がとても印象的だった。



第 11 弾：「国際交流のためのオンラインふろしきワークショップ」(3 月 17 日，参加者約 90 名）

【資料 2-D-2-09】



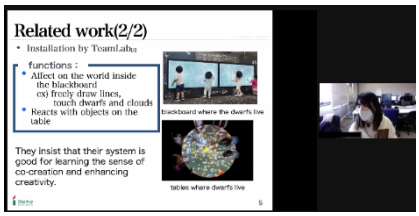
参加者には茨城大学のロゴが入った風呂敷をワークショップ前に送付し，ワークショップではそのオリジナル風呂敷を使って，山田繊維株式会社の方の指導の下，風呂敷の使い方を学んだ。今年度最後となった「つながろうプロジェクト」だったが，協定校の学生・教職員，茨城大学の学生約 400 名が参加申込をする人気のイベントとなった。当日は，各協定校から先着順で参加者を選び，約 80 名が参加した。参加者からは，「イベントはとても楽しく，講師はとても親切でした。風呂敷の使い方や歴史をたくさん学ぶことができました」などの声が聞かれた。

② 学生国際会議の開催

12 月 19 日，第 16 回茨城学生国際会議をオンライン上にて開催した。本学の学生スタッフが主体となり企画運営を行い，のべ 113 名の本学の学生・留学生，茨城県内の高校生が参加した。本会議は，グローバルな視点を持ち，国際化が進む社会の中で活躍できる人材の育成を目的とした，学生が主体となり企画・運営を行う学生による学生のための国際シンポジウムである。今年度は，Covid-19 感染拡大防止のためオンラインで実施することとし，「どこにいる人でも誰であっても一緒に活動ができればいいな」という思いを込め，「Stand by you ~with online~」というテーマを掲げ，開催した。例年は，茨城学生国際会議という名前のとおり県内の学生のみの会議としていたが，2020 年度はオンラインの利点を活かし，県内の高校・大学のほか，本学の海外協定校にも参加を呼びかけた。例年よりも規模を縮小した形ではあったが，発表者・聴講者合わせて 113 人の参加があり，多くの国の学生との間で学術発表及び交流会を行うことができた。

【内容】

(1) 研究発表（口頭発表・ポスター発表）



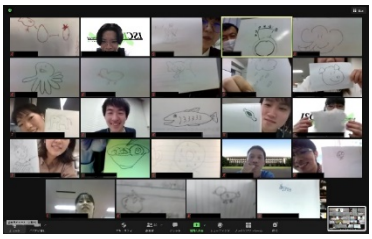
発表者は 6 つのトピック（「Humanities and Society」「Education」「Science and Engineering」「Agriculture」「Ibaraki」「Student Life」）から一つトピックを選び，口頭またはポスターで研究発表を行う。「Ibaraki」「Student Life」のように，専門的な分野だけでなく地域や自分の体験に関わるトピックも用意し，高校生が参加しやすい環境づくりを行った。

参加者の内訳は，発表者 51 名，聴講者 62 名であり，発表者の所属大学及びトピックは下記のとおりである。

		Humanities and Society	Education	Science and Engineering	Agriculture	Ibaraki	Student Life	計
日本	茨城大学	2		22	2			26
	常総学院	1	2	1		1		5
	牛久栄進高校					7		7
インドネシア	ウダヤナ大学	1						1
	ガジャマダ大学			1				1
	ボゴール農科大学			2				2
	Nusa Bangsa University			1				1
フィリピン	デラサール大学	2						2
	フィリピン大学		1					1
中国	武漢科技大学	1		1				2
マレーシア	マレーシア科学大学			1				1
スリランカ	Swinburne University of Technology			1				1
ブラジル	Federal University of Viçosa	1						1
	計	1	0	0	0	0	0	1

（2）交流会

学術発表後に，交流会として，自己紹介ゲーム，しりとり，絵しりとりを行った。交流会を通して，学術的な視点とは異なる部分で参加者同士が国際的な交流を深めることができた。



【参考】

聴講者出身大学等

・イギリス：ニューカッスル大学

・ブルネイ：ブルネイ・ダルサラーム大学

・フィリピン：デラサール大学，フィリピン大学

・インドネシア：ガジャマダ大学，アンダラス大学，ボゴール農科大学，インドネシア教育大学，ウダヤナ大学，Diponegoro University，Ahmad Dahlan University

・日本：茨城キリスト教学園高等学校，常総学院，茨城大学

・マレーシア：マレーシア科学大学

・タイ：カセサート大学

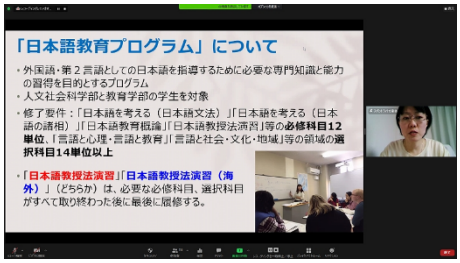
③　JALT Study Abroad SIG Conference の開催

9 月 26 日，JALT Study Abroad SIG との共催で『JALT Study Abroad SIG Conference 2020』をオンライン上で行った。Conference は完全オンラインで行われ，本学の学生ボランティアが，ソーシャルディスタンスを保ちながら，会議室でオンライン配信の補助を行った。80 名近くの参加者が集まり，海外留学に関して意見交換が行われた。参加者からは，「アットホームな雰囲気で，意見を出しやすい会だった」，「オンラインなりのよさがあった」，「オンラインでも対面と同様の内容を行っていたのが素晴らしいと思った」，「茨城大学のチームワークに感心した」と肯定的な声が聞かれた。

④「コロナ禍のグローバル教育を考える～茨城大学の挑戦～」シンポジウム

【資料 2-D-3-01】

3 月 21 日，「コロナ禍のグローバル教育を考える～茨城大学の挑戦～」シンポジウムをオンライン上にて行った。第 1 部は「コロナ禍の日本語教育を考える～海外協定校とのオンライン日本語教育実習を例として～」と題して，2020 年度後学期に海外協定校の日本語担当教員と協働で行った日本語教育実習について協定校の担当教員を招いてディスカッションをした。第 2 部では「コロナ禍のオンライン国際協働学習を考える～海外協定校とのオンライン交流授業を例として～」と題して，2020 年度に茨城大学で行われた海外協定校とのオンライン交流活動をそれぞれの担当教員が紹介した。第 3 部では，ブレイクアウトルーム機能を用いて，コロナ禍の日本語教育実習，コロナ禍の国際協働学習，コロナ禍の海外留学，コロナ禍の学内での学生交流・地域交流についてそれぞれグループに分かれて話し合った。シンポジウムには各回 130 名近くが参加した。また，本学の協定校であるアイオワ大学（アメリカ），ウィスコンシン大学スペリオル校（アメリカ），仁済大学（韓国），マレーシア科学大学（マレーシア）の教員も登壇し，国際的な連携を強める機会となった。参加者からは，「協定校としっかりと信頼関係を築き，協働学習を実践されていることに感銘を受けました」，「コロナ禍のオンライン教育について，教育実習，英語と日本語のタンデム，理系留学，様々な方面から考える機会となりました」などの声が聞かれた。



⑤地域連携

（１）阿見町との連携

茨城大学社会連携センター支援事業地域研究・地域連携プロジェクトの支援を受け，阿見町町民活動課と連携し，11 月 9 日に阿見町の国際化と在留外国人に対する支援について話し合う円卓会議を実施した。会議を通して，地域が抱える課題を確認することができた。その課題を解決する方法の一つとして，阿見町国際交流協会が主催する「日本語教育ボランティア養成講座」にグローバル教育センターの教員を講師として派遣した。

（２）水戸東ロータリークラブ・茨城大学ローターアクトクラブとの連携

11 月 13 日に実施した国際交流パーティーでは，水戸東ロータリークラブ及び茨城大学ローターアクトクラブの協力を得て，そばのゆで方，そばの打ち方を紹介する事前ビデオ（https://youtu.be/YW6Yca073fY）を作製した。パーティーの参加者は事前にそばやけんちん汁を含む「茨城の味覚セット」を受け取り，事前ビデオを視聴し，自分たちで準備をして，パーティーで一緒に食べた。

［資料：留学生向け日本語教育（単位なし）］

前期

科目名	担当者	開講地区	担当回数	開講回数
日本語レベル３（総合）	八若寿美子	水戸	15	15
日本語レベル３（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル３（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル３（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル３（漢字）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル３（口頭表現）	八若寿美子	水戸	15	15
日本語レベル４（漢字）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル５（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル５（総合）	非常勤	水戸	15	15
多読で学ぶ日本語	池田庸子	水戸	15	15
日本事情	青木香代子	水戸	15	15
初級日本語 II	瀬尾匡輝	阿見	30	30
初級日本語 IV	瀬尾匡輝	阿見	15	15
アカデミックジャパニーズ	瀬尾匡輝	阿見	30	30
サバイバル日本語	瀬尾匡輝	阿見	15	15

後期

科目名	担当者	開講地区	担当回数	開講回数
日本語レベル４（総合）	瀬尾匡輝	水戸	15	15
日本語レベル４（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル４（口頭表現）	八若寿美子	水戸	15	15
日本語レベル４（応用）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル４（漢字）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル５（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル５（総合）	非常勤	水戸	15	15
多読で学ぶ日本語	池田庸子	水戸	15	15
日本事情	青木香代子	水戸	15	15
日本研究	安龍洙	水戸	15	15
初級日本語 III	瀬尾匡輝	阿見	30	30
初級日本語 IV	瀬尾匡輝	阿見	15	15
サバイバル日本語	瀬尾匡輝	阿見	15	15

③ 令和2年度における教員の活動

［機構長］

職位	氏 名	専門分野	本務所属
機構長	栗原 和美	電力工学・電気機器工学	全学教育機構・特任教授/副学長・学野長

［評議員・副機構長］

職名	氏 名	専門分野	本務所属
評議員	安 龍洙	日本語教育	全学教育機構・教授
副機構長 総合教育企画部門長	西川 陽子	食品科学，科学教育，食生活学	教育学部・教授
副機構長 共通教育部門長	篠嶋 妥	金属物性	理工学研究科（工学野） 物質科学工学領域・教授
副機構長 学生支援部門長	青柳 直子	生理学，応用健康科学	教育学部・教授 学長特別補佐(学生支援)
副機構長 国際教育部門長	池田 庸子	日本語教育	全学教育機構・教授 学長特別補佐(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ展開)
副機構長 学務部長	向後 光典	事務統括	事務局学務部

○ 総合教育企画部門

［専任教員］

職位	氏 名	専門分野	掲載頁
准教授	嶌田 敏行	教育学（高等教育）	56

［兼務教員］

職位	氏 名	部門での役割	本務所属
教授	宮崎 章夫	各学部との連絡調整，学部内での教育改善施策の立案や実施	人文社会科学部 人間文化学科
教授	吉野 聡		教育学部 学校教育教員養成課程
教授	北出 理		理工学研究科（理学野） 生物科学領域
教授	横木 裕宗		理工学研究科（工学野） 都市システム工学領域
教授	白岩 雅和		農学部 食生命科学科

○ 共通教育部門

［専任教員］

職位	氏 名	専門分野	掲載頁
教授	金 光男	東アジア国際関係史，地域研究	―
教授	木村 競	哲学・倫理学	―
教授	小林 邦彦	外国語教育	60
教授	福田 浩子	外国語コミュニケーション，応用言語学，異文化コミュニケーション	―
准教授	上田 敦子	外国語教育	62
准教授	菊池 武	外国語教育	64
准教授	小西 康文	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	66
准教授	佐藤 伸也	情報学基礎理論，計算機システム，ソフトウェア	68
准教授	清水 恵美子	近代美術史 文学一般(比較文学比較文化) 日本史(近現代史)	70
准教授	シャノン フレデリック	応用言語学	72
准教授	シュミット ロナルド	English language pedagogy	74
准教授	関 友作	教育工学 認知科学	76
准教授	山崎 大	天文学，素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	77
講師	大津 理香	英語教育	79
講師	大森 真	英語教育	80
講師	佐々木 友美	外国語教育	82
講師	鈴木 聡子	外国語教育	83
講師	館 深雪	言語教育 英語教育 TESL	85
助教	大山 廉	外国語教育	87

［兼務教員］

職位	氏 名	部門での役割	本務所属
准教授	神田 大吾	多文化理解部会：初修外国語	人文社会科学部 人間文化学科
准教授	横溝 環	多文化理解部会：異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	人文社会科学部 現代社会学科
教授	伊藤 聡	多文化理解部会：ﾋｭｰﾏﾆﾃｨｰｽﾞ	人文社会科学部 人間文化学科
准教授	陶山 二郎	社会と生活部会	人文社会科学部 法律経済学科
教授	岡崎 正男	グローバル英語ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ部会	人文社会科学部 人間文化学科
准教授	篠田 明音	心と体の健康部会	教育学部 保健体育教室

教授	谷川 佳幸	多文化理解部会：ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ&ｱｰﾄ	教育学部 音楽教育教室
准教授	中野 岳仁	自然・環境・科学部会	理工学研究科（理学野）物理学領域
教授	青野 友祐	自然・環境・科学部会	理工学研究科（工学野）電気電子システム工学領域
准教授	鈴木 穂高	自然・環境・科学部会	農学部 食生命科学科
准教授	坂上 伸生	AIMS ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ部会長	農学部 食生命科学科
講師	桐原 武文	地域志向教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ部会	社会連携センター

○ 学生支援部門

［専任教員］

職位	氏 名	専門分野	掲載頁
准教授	小磯 重隆	社会法学（労働法） 社会学（職業能力開発） 教育社会学（キャリア教育）	89
准教授	矢嶋 敬紘	社会福祉学，臨床心理学	91

○ 国際教育部門

［専任教員］

職位	氏 名	専門分野	掲載頁
教授	安 龍洙	日本語教育	93
教授	池田 庸子	日本語教育	95
教授	八若 壽美子	日本語教育	97
准教授	瀬尾 匡輝	日本語教育 外国語教育 教育社会学	99
講師	青木 香代子	教育学	104

［兼務教員］

職位	氏 名	部門での役割	本務所属
教授	村上 雄太郎	各学部との連絡調整，学部内での国際教育施策の立案や実施	理工学研究科（工学野） 数理・応用科学領域
教授	湊 淳		理工学研究科（工学野） 数理・応用科学領域
准教授	坂上 伸生		農学部 食生命科学科

総合教育企画部門	氏名　嶌田 敏行

職名	准教授
学位	修士（理学）［金沢大学］
学歴	金沢大学大学院 自然科学研究科 地球環境科学専攻 博士後期課程［2003 年 03 月単位取得満期退学］ 金沢大学大学院 自然科学研究科 生命・地球学専攻 博士前期課程［1999 年 03 月修了］ 金沢大学 理学部 地学科［1997 年 03 月卒業］
職歴	茨城大学 IT 基盤センター 教育 IT 化推進部門（兼務）（2018 年 5 月～） 茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門 准教授（2016 年 8 月～） 茨城大学 大学戦略・IR室 准教授（2015 年 4 月～2016 年 7 月） 茨城大学 大学戦略・IR室 助教（2014 年 10 月～2015 年 3 月） 茨城大学 評価室助教（2007 年 4 月～2014 年 9 月） 茨城大学 IT 基盤センター IT システム運用部門（兼務）（2005 年 7 月～2018 年 4 月） 茨城大学 評価室助手（2005 年 3 月～2007 年 3 月） 茨城大学 学術企画部 企画課 大学改革係（2004 年 4 月～2005 年 2 月） 茨城大学 水戸事業場衛生管理者（2004 年 4 月～） 茨城大学 総務部 総務課 大学改革推進室 大学改革推進係（総務部地域連携推進室勤務）（2003 年 4 月～2004 年 3 月） 防災科学技術研究所非常勤職員（文部科学省研究開発局防災科学技術推進室勤務）（2002 年 7 月～2002 年 8 月）
所属学会	日本地形学連合　大学評価コンソーシアム　日本高等教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	IT 基盤センター・教育 IT 化推進部門
専門分野	教育学（高等教育）
教育研究概要	大学運営支援のための情報収集，分析，活用の高度化を図るための機能（IR）を活用した継続的な教育改善の仕組み（内部質保証システム）構築の実践的研究を進めている。
	（キーワード）大学評価　教学マネジメント

令和 2 年度における教育活動

担当科目	なし
学生支援・国際交流支援・特記事項	新入生調査，2年生調査，学生生活実態調査などの調査を担当している。

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1.［研究論文（大学，研究機関紀要）共著］大川一毅，大野賢一，嶌田敏行「大学教育講演会の現況と大学評価の可能性」，アルテスリベラレス（岩手大学人文社会科学部紀要），107，305-325.（2020 年 12 月）

2.［研究論文（学術雑誌）単著【査読あり・筆頭著者,責任著者】］嶌田敏行「教育の内部質保証を推進するためのチェックリストー茨城大学における大学教育再生加速プログラムの取り組みからー」，情報誌『大学評価とIR』（大学評価コンソーシアム），11，49-63.（2020 年 12 月）

3.［研究論文（学術雑誌）共著【査読あり】］大瀧保広，嶌田敏行，山本一幸，野口宏，佐藤伸也，外岡秀行，羽渕裕真「茨城大学における遠隔授業／テレワーク支援」，学術情報処理研究（国立大学法人 情報系センター協議会），24，1，58-67.（2020 年 12 月）

4.［研究論文（学術雑誌）共著【査読あり】］山本一幸，大瀧保広，佐藤伸也，嶌田敏行，野口宏，羽渕裕真，外岡秀行「問合せデータの分散表現を用いた分類」，学術情報処理研究（国立大学法人 情報系センター協議会），24，1，68-77.（2020 年 12 月）

5.［その他・編集責任者］嶌田敏行ほか「情報誌『大学評価とIR』第 11 号」64 ページ，大学評価コンソーシアム暫定編集部.（2020 年 12 月）

○ 学会発表等

1.［口頭発表（一般）］嶌田敏行，林隆之「内部質保証体制構築における理想と現実の差異に関する分析」日本高等教育学会第 23 回大会.（要旨集公表のみ）

2.［口頭発表（一般）］嶌田敏行，長谷部徳子，落合伸也「プログラム評価を活用した複合領域における研究マネジメント手法の実証的研究」金沢大学環日本海域環境研究センター2020 年度共同利用研究成果報告会.（2021 年 3 月）

3.［口頭発表（一般）］嶌田敏行，山本一幸「新型コロナウイルス感染症の影響把握のための IR 活動を振り返って」継続的改善のための IR/IE セミナー2021 R1：IR 実務担当者セッション（大学評価コンソーシアム）.（2021 年 3 月）

○ 競争的資金 共同・受託研究

1. 科学研究費補助金 基盤研究(C) 19K02855「大学教育後援会の事業と成果を指標として実施する大学評価の可能性をめぐる実証的研究」岩手大学（2019 年度～2021 年度）【分担】

2. 科学研究費補助金 基盤研究(C) 18K02706「大学の数量的な「共通知」から分析マインドを涵養する人材育成プラットフォームの開発」鳥取大学（2018 年度～2020 年度）【分担】

3. 科学研究費補助金 基盤研究(C) 18K02729「教学マネジメントを支援する大学の専門的職員のあり方に関する研究」九州大学（2018 年度～2020 年度）【分担】

○ 学術貢献活動

1. 大学評価コンソーシアム：大学評価・IR 担当者集会 2020（全体調整）［E1］大学評価・質保証セッション（企画・運営，司会進行），［E2/E3］評価初心者セッション（企画・運営，ファシリテーター）［オンライン］.（2020 年 9～11 月）

2. 茨城大学：大学教育シンポジウム「オンライン授業の経験と知見を教育改革に活かすために」（企画・運営，話題提供「茨城大学の遠隔授業の知見から教育改革を展望する」）［オンライン］.（2021 年 11 月）

3. サイオステクノロジー株式会社：Discussion【文教領域 DX 化の現状と今後の展望】～大学オンライン授業に関する調査報告・討論会（パネリスト）［オンライン］.（2021 年 12 月）
4. 大学評価コンソーシアム：継続的改善のための IR/IE セミナー2021（全体調整），R2：IR 担当者の知識，スキルに関するセッション（企画・運営，司会進行），E1：第4期中期目標・中期計画に関する情報交換セッション（企画・運営，ファシリテーター），E2：ロジックモデル＆指標策定演習［国立大学計画立案担当者編］（企画・運営，司会進行，教材提供，ファシリテーター）［オンライン］.（2021 年 2 月～3 月）
5. 株式会社朝日ネット：教育の質保証・質向上オンラインセミナー ～After コロナを見据えて今大学ができること～ 第4回パネルディスカッション（パネリスト）.（2021 年 3 月）

令和 2 年度における社会的活動，地域貢献など

○ 学外委員等

1. 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構「大学機関別認証評価委員会内部質保証専門部会」専門委員
2. 国立大学法人埼玉大学 教育・研究等評価センター アドバイザー

○ 学外教育

1. 嶌田敏行「なぜエンロールメント・マネジメントを行うのか？」鳥取大学エンロールメント・マネジメントに係る講演会.（2020 年 7 月）
2. 嶌田敏行「なぜ教育改善が必要なのか学修成果の測定するのか」亜細亜大学令和 2 年度第 2 回全学 FD・SD 研修会.（2020 年 8 月）
3. 嶌田敏行「茨城大学の遠隔授業から見えてきた授業の質を高めるいくつかの方法」第 22 回 山形大学基盤教育ワークショップ.（2020 年 9 月）
4. 嶌田敏行「計画を立てる，測る －ロジックモデルと指標による計画立案と進行管理－」埼玉大学 FD/SD 研修会.（2020 年 10 月）
5. 嶌田敏行「遠隔授業をきっかけにした授業改善・教育改善」会津大学短期大学部 FD 研修会.（2020 年 11 月）
6. 嶌田敏行「教育の内部質保証・質向上のために IR ができること」教育の質保証・質向上オンラインセミナー ～After コロナを見据えて今大学ができること～（株式会社朝日ネット）.（2020 年 11 月）
7. 嶌田敏行「教育の内部質保証のために実際にやるべきこと」埼玉大学 FD/SD 研修会.（2020 年 10 月）
8. 嶌田敏行「実務担当者の分析事例（演習）」IRer養成講座（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室，名古屋大学高等教育研究センター）.（2020 年 12 月）
9. 嶌田敏行「大学評価で何が変わったのか －内部質保証の理想と現実とは－」大学改革支援・学位授与機構 研究開発部研究会（第 10 回）.（2021 年 1 月）

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 水戸事業場安全衛生委員会 委員［水戸事業場衛生管理者］
2. 教育改革推進委員会（事務局）

3. 総合教育企画部門会議 専任教員
4. 情報委員会 委員
5. 情報環境委員
6. 教員評価 WG 委員
7. 年俸制教員評価委員
8. 遠隔授業 TF 委員
9. 教務情報ポータル運用副委員長
10. 全学教育機構学術委員会 委員
11. 全学教育機構点検評価委員会 委員

〇 機構の業務等

1. 教育の内部質保証体制の運営支援（データ提供等）
2. 教務情報システムの運用支援，遠隔授業の実施支援等

共通教育部門	氏名　小林 邦彦

職名	教授
学位	修士（教育学）［茨城大学］
学歴	茨城大学大学院　教育学研究科教科教育専攻　英語教育専修［1994 年 3 月修了］
職歴	茨城大学　全学教育機構　教授(2019 年 4 月～) 茨城大学　全学教育機構　准教授(2016 年 4 月～2019 年 3 月) 茨城大学　人文学部　准教授(2004 年 4 月～2016 年 3 月　) 国立茨城工業高等専門学校　人文科学科　助教授(1998 年 4 月～2004 年 3 月)
所属学会	全国語学教育学会　全国英語教育学会　大学英語教育学会　関東甲信越英語教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	外国語教育
教育研究概要	異文化間コミュニケーション理論を外国語教育の入門期から体系的に導入するための「異文化間コミュニケーション・シラバス」の設計及び教授法の研究。心理言語学的プロセスを価値哲学，論理学，様相論理学，発話行為理論から解明する。第二言語習得理論，コミュニカティブ・アプローチを機軸とした動機付け理論，タスク理論，及び学習ストラテジーに関する認知学習理論の研究。
	（キーワード）「異文化間コミュニケーション」「コミュニカティブ・アプローチ」「第二言語習得理論」「動機付け理論」「タスク理論」「学習ストラテジー」「認知学習理論」「アウトプット理論」

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）Integrated English ⅡA【前期】, Advanced English ⅠA【前期】, Integrated English ⅡA【前期】, Integrated English ⅡB【後期】, Advanced English ⅠB【後期】, Integrated English ⅡB【後期】, TOEIC & TOEFL【3Q】, TOEIC & TOEFL【4Q】

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1. ［研究論文（大学，研究機関紀要）単著【査読あり】］Kunihiko Kobayashi"A Suprasegmental Approach －Pedagogical Application to TEFL in Japan －", (Institute for Liberal Arts Education, Ibaraki University) , 4, 55-64.（2021 年 03 月）

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 入試関係業務
2. 英語教育検討タスクフォース

○ 機構の業務等

1. Practical English Advanced English I コースコーディネーター

2. PE 部会長　補佐
3. 人事委員会　委員
4. 入試関係業務主任委員
5. 全学教育機構　点検評価委員会　委員
6. 共通教育部門　部門長補佐
7. GEP 専門部会　部会長

共通教育部門	氏名　上田 敦子

職名	准教授
学位	修士（国際コミュニケーション）［青山学院大学］
学歴	青山学院大学 文学部 英米文学科［1985 年卒業］ 青山学院大学大学院 国際政治経済学研究科 国際コミュニケーション 修士課程［2001 年修了］
職歴	（株）公文教育研究会（1985 年 04 月～1997 年 03 月）
所属学会	アジア英語教育学会　全国語学教育学会
受賞歴	茨城大学推奨授業「平成 15 年度英語Ⅰ」（2005 年 03 月）
学内兼務	なし
専門分野	外国語教育
教育研究概要	外国語教育現場での多読多聴活動，生涯学習としての多読多聴，学習不安，曖昧さに対する寛容性を意識したフルーエンシー重視の外国語学習
	（キーワード）多読　multiple intelligences　多聴（シャドーイング），曖昧さに対する寛容性，学習不安

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）Integrated English ⅡA【前期】，Advanced English　ⅡA【前期】，Integrated English ⅡA【前期】，Advanced English　ⅡA【前期】，Integrated English ⅡB【後期】，Advanced English　ⅡB【後期】，Integrated English ⅡB【後期】
学生支援・国際交流支援・特記事項	iOP チュートリアル「社会人の英語学習サポート」 学生サークル「マジックサークル　アンビシャス」，「SWAG」顧問

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

［研究論文（大学，研究機関紀要）共著【査読なし】］「共通シラバス英語科目に於ける質保証と学修支援への取り組み(2)：英語プレゼンテーションに於ける「流暢さ」と「発音，韻律」の評価に関するルーブリックの提示と学修者の意識への影響」全学教育機構論集大学教育研究第 4 号, 1-19.（2021 年 03 月）

［教育実践報告（大学，研究機関紀要）共著【査読なし】］「統一シラバス科目における Pleasure Reading 導入に対する課題と対応」全学教育機構論集 大学教育研究 第 4 号，133-144.（2021 年 03 月）
［研究論文（大学，研究機関紀要）共著【査読あり】］
「オンライン授業での英語プレゼンテーション実施に対する学修者の意識の変化と要因の分析」全学教育機構論集　グローバル教育研究　第 4 号，pp.73-92.（2021 年 3 月）

令和 2 年度における社会的活動，地域貢献など

○ 社会貢献活動
放送大学茨城学習センター　英会話サークル　サポート講師
○ 学外教育
1. ［非常勤講師］「英語 III・IV」常磐大学
2. ［非常勤講師］「シンプルな英語を使いこなそう 3」放送大学

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務
1. 入試関係業務
○ 機構の業務等
1. 点検評価委員
2. PE クラス編成委員長
3. PE AE II コースコーディネータ

共通教育部門	氏名　菊池 武

職名	准教授
学位	英語教授法修士[コロンビア大学大学院ティーチャーズカレッジ]
学歴	立教大学 文学部 英米文学科[1984 年 03 月卒業] コロンビア大学大学院 ティーチャーズカレッジ 英語教授法修士課程 修士課程[2003 年 02 月卒業]
職歴	いわき明星大学 人文学部(2011 年 4 月～2015 年 3 月) 教養学部(2015 年 4 月～2018 年 3 月) 准教授(2011 年 4 月～2018 年 3 月) 獨協大学 外国語学部英語学科(2007 年 4 月～2008 年 3 月) 法学部総合政策学科(2008 年 4 月～2011 年 3 月) 特任講師(2007 年 4 月～2011 年 3 月) 獨協大学 非常勤講師(2006 年 4 月～2007 年 3 月) いわき明星大学 非常勤講師(2003 年 10 月～2011 年 3 月) 茨城大学 非常勤講師(2003 年 4 月～2011 年 3 月) 茨城県教育委員会 教諭(1984 年 4 月～2003 年 3 月)
所属学会	大学英語教育学会　全国語学教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	外国語教育
教育研究概要	(キーワード)英語教育, 第二言語習得研究, 発音指導

令和 2 年度における教育活動

担当科目	(基盤科目)Integrated English ⅡA【前期】, Advanced English ⅡA【前期】, Integrated English ⅡA【前期】, Advanced English ⅡA【前期】, Integrated English ⅡB【後期】, Advanced English ⅡB【後期】, Integrated English ⅡB【後期】

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著]菊池　武「英語の発音学習に対しての大学生の意識の変化」, 茨城大学全学教育機構論集(大学教育研究), 4, 21-36. (2021 年 03 月)

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 学術委員会委員
2. 共通教育部門会議委員
3. GEP 部会委員
4. 入試関係業務委員

5. 英語教育検討タスクフォース

〇 機構の業務等

1. プラクティカルイングリッシュ部会部会長

共通教育部門	氏名　小西 康文

職名	准教授
学位	博士（物理学）［京都産業大学］
学歴	京都産業大学大学院 理学研究科 物理学専攻 博士後期課程［2010 年 03 月修了］
職歴	茨城大学 全学教育機構 准教授（2018 年 2 月～） 茨城大学 大学教育センター 准教授（2015 年 2 月～2018 年 1 月） 埼玉大学大学院 理工学研究科 研究支援者（2011 年 4 月～2015 年 1 月） 京都産業大学 益川塾 自然科学系研究員（2010 年 4 月～2011 年 3 月）
所属学会	日本物理学会
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理
教育研究概要	大学初年次の物理や数学，データサイエンス関係の教育をおこなっている。また，素粒子物理学における標準理論を超えた物理として，フレーバー領域を中心に研究をおこなっている。
	（キーワード） 素粒子，現象論，標準理論を超えた物理

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）力と運動【前期】，微積分学【前期】，微積分学入門【1Q】，微積分学基礎【2Q】，物質と生命【3Q】素粒子物理学における現象論Ⅰ，技術と社会【3Q】AI・データサイエンス入門，物質と生命【4Q】素粒子物理学における現象論Ⅱ，技術と社会【4Q】AI・データサイエンス入門
学生支援・国際交流支援・特記事項	iOP チュートリアル（2020 年 10 月～2020 年 11 月）

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1.［（MISC）総説・解説（大学・研究所紀要）単著］小西 康文「微分積分のオンライン授業に対するアンケート調査」，茨城大学全学教育機構論集 大学教育研究，4，127-132.（2021 年 03 月）

2.［（MISC）総説・解説（大学・研究所紀要）共著］「教育現場が直面している諸課題についての研究」，東京懇談会 研究紀要，**3**，17-77.（2020 年 11 月）

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 機構の業務等
1. 全学教育機構昇進選考委員
2. 全学教育機構採用選考委員
3. 全学教育機構点検評価委員
4. 微積分学の統一授業の運営等 取りまとめ
5. 自然・環境・科学部会の FD の準備と実施 日程調整, 司会進行など
6. TOEIC 一斉テストに関する業務 集計および解析

共通教育部門	氏名　佐藤 伸也

職名	准教授
学位	DOCTOR of PHILOSOPHY［サセックス大学］
学歴	東京理科大学 理工学部 情報科学科［1996 年 03 月卒業］ 東京理科大学大学院 理工学研究科 情報科学専攻 修士課程［1998 年 03 月修了］ 東京理科大学大学院 理工学研究科 情報科学専攻 博士課程［2002 年 03 月単位取得満期退学］ サセックス大学大学院 エンジニアリング・インフォマティクス研究科 インフォマティクス専攻 博士課程［2015 年 05 月修了］
職歴	茨城大学 全学教育機構 准教授（2017 年 4 月～） 茨城大学 大学教育センター 准教授（2015 年 9 月～2017 年 3 月） サセックス大学 エンジニアリング・インフォマティクス研究科，インフォマティクス専攻 准チューター（2014 年 2 月～2014 年 4 月） 姫路獨協大学 経済情報学部 准教授（法改正による職名変更）（2007 年 4 月～2012 年 3 月） 姫路獨協大学大学院 経済情報研究科 准教授（法改正による職名変更）（2007 年 4 月～2012 年 3 月） ロンドン大学キングスカレッジ コンピュータサイエンス学部 客員研究員（2006 年 9 月～2007 年 8 月） 姫路獨協大学大学院 経済情報研究科 助教授（2005 年 4 月～2007 年 3 月） 姫路獨協大学 経済情報学部 助教授（2004 年 4 月～2007 年 3 月） 姫路獨協大学 経済情報学部 専任講師（2002 年 4 月～2004 年 3 月）
所属学会	Association for Computing Machinery
受賞歴	なし
学内兼務	IT 基盤センター・教育 IT 化推進部門 部門長
専門分野	情報学基礎理論　計算機システム　ソフトウェア
教育研究概要	（キーワード）インタラクションネット　プログラミング言語　形式手法　項（グラフ）書き換え系

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）情報リテラシー【前期】，環境と人間【1Q】計算機科学への招待 II，技術と社会【3Q】AI・データサイエンス入門，環境と人間【4Q】計算機科学への招待，技術と社会【4Q】AI・データサイエンス入門，技術と社会【4Q】AI・データサイエンス基礎演習

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1.［研究論文（学術雑誌）共著【査読あり】］山本一幸，大瀧保広，佐藤伸也，嶌田敏行，野口宏，羽渕裕

真，外岡秀行「問合せデータの分散表現を用いた分類」，学術情報処理研究，24，1，68-77.（2020 年 12 月）
2.［研究論文（学術雑誌）共著【査読あり】］大瀧保広，嶌田敏行，山本一幸，野口宏，佐藤伸也，外岡秀行，羽渕裕真「茨城大学における遠隔授業／テレワーク支援」，学術情報処理研究，24，1，58-67.（2020 年 12 月）

令和 2 年度における社会的活動，地域貢献など

○ 社会貢献活動

1.［セミナー・ワークショップ］「機械学習入門ハンズオン ―転移学習から勾配ブースティングまで―」，学習分析学会 卯木輝彦（株式会社フォトロン 研究開発センター長，学習分析学理事） 佐藤伸也（茨城大学 准教授）（株式会社フォトロン 会議室 （東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング 21 階）），［役割］：講師,助言・指導 ［対象］：社会人・一般

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 教務情報ﾎﾟｰﾀﾙｼｽﾃﾑ専門委員会

○ 機構の業務等

1. LMS manaba 運用チーム
2. 全学教育機構 共通教育部門 情報・数理・データサイエンス部会 部会長
3. 部局技術責任者
4. 基盤・教養科目事前申告抽選アプリの作成
5. 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ予約サイトの作成・管理・運用
6. ALC 用サーバー管理
7. IT 基盤センター 教育 IT 推進部門 部門長

共通教育部門	氏名　清水 恵美子

職名	准教授
学位	修士（学術）［茨城大学］ 博士（学術）［お茶の水女子大学］
学歴	茨城大学大学院 人文科学研究科 文化構造専攻 修士課程［2003 年修了］ お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 国際日本学専攻 博士後期課程［2008 年修了］
職歴	茨城大学 全学教育機構 准教授（2018 年 4 月～） 茨城大学 五浦美術文化研究所 所員（2015 年 11 月～） 茨城大学 社会連携センター 准教授（2015 年 2 月～2018 年 3 月） お茶の水女子大学 生活科学部 学部教育研究協力員（2013 年～2015 年） お茶の水女子大学 お茶大アカデミック・プロダクション 特任リサーチフェロー（2011 年～2012 年） 国士舘大学 文学部 非常勤講師（2010 年～2015 年） 芝浦工業大学 工学部 非常勤講師（2010 年～2015 年） お茶の水女子大学 生活科学部 非常勤講師（2010 年～2015 年） お茶の水女子大学 比較日本学教育研究センター 客員研究員（2009 年～2015 年） お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科研究院 研究員（2008 年～2011 年） 茨城大学 人文学部・大学共通センター 非常勤講師（2006 年～2015 年）
所属学会	日本フェノロサ学会　日本比較文学会　明治美術学会
受賞歴	文化庁 平成 24 年度（第 63 回）芸術選奨文部科学大臣新人賞（評論等部門）（2013 年） いばらきデザインセレクション 2017 知事選定「五浦コヒーを媒介とした岡倉天心・五浦発信」（2017 年 11 月）
学内兼務	五浦美術文化研究所・運営委員
専門分野	近代美術史　文学一般(比較文学比較文化)　日本史(近現代史)
教育研究概要	岡倉覚三（天心），日本美術院，岡倉由三郎，日米印の美術交流に関する研究。岡倉覚三の思想と生涯の活動について，晩年の五浦・ボストン往復時代を中心に，美術史，芸術思想史，比較文学比較文化，文化交流史，近代日本史など多角的な領域から研究している。
	（キーワード）岡倉天心（覚三） 近代美術史 比較文学比較文化 文化交流史 芸術思想史

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1. ［単行本（学術書）・分担執筆］清水恵美子「五浦を巡る岡倉覚三のヴィジョン」. 森田義之・小泉晋弥（編者）『新訂増補 岡倉天心と五浦』，中央公論美術出版，137-150.（2021 年 03 月）

2. ［単行本（学術書）・分担執筆］Emiko Shimizu, “Kakuzō Okakura in cultural exchange between India and Japan: Dialogue with Swami Vivekananda and Rabindranath Tagore”,Madhu Bhalla ed., *“Culture as Power: Buddhist Heritage and the Indo-Japanese Dialogue*, Routledge, 49-68.（2020 年 12 月）

3.［(MISC)書評,文献紹介等単著【依頼/招待】］清水恵美子「岡倉天心消息の紹介(1)」,『江戸千家便覧ひとゝき草』137, 江戸千家連合不白会, 24-25.（2020 年 12 月）

○ 競争的資金 共同・受託研究

1. 科学研究費補助金(科学研究費補助金 基盤研究(C))「「世紀転換期から戦後の美術交流における新納忠之介の文化財保護活動に関する研究」」(研究代表者) 日本学術振興会(2018 年度～2020 年度)

○ 学術貢献活動

1.「飯村丈三郎研究会」,［企画立案・運営等］

2.「地方史研究協議会茨城大会実行委員」,［企画立案・運営等］

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 機構の業務等

1. 全学教育機構 共通教育部会 地域志向教育プログラム部会

2. 五浦美術文化研究所運営委員

共通教育部門	氏名　シャノン フレデリック

職名	准教授
学位	博士［クイーンズランド大学］ 修士［サザン・クイーンズランド大学］ 学部［サイモンフレーザー大学］ ケンブリッジ大学 英語教授法資格［ケンブリッジ大学］
学歴	クイーンズランド大学大学院 教育学部 教育 博士課程［2008 年 01 月修了］ サザン・クイーンズランド大学大学院 教育学部 言語学 修士課程［2004 年 07 月修了］ サイモンフレーザー大学 犯罪学部 犯罪学部［1996 年 07 月卒業］
職歴	九州大学（2010 年 10 月～2012 年 3 月）
所属学会	
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	応用言語学
教育研究概要	（研究経歴） 　私はこれまで数年間日本の大学レベルで外国語としての英語（EFL）を教えてまいりました。私の授業を通して学生たちが新しい言葉を学んだり，これまで知らなかったことを理解したりしてくれることに非常に喜びとやりがいを感じております。 　私は教員としてのキャリアの早期から，TESOL の学術分野と応用言語学について学び，教えることに魅力を感じてきました。また，学生たちの語学力を伸ばすために彼らをサポートできることに喜びを感じております。 　よりよい英語教師となることができるように，私は TESOL／応用言語学，教育学の分野で学位を取得しました。私は博士課程で英語専攻以外の学生を対象としたリスニング能力に重点を置いた語学教育について研究を行いました。 　応用言語学修士課程では EFL 学習者による言語習得方略の使用について研究しました。また，ケンブリッジの CELTA（Certificate of English Language Teaching to Adults）も取得しております。私は自分のキャリアを開発する決意をして，語学教育に関するスキルと知識の向上に努めてまいりました。日本で教える外国人教師の中でも英語教育の博士号を保持している人は非常に限られており，TESOL 分野における私の学術的背景によって，大学の課程に積極的な貢献ができると信じております。 　さらに，私は大学レベルでの豊富な指導経験があります。学部および大学院の英語専攻と非英語専攻の学生たちに対して英語関連の指導を行ってまいりました。これまでに教えたことのあるコースとしては，(1) プレゼンテーションスキル，(2) アカデミックライティング，(3) TOEIC，(4) TEOFL，(5) リスニングスキル，(6) ショートフィクション（詩および短編小説），(7) 4 スキル会話クラスなどがあります。 　加えて，大学のほか，短期大学，高等学校，民間の語学学校，企業（NEC，トヨタ，マイクロソフトなど）での指導経験も豊富です。 また，学部教員陣容の一員として，研究および学術

	活動にも参加してまいりました。これまでの大学および学科では広報活動にも積極的に参加し，たとえば学生やスタッフが彼らの英語を練習し，フィードバックを得る機会である「English Corner」というミーティングを毎週開催したり，大学院生向けに「Writing Clinic」を毎週行い，ライティングの支援をしたりした経験があります。また，大学の体育祭やスピーチコンテスト，寸劇コンテストなどにも参加しました。また，通常の職員会議等にも出席し，英語専攻以外の学生向けのカリキュラム開発や教材の選択なども行いました。そして，大学の入学試験の作成や実施，採点作業の支援も行ってきました。 　私は日本語で学生やスタッフとコミュニケーションをとったり，一般的な業務を行ったりすることができます。 　このような理由から，私は大学での英語教員の職に適していると信じております。
	(キーワード)ナチュラルアプローチー，クラッシェン，SLA モデル，情意フィルター，インタラクション仮説，インプット仮説，生得理論，言語習得装置，モニターモデル，ナチュラルアプローチ，相互交流仮説，インプット仮説，生得理論，意味交渉，最近接発達の領域（ZPD）

令和 2 年度における教育活動

担当科目	(基盤科目)Advanced English　ⅢA【前期】, Integrated English　ⅡA【前期】, Advanced English　ⅢC【前期】, English for Socializing【1Q】, Advanced English　ⅢB【後期】, Integrated English　ⅡB【後期】 (専門科目)English Seminar for Intercultural Communication Ⅳ, 英語圏の文化と社会Ⅱ

共通教育部門	氏名　シュミット ロナルド

職名	准教授
学位	D.Ed.[University of South Africa] M.Ed.[University of Manchester] B.Ed.[University of Toronto] B.F.A.[York University (Toronto)]
学歴	University of South Africa Didactics 博士課程[2014 年 10 月] Humber College Audio-Visual Production, Television[1986 年卒業] York University 芸術工学部[1991 年卒業] University of Toronto 教育学部[1993 年卒業] University of Manchester 大学院 English Language Teaching Master of Education in English Language Teaching (M.Ed. ELT). 修士課程[2000 年修了]
職歴	2017-2021 Tokiwa University. Part-time English lecturer. 2005 - present. Ibaraki University. Full-time Associate Professor. 2000 - 2005 Josai University. Full-time English lecturer. 1997 - 1999 Kyoei Senior High School. English teacher. 1995 - 1997 Honjo Daiichi Senior High School. English teacher. 1994 - 1995 Misugi Junior High School. Assistant English teacher.
所属学会	JALT
受賞歴	Best Presentation of Chiba JALT 2003(2004 年)
学内兼務	なし
専門分野	English language pedagogy
教育研究概要	(研究経歴) I am currently conducting research in the following areas: Nonverbal communication, interpersonal competence, intonation and pronunciation. Intercultural communication, interpersonal competence, multiple intelligences theory in second language education, space in visual art, nonverbal communication. interpersonal competence, intonation and pronunciation
	(キーワード)異文化コミュニケーション 個人教育 視覚文化 コンピュータ支援型言語学習 英語教育

令和 2 年度における教育活動

担当科目	(基盤科目)Advanced English ⅡA【前期】, Integrated English ⅡA【前期】, Advanced English ⅢC【前期】, Advanced English ⅡB【後期】, Integrated English ⅡB【後期】, Academic Writing【3Q】, Studying Abroad【4Q】 (専門科目)English Seminar for Intercultural Communication Ⅲ

学生支援・国際交流支援・特記事項	I helped prepare students for study abroad programs.

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1. [教科書・共著]Ronald Schmidt-Fajlik Pramith Perera"Grammar Practice: Advanced Level", Independent. (2020 年 11 月)

2. [教科書・共著]Ronald Schmidt-Fajlik Pramith Perera"Grammar Practice: Intermediate Level", Independent. (2020 年 11 月)

3. [教科書・共著]Ronald-Schmidt-Fajlik Pramith Perera"English Grammar Practice: Elementary", Independent. (2020 年 11 月)

4. [教科書・共著]Ronald Schmidt-Fajlik Pramith Perera"English Grammar Practice: Beginner Level", Independent. (2020 年 11 月)

5. [研究論文(学術雑誌)単著【査読あり】]Ronald Schmidt-Fajlik"Foreign Language Reading Anxiety and Mindfulness", The Language Teacher (Japan Association for Language Teaching) , **44**, 4, 3-11. (2020 年 06 月)

令和 2 年度における社会的活動，地域貢献など

○ 社会貢献活動

1. Created Youtube videos to teach English.

○ 学外教育

1. -Part-time English teacher at Tokiwa University
   -Created online education videos

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. Helped create and inspected the English entrance exam.

共通教育部門	氏名　関 友作

職名	准教授
学位	博士（学術）［東京工業大学］
学歴	一橋大学 社会学部 社会理論課程（社会言語学）［1987 年卒業］ 東京工業大学大学院大学院 総合理工学研究科 システム科学専攻 博士課程［1996 年修了］
職歴	日本鉱業 株式会社（現・ENEOS(株)）（1987 年 4 月～1990 年 3 月）
所属学会	日本教育工学会　教育システム情報学会　ヒューマンインタフェース学会　日本認知科学会
受賞歴	なし
学内兼務	IT 基盤センター・教育 IT 化推進部門
専門分野	教育工学　認知科学
教育研究概要	（キーワード）テクニカル・コミュニケーション　理解しやすい説明の方法　文書情報の理解（紙・電子文書）

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）情報リテラシー【前期】 （専門科目）情報編集法【18P・17P 対象】/情報編集法/情報編集法【16P 以前入学者対象】，データ解析法，卒業研究【16P 以前入学者対象】 （大学院科目）人間システム基礎論Ⅱ【2Q】，認知学習心理学

令和 2 年度における社会的活動，地域貢献など

○ 学外教育

1. ［非常勤講師］「茨城キリスト教大学「学校図書館メディアの構成」講義」，30 時間，90 名出席，茨城キリスト教大学
2. ［非常勤講師］「水戸市医師会看護専門学院「論理学」講義」，30 時間，40 名出席，水戸市医師会看護専門学院
3. ［非常勤講師］「茨城キリスト教大学「情報メディアの活用」講義」，30 時間，90 名出席，茨城キリスト教大学

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 遠隔授業タスクフォース委員
2. 教務情報ﾎﾟｰﾀﾙｼｽﾃﾑ専門委員会

共通教育部門	氏名　山崎 大

職名	准教授
学位	修士(理学)［東京大学］ 博士(理学)［東京大学］
学歴	東京大学大学院 理学系研究科 天文学専攻 博士課程［2007 年 03 月修了］
職歴	2004 年 4 月～2006 年 3 月 国立天文台リサーチ・アシスタント 2006 年 4 月～2007 年 3 月 日本学術振興会特別研究員(DC2) 2007 年 4 月～2008 年 3 月 日本学術振興会特別研究員(PD) 2008 年 4 月～2009 年 3 月 国立天文台研究支援員 2009 年 4 月～2011 年 3 月 Postdoctoral Fellow, Academia Sinica, Institute of Astronomy and Astrophysics (Republic of China) 2011 年 4 月～2014 年 3 月 国立天文台研究員 2014 年 4 月～2015 年 2 月 千葉工業大学学習支援センター学習支援員（専任講師相当） 2014 年 4 月～2021 年 3 月 国立天文台特別客員研究員 2015 年 2 月～2017 年 3 月 茨城大学 大学教育センター 准教授 2017 年 4 月～2021 年 3 月 茨城大学 全学教育機構 准教授（所属部署の名称変更）
所属学会	Japan SKA Consortium　日本天文学会
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	天文学　素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理
教育研究概要	1.「研究」 初期宇宙の物理過程に対する原初磁場の影響を研究。特に，相対論的宇宙論と電磁流体力学に対応した，原初磁場の空間分布を数値的に計算するプログラムを開発し，統計的な手法を駆使し，宇宙背景放射と物質密度場に対する原初磁場の影響に関する研究の発展に貢献してきた。最近は，観測事実をもとに理論モデルを検証する観測的宇宙論の手法により，原初磁場を考慮したビッグバン元素合成やダークマター候補となる X 粒子探索等の素粒子論・原子核理論に関連する研究も行っている。 2.「教育」 物理学と数学の授業について，その成績と授業出席について統計的に調査し，その結果を反映した基礎教育改善のための授業計画の立案，教材・板書ノート・教科書作成，および試験問題作成を行う。また，学習相談の専用窓口で，多くの学生の学習相談に対応しつつ，より多くの学生が気兼ねなく学習相談できる環境の改善を推進してきた。
	(キーワード)宇宙論　宇宙背景放射　原初磁場　大規模構造形成　ビッグバン元素合成

令和 2 年度における教育活動

担当科目	(基盤科目)微積分学【前期】, 力学入門【1Q】, 力学基礎【2Q】, 力と運動【後期】, 物質と生命【3Q】宇宙論史 I, 技術と社会【3Q】AI・データサイエンス入門, 物質と生命【4Q】宇宙論史 II, 技術と社会【4Q】AI・データサイエンス入門
学生支援・国際交流支援・特記事項	1.「力学入門/基礎」用の on demand 教材の開発と活用(予習復習用) 2.「力と運動」用の on demand 教材の開発と活用(予習復習用) 3.「微積分学」用の on demand 教材の開発と活用(予習復習用)

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著【筆頭著者】]山崎大「遠隔教育における試験の在り方」, 茨城大学全学教育機構論集. 大学教育研究(茨城大学全学教育機構), 4, 75-82. (2021 年 03 月)

2. [研究論文(国際会議プロシーディングス)共著【査読あり】]Mathews, G. J.; Kedia, A.; Sasankan, N.; Kusakabe, M.; Luo, Y.; Kajino, T.; Yamazaki, D.; Makki, T.; El Eid, M.″Cosmological solutions of the lithium problem″, Memorie della Societa Astronomica Italiana, 91, 29. (2020 年 06 月)

○ 学会発表等

1. [口頭発表(一般)・共同] 山崎大 (茨城大学, 国立天文台), 日下部元彦 (北京航空航天大学), 梶野敏貴 (国立天文台, 北京航空航天大学)「ビッグバンから宇宙の晴れ上がりまでの連続性を考慮したパラメータ制限」[日本天文学会 2020 年秋季年会・・](2020 年 09 月)

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 全学教育機構 共通教育部門 自然・環境・科学部会 部会長
2. 全学教育機構 人事委員会 委員
3. 令和元年度 後期 科学の基礎および自然環境と人間 FD 主催
4. 令和 2 年度 前期 科学の基礎および自然環境と人間 FD 主催
5. 令和 3 年度 自然環境と人間, 科学の基礎 科目 シラバスチェック (令和 3 年度科目のシラバス)

○ 機構の業務等

1. 茨城大学数理解析への「微分積分の基礎」編集委員会 委員
2. 茨城大学 力学教科書編集委員会 委員長
3. 統一授業「微積分学」運営業務
4. 統一授業「力と運動」運営業務
5. 微分積分の基礎テスト作成協力
6. 力学の基礎テスト作成・採点・クラス分け

共通教育部門	氏名　大津 理香

職名	講師
学位	文芸学修士[共立女子大学] Master of Science in TESOL[California State University, Fullerton]
学歴	共立女子大学大学院文芸学研究科 1998/03/31 修了 California State University, Fullerton, Humanities and Social Sciences　2011/05/27 修了
職歴	常磐大学国際学部助教 2013/04/01-2015/03/31 いわき明星大学(現医療創生大学)教養学部准教授 2015/04/01-2018/03/31
所属学会	日本英語教育英学会　The Japan Association for Language Teaching (JALT)　Teachers of Speakers of Other Languages (TESOL)
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	英語教育
教育研究概要	・英語学習者の「やる気」「学習時間」「学びやすい環境」を大事に授業内外で教育支援を実施。 ・英語学習者の英語力向上のために，1)授業中の活動を教師だけではなく学生同士で評価することの効果，2)英語再履修者の削減，3)学生による英語絵本の読み聞かせが学生自身に与える影響，4)短期語学留学の効果，についての研究をこれまで実施。
	(キーワード) 動機付け，ピアレビュー，英語絵本，短期語学留学

令和 2 年度における教育活動

担当科目	［前期］Integrated English IIA, Advanced English IIA, Advanced English IIIA［後期］Integrated English IIB, Advanced English IIB, Advanced English IIIB

令和 2 年度における研究活動

〇 学会発表等

“Motivating English learners through the voluntary reading of English picture books to children –the influence upon university student volunteer readers–”. JALT Ibaraki Chapter meeting on Zoom.　September 19th, 2020.

共通教育部門	氏名　大森 真

職名	講師
学位	第二言語研究 修士[ハワイ大学　マノア校]
学歴	ハワイ大学　マノア校大学院 第二言語研究学科 第二言語研究 修士課程[2006 年 12 月修了] ハワイ大学　マノア校大学院 第二言語研究学科 第二言語研究 博士課程[2012 年コース課程修了後休学]
職歴	国立大学法人　茨城大学　全学教育機構　英語専任講師（常勤）（2017 年 4 月～） 国立大学法人　茨城大学　大学教育センター　英語専任講師（常勤）（2014 年 4 月～2017 年 3 月） 非営利団体　アジア太平洋交流センター（Center for Asia Pacific Exchange; ハワイ大学と提携し，ハワイ州政府に帰属する教育系非営利団体）　講師兼カリキュラム専門家（2011 年 6 月～2012 年 8 月） ハワイ大学マノア校　第二言語研究学科 非常勤講師［担当講座］第二言語習得論 第二言語教授法 第二言語教授法ー読解と作文 第二言語教授法ー聴解と会話（2007 年 8 月～2012 年 5 月） ハワイ大学マノア校 English Language Institute リスニング・スピーキングセクション主任講師（Lead Teacher）（非常勤）（2007 年 1 月～2007 年 5 月） ハワイ大学マノア校 English Language Institute 非常勤講師 リスニング・スピーキングセクション（中級・上級）担当（学部生・大学院生対象）（2006 年 1 月～2006 年 12 月）
所属学会	一般社団法人 大学英語教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	英語教育
教育研究概要	[教育] 1.「TOEIC 企画運営」[運営委員長] 2.「IE III コーディネーター」 3.「英語学習相談」 4.「入試採点」 [教育実践研究プロジェクト] 1.「オンライン授業での英語プレゼンテーション実施に対する学修者の意識の変化と要因の分析」 上記研究では，学修者のオンライン発表に対する意識の変化と，その要因を分析した。つまり，学修者が，遠隔での準備，練習，発表，相互評価に関して感じている利点や困難，意欲や不安と，各自の IT 環境とスキル，遠隔教育の経験，自律的学修習慣の影響について，アンケート調査によって検証した。

	2.「共通シラバス英語科目に於ける質保証と学修支援への取り組み(2):英語プレゼンテーションに於ける「流暢さ」と「発音，韻律」の評価に関するルーブリックの提示と学修者の意識への影響」 自身がカリキュラム作成・運営し，且つ授業を担当している Integrated English III において，プレゼンテーションとエッセイの詳細なルーブリックの開発と学生への公表による学修への意識の変化を調査してきた。上記論文では，英語プレゼンテーションに於ける「流暢さ」と「発音，韻律」の評価に関するルーブリックの提示と学修者の意識への影響を調査した。
	(キーワード)英語教授法，オンラインプレゼンテーション，ルーブリック

令和 2 年度における教育活動

担当科目	(基盤科目)Integrated English ⅢA【前期】, Advanced English ⅢA【前期】, Integrated English ⅢB【後期】, Advanced English ⅢB【後期】

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1.［研究論文(大学，研究機関紀要)共著【査読あり・筆頭著者】］大森真，沼田世里，上田敦子，矢嶋敬紘「オンライン授業での英語プレゼンテーション実施に対する学修者の意識の変化と要因の分析」，茨城大学全学教育機構論集「グローバル教育研究」第4号，.（2021 年 03 月）

2.［研究論文(大学，研究機関紀要)共著【筆頭著者】］大森真，沼田世里，上田敦子，矢嶋敬紘「共通シラバス英語科目に於ける質保証と学修支援への取り組み(2):英語プレゼンテーションに於ける「流暢さ」と「発音，韻律」の評価に関するルーブリックの提示と学修者の意識への影響」，茨城大学全学教育機構論集「大学教育研究」第4号，.（2021 年 03 月）

共通教育部門	氏名　佐々木 友美

職名	講師
学位	修士［University of Hawaii at Manoa］
学歴	国際基督教大学 教養学部 語学科［2000 年 03 月卒業］ University of Hawaii at Manoa Department of Second Language Studies English as a Second Language 修士課程［2003 年 05 月修了］ 上智大学大学院 外国語研究科 言語学専攻 博士後期課程［2011 年 03 月中退］
職歴	茨城大学 全学教育機構 講師（2017 年 4 月～） 茨城大学 人文学部 講師（2015 年 10 月～2017 年 3 月） マーケティング・リサーチ企業 定性調査部門，リサーチコンサルティング部門 リサーチャー，シニアリサーチャー（2011 年 9 月～2015 年 9 月） 亜細亜大学 経営学部 専任講師（2009 年 4 月～2011 年 3 月） 防衛大学校 総合教育学群外国語教育室 助教（2007 年 10 月～2009 年 3 月） 青山学院大学 経営学部 兼任講師（2005 年 4 月～2007 年 9 月） 立教大学 全学共通カリキュラム 兼任講師（2004 年 4 月～2007 年 9 月） 多摩大学 経営情報学部 非常勤講師（2003 年 4 月～2005 年 3 月）
所属学会	大学教育学会　大学英語教育学会　International Society for Cultural and Activity Research (ISCAR)
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	外国語教育
教育研究概要	（キーワード）Second/foreign language education, Language socialization, Sociocultural theory, Qualitative research

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1. ［研究論文（大学，研究機関紀要）共著【筆頭著者】］佐々木友美・上田敦子「統一シラバス科目における Pleasure Reading 導入に対する課題と対応」，茨城大学全学教育機構論集 大学教育研究，4，133-144.（2021 年 03 月）

共通教育部門	氏名　鈴木 聡子

職名	講師
学位	博士［Temple University, Japan Campus］ 修士［Temple University, Japan Campus］
学歴	Temple University, Japan Campus Graduate College of Education Curriculum, Instruction, and Technology 博士課程［2017 年 05 月修了］
職歴	青山学院大学非常勤講師（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 文教大学非常勤講師（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 日本大学非常勤講師（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 文教大学非常勤講師（2009 年 4 月～2016 年 3 月） テンプル大学ジャパンキャンパス生涯教育プログラム非常勤講師（2009 年 9 月～2011 年 4 月） 青山学院大学非常勤講師（2007 年 4 月～2016 年 3 月）
所属学会	外国語教育メディア学会（LET）　全国英語教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	外国語教育
教育研究概要	（キーワード） Global Englishes, 発音, 音読, シャドーイング, リスニング, スピーキング, タスク, 自律学習

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）Integrated English ⅡA【前期】, Advanced English ⅢA【前期】【日立開講】, Integrated English ⅡA【前期】, Advanced English ⅢA【前期】【日立開講】, Advanced English ⅢA【前期】, Advanced English ⅡA【前期】【阿見開講】, Integrated English ⅡB【後期】, Advanced English ⅡB【後期】, Integrated English ⅡB【後期】, Advanced English ⅢB【後期】【日立開講】, Advanced English ⅡB【後期】, Advanced English ⅢB【後期】【阿見開講】
学生支援・国際交流支援・特記事項	英語学習相談室（年度不詳）

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1. ［研究論文（大学, 研究機関紀要）単著］"Exploration of Task Evaluation, Engagement, and Vocabulary Acquisition of a One-Semester Extensive Reading", 茨城大学全学教育機構論集大学教育研究, 4, 65-74.（2021 年 03 月）

2.［研究論文（学術雑誌）共著【査読あり】］Yo Hamada & Satoko Suzuki″Listening to Global Englishes: Script-assisted shadowing″, International Journal of Applied Linguistics, **31**, 1, 31-47.（2020 年 10 月）

○ 学会発表等

1.［口頭発表（一般）・単独］″Vocabulary acquisition through extensive listening¥［JALT 2020 online, 46th Annual International Conference on Language Teaching and Learning・・］（2020 年 11 月）

共通教育部門	氏名　館 深雪

職名	講師
学位	教育学部英語教育学科学士［ボブ・ジョーンズ大学］ 教育学研究科修士課程心理教育学修士［ボブ・ジョーンズ大学大学院］ アーツ・サイエンス研究科修士課程心理教育学専攻言語教育修士［国際基督教大学］
学歴	ボブ・ジョーンズ大学 教育学部 英語教育学科［1998 年 05 月卒業］ ボブ・ジョーンズ大学大学院 カウンセリング科 修士課程［2000 年 05 月修了］ 国際基督教大学大学院 アーツ・サイエンス研究科修士課程 心理教育学専攻言語教育 修士課程［2015 年 03 月修了］
職歴	茨城大学　全学教育機構 講師（2015 年 2 月～） 株式会社ゼウス・エンタープライズ バイリンガル・コーディネーター課 課長（2008 年 9 月～2013 年 3 月） Calvary Christian Academy（北マリアナ諸島サイパン島） 英語教師（中等部，高等部）（2000 年 8 月～2007 年 7 月）
所属学会	Japan Association for Language Teaching,全国英語教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	言語教育，英語教育，TESL
教育研究概要	コミュニケティブ コンペテンスに対するコミュニケーション意欲の影響を調査し，大学英語教育及び企業英語使用現場にて取り入れるための方法における研究
	（キーワード） コミュニケティブ コンペテンス，コミュニケーション意欲，企業英語

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）Integrated English ⅢA【前期】，Advanced English ⅢA【前期】，Bilingualism【1Q】，Integrated English ⅢB【後期】，Advanced English ⅢB【後期】，Integrated English ⅢB【後期】，人間とコミュニケーション【3Q】Cross-cultural Understanding: Japan and America，人間とコミュニケーション【4Q】【阿見開講】Cross-cultural Understanding: Japan and America

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 機構の業務等
1. 全学教育機構予算・施設委員
2. PE　英語学修支援チーフ
3. PE　TOEIC　企画副担当
4. GEP 部会員

5. Practical English 部会員

6. PE Advanced English III コーディネーター

共通教育部門	氏名　大山 廉

職名	助教
学位	文学修士［東北学院大学大学院］ 文学博士［東北学院大学大学院］
学歴	東北学院大学 文学部 英文学科［2013 年 03 月卒業］ 東北学院大学大学院 文学研究科 英語英文学専攻 応用言語学・英語教育学専修 博士前期課程［2015 年 03 月修了］ 東北学院大学大学院 文学研究科 英語英文学専攻 応用言語学・英語教育学専修 博士後期課程［2020 年 03 月修了］
職歴	茨城大学 全学教育機構 助教（2019 年 4 月～） 東北学院大学 非常勤講師（2018 年 4 月～2019 年 3 月） 山形県立新庄北高等学校 非常勤講師（2015 年 4 月～2016 年 3 月） 東北学院榴ケ岡高等学校 非常勤講師（2014 年 4 月～2019 年 3 月）
所属学会	日本第二言語習得学会　大学英語教育学会　Asia TEFL　東北英語教育学会　全国英語教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	外国語教育
教育研究概要	（キーワード）教室における第二言語習得，英語教育学

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）Integrated English ⅡA【前期】, Advanced English ⅡA【前期】, Integrated English ⅡA【前期】, Advanced English ⅢA【前期】【日立開講】, Advanced English ⅡA【前期】, Integrated English ⅡB【後期】, Advanced English ⅡB【後期】, Integrated English ⅡB【後期】

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1.［研究論文（学術雑誌）単著【査読あり・筆頭著者】］Ren Oyama″The effects of affective input enhancement on second language development in Japanese university students″, The Journal of Asia TEFL (Asia TEFL) , **17**, 1, 1-17.（2020 年 04 月）

○ 学会発表等

1.［口頭発表（一般）・単独］「インプット内容の情意処理が日本人大学生のテキスト理解と語彙，文法の学習に与える効果」［第 20 回日本第二言語習得学会国際年次大会（J-SLA2020)・・］（2021 年 03 月）

2.［口頭発表（一般）・単独］ 大山廉「大学共通英語科目におけるオンデマンド型授業の実践」［第 7 回東北英語教育研究フォーラム・・］（2021 年 03 月）

○ 学術貢献活動

1.『ことばの科学研究』(第 22 号)論文査読担当(ことばの科学会)

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 機構の業務等

1. TOEIC 実施委員

学生支援部門	氏名　小磯 重隆

職名	准教授
学位	修士（法学）［筑波大学］
学歴	金沢大学大学院 社会環境科学研究科（博士後期課程）［2004 年 10 月中退］
職歴	JUKI 株式会社 工業用ミシン事業部縫製能率研究所（1987.4～1999.3） 雇用促進事業団（独立行政法人雇用・能力開発機構）（1999.4～2004.10） 国立大学法人弘前大学 教育推進機構キャリアセンター准教授（2004.11～2016.6） 国立大学法人茨城大学 全学教育機構キャリアセンター准教授（2016.7～現在）
所属学会	日本キャリア教育学会　日本職業教育学会　日本労働法学会　日本キャリアデザイン学会
受賞歴	日本学術振興会「科研費」審査委員 表彰（2016 年）
学内兼務	なし
専門分野	社会法学（労働法） 社会学（職業能力開発） 教育社会学（キャリア教育）
教育研究概要	キャリア教育を中心に労働法及びアクティブラーニングの観点から若年者雇用問題を研究している。「多人数アクティブラーニング実践モデルの研究」では，固定式の机とイスで実践可能なキャリア教育を研究している。「若年者の職場定着に関する研究～職業教育を通じて」では，若者が「仕事を楽しめる能力」を身に付ける研究を行った。 他に，地方創生（COC プラス），男女共同参画推進の活動を行っている。「大学に求められるキャリア教育とは何か」弘前大学 21 世紀教育センター，「地方創生と学生の地元就職」弘前大学教養教育実践開発センターなど。
	（キーワード）キャリア教育，労働法，職業能力開発，男女共同参画，地方創生

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）ライフデザイン-社会と私（P1/P2：教育学部）/ライフデザイン-社会と私（A：農学部）/ライフデザイン-社会と私（T1/T2/T3：工学部），公共社会-仕事を考える（Q2/Q4），公共社会-キャリアデザイン論，
学生支援・国際交流支援・特記事項	［部局教育改善］「茨城大学 FD days」への参加（2020 年 12 月） ［部局教育改善］「遠隔授業/テレワークに関する FD」への参加（2020 年 11 月） Web 就職ガイダンス「就職ガイダンス＜就活準備編＞」①②（2020 年 6 月/7月） Web 就職ガイダンス「インターンシップの参加を考える」（2020 年 6 月） Web 就職ガイダンス「インターンシップ＆就職ガイダンスⅠ」（2020 年 6 月） Web 就職ガイダンス「夏休みの過ごし方講座」（2020 年 7 月） Web 就職ガイダンス「動画選考準備講座」（2020 年 7 月） Web 就職ガイダンス「公務員ガイダンス」①②（2020 年 10 月） Web 就職ガイダンス「自己分析」①②（2020 年 10 月）③④（2020 年 11 月） Web 就職ガイダンス「就職活動の流れ」①②③（2020 年 10 月） Web 就職ガイダンス「スタートアップ Ver.1/2/3」①②（2020 年 10 月/11 月 12 月） Web 就職ガイダンス「業界・企業研究」①②（2020 年 11 月）

	Web 就職ガイダンス「内定者報告会」①②（2020 年 12 月） Web 就職ガイダンス「履歴書・ES」①②（2020 年 12 月） Web 就職ガイダンス「SPI 対策」①②（2020 年 12 月） Web 就職ガイダンス「筆記試験対策」①②（2020 年 12 月） Web 就職ガイダンス「履歴書・エントリーシート」①②（2021 年 1 月） 就活継続セミナー①②/③（留学生向け）（2021 年 1 月） Web 就職ガイダンス「就活マナー講座」①②（2021 年 1 月） Web 就職ガイダンス「企業研究・求人票の見方」①②（2021 年 1 月） 合同企業説明会活用講座①②③（2021 年 2 月） Web 就職ガイダンス「面接・集団討論」①②（2021 年 2 月） 公務員試験合格者報告会（2021 年 2 月）

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

「留学生の日本での就職とキャリア教育の課題」茨城大学全学教育機構論集グローバル教育第4号（P61～71）2021 年

令和 2 年度における社会的活動，地域貢献など

○ 学外委員等

1.「みと好文カレッジ運営審議会（委員）」水戸市教育委員会

2.「水戸市男女平等参画センター運営委員会（委員）」水戸市市民協働部

○ 学外教育

1.［非常勤講師］「キャリアデザイン A/B（留学生クラス）尚美学園大学」

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 機構の業務等

1. 全学教育機構人事委員会

2. 全学教育機構学生支援部門会議

学生支援部門	氏名　矢嶋 敬紘

職名	准教授
学位	修士（教育学）［茨城大学］
学歴	早稲田大学 人間科学部［卒業］ 茨城大学大学院 教育学研究科 修士課程［修了］
職歴	
所属学会	日本心理臨床学会
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	社会福祉学　臨床心理学
教育研究概要	障害等のある学生支援 学生相談に関わる臨床心理的研究 学生のボランティア活動に関わる実践教育
	（キーワード） 障害者福祉，臨床心理学，学生相談，パーソナリティ，カウンセリング

令和２年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）健康の科学 【1Q】心の健康科学，人間とコミュニケーション【1Q】バリアフリー・アクセシビリティ支援入門，人間とコミュニケーション【2Q】カウンセリング心理学入門，公共社会【1Q】多様性社会に関わるボランティア活動，公共社会【2Q】多様性社会に関わるボランティア活動，公共社会【3Q】多様性社会に関わるボランティア活動，公共社会【4Q】多様性社会に関わるボランティア活動

令和２年度における研究活動

○ 著書・論文等

［研究論文（大学，研究機関紀要）共著］大森真,沼田世里,上田敦子,矢嶋敬紘「共通シラバス英語科目に於ける質保証と学修支援への取り組み(2):英語プレゼンテーションに於ける「流暢さ」と「発音，韻律」の評価に関するルーブリックの提示と学修者の意識への影響」茨城大学全学教育機構論集大学教育研究（茨城大学全学教育機構）**4**，1-20.（2021 年 03 月）

［MISC（その他記事）共著］矢嶋敬紘,沼田世里,上地勝,西川陽子「いきいき茨城ゆめ大会選手団サポートボランティアの育成と代替ボランティア活動に関する実践報告」茨城大学全学教育機構論集大学教育研究（茨城大学全学教育機構）**4**，145-156.（2021 年 03 月）

［研究論文（大学，研究機関紀要）共著【査読あり】］大森真,沼田世里,上田敦子,矢嶋敬紘「オンライン授業での英語プレゼンテーション実施に対する学修者の意識の変化と要因の分析」茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究（茨城大学全学教育機構）**4**，73-92.（2021 年 03 月）

令和 2 年度における社会的活動，地域貢献など

○ 学外委員等

1. 茨城県公認心理師協会，理事 副会長
2. いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム 障害学生支援委員会，副委員長

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 全学教育機構学術委員会，委員
2. 全学教育機構学生支援部門会議，委員
3. 全学教育機構バリアフリー推進会議，委員 障害学生修学支援員
4. 全学教育機構バリアフリー推進会議合理的配慮検討 WG，委員
5. 全学教育機構学生生活支援部会，委員 学生相談員

○ 機構の業務等

1. 障害等のある学生支援業務
2. 学生相談業務
3. バリアフリー推進室（水戸キャンパス，日立キャンパス，阿見キャンパス）運営業務
4. なんでも相談室（水戸キャンパス，日立キャンパス，阿見キャンパス）運営業務
5. ピアサポーター育成・運営業務

国際教育部門	氏名　安 龍洙

職名	教授
学位	博士（文学）［東北大学］
学歴	東北大学大学院 文学研究科 言語科学専攻 博士後期課程［2000 年修了］
職歴	茨城大学留学生センター助教授（2003 年 4 月～2008 年 3 月） 茨城大学留学生センター教授（2008 年 4 月～2017 年 3 月） 茨城大学全学教育機構教授（2017 年 4 月～）
所属学会	国立大学留学生指導研究協議会　アジア・ヨーロッパ未来学会　日本語教育学会　第二言語習得研究会　韓国日本近代学会
受賞歴	なし
学内兼務	茨城大学・教育研究評議会　評議員　全学教育機構・大学教育領域長
専門分野	日本語教育
教育研究概要	日本社会における異文化理解の変容に関する事例研究　日本社会における外国人（①ニューカマー②オールドカマー③その他）と日本人（①外国人との接触頻度の高い日本人②外国人との接触頻度の低い日本人③その他）の異文化理解のあり方及びその変容について PAC 分析法を用いて認知的・情意的な観点から探っている。
	（キーワード） 異文化理解, PAC 分析法, 外国人と日本人の相互理解, 質的研究

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）学術日本語Ⅰ【前期】学術日本語Ⅰ（総合）, 日本語教育概論【前期】, 日本語教授法演習(海外)【前期】, 日本語教授法演習【後期】, 茨城学【2Q, 3Q】, 思想・文学【4Q】日本語を考える（日本語の諸相）, 多文化共生【通年】短期海外研修Ⅰ（韓国オンライン）, 多文化共生【通年】短期海外研修Ⅱ（韓国オンライン） （大学院科目）日本語表現法Ⅰ

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1.［研究論文（大学, 研究機関紀要）共著【査読あり】］石鍋 浩, 安 龍洙「介護専攻学生の専門領域学習観に関する PAC 分析を用いた質的検討―留学生と日本人学生の比較―」, 東大阪大学・東大阪短期大学部教育研究紀要, 18, 27-40.（2021 年 03 月）

2.［研究論文（大学, 研究機関紀要）単著【査読あり】］安龍洙「韓国人留学生はアルバイトを通して日本をどう理解しているか」, グローバル教育研究, 4, 27-38.（2021 年 03 月）

3.［研究論文（大学, 研究機関紀要）共著【査読あり】］青木 香代子, 安 龍洙「東南アジア交換留学生のアルバイトを通じてみた日本」, グローバル教育研究, 4, 15-26.（2021 年 03 月）

4.［研究論文（大学, 研究機関紀要）共著【査読あり】］石鍋 浩, 安 龍洙「日本在住留学生の異文化適応に関する PAC 分析を用いた質的研究」, グローバル教育研究, 4, 47-60.（2021 年 03 月）

5.［研究論文（大学，研究機関紀要）共著【査読あり・最終著者】］松田 勇一，安 龍洙「インドネシア出身留学生は日本でのアルバイトを通して日本をどう捉えているか」，グローバル教育研究，4，155-168.（2021 年 03 月）
6.［研究論文（大学，研究機関紀要）共著【査読あり】］高柳 有希，安 龍洙「COVID-19 が韓国留学中の日本人学生の留学生活に及ぼす影響の一考察」，グローバル教育研究，4，107-118.（2021 年 03 月）
7.［研究論文（大学，研究機関紀要）単著］安龍洙「欧米出身留学生の日本のサブカルチャー観について」，グローバル教育研究，3，1-12.（2020 年 03 月）
8.［研究論文（大学，研究機関紀要）共著］青木香代子・安龍洙「日本人交換留学生の韓国に対するイメージとその変化」，グローバル教育研究，3，13-28.（2020 年 03 月）
9.［研究論文（大学，研究機関紀要）共著］高柳有希・安龍洙「日本人韓国留学生は韓国のサブカルチャーを通して韓国をどう捉えているか」，グローバル教育研究，3，135-144.（2020 年 03 月）
10.［研究論文（大学，研究機関紀要）共著］松田勇一・安龍洙「日本人交換留学生は海外への交換留学をどのようにとらえているか」，グローバル教育研究，3，81-98.（2020 年 03 月）
11.［研究論文（大学，研究機関紀要）共著］石鍋浩・安龍洙・高柳有希「韓国に長期滞在する日本人による韓国観の態度構造：PAC 分析を用いた研究」，グローバル教育研究，3，53-65.（2020 年 03 月）

○ 競争的資金 共同・受託研究

1.［科学研究費助成事業］科学研究費補助金 基盤研究(C)「日本社会における外国人と日本人の異文化相互理解に関する質的実証研究」（研究代表者）（2017 年度～2021 年度）

令和 2 年度における社会的活動，地域貢献など

○ 学外委員等

1.「アジア・ヨーロッパ未来学会」理事
2.「鹿児島大学 大学の世界展開力強化事業外部評価委員会」委員長
3.「国立大学留学生指導研究協議会」代表幹事

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1.教育研究評議会 評議員
2.環境報告書作成ワーキンググループ 委員
3.教員業績評価制度検討ワーキンググループ 委員
4.全学教育機構人事委員会 委員長

○ 機構の業務等

1.人事委員会業務（採用人事 3 件，昇進人事 2 件）
2.全学教育機構年俸制適用教員の業績評価

国際教育部門	氏名　池田 庸子

職名	教授
学位	修士［ペンシルバニア州立大学］
学歴	ペンシルバニア州立大学大学院 比較文学科 比較文学 修士課程［1993 年修了］
職歴	茨城大学留学生センター教授（2010 年 4 月～） 茨城大学留学生センター助教授（2002 年 4 月～2010 年 3 月） 関西外国語大学助教授（1998 年 4 月～2002 年 3 月） 関西外国語大学専任講師（1993 年 9 月～1998 年 3 月） ペンシルバニア州立大学 TA（1991 年 9 月～1993 年 8 月） イースタンニューメキシコ大学 TA（1990 年 9 月～1991 年 5 月）
所属学会	全米日本語教育学会　日本語教育学会　日本語教育方法研究会　留学生教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	日本語教育
教育研究概要	日本語教育，教材開発，文学教育，
	（キーワード）日本語教育，教材開発，多読，

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）日本語教授法Ⅱ【前期】，日本語教授法演習(海外)【前期】，学術日本語ⅡA【後期】学術日本語ⅡA（応用），多文化共生【後期】短期海外研修Ⅰ（スペインオンライン），多文化共生【後期】短期海外研修Ⅱ（スペインオンライン），日本語教授法演習【後期】
学生支援・国際交流支援・特記事項	海外留学相談

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1.［教科書・共著］坂野永理，池田庸子，大野裕，品川恭子，渡嘉敷恭子「初級日本語 げんきⅡワークブック第 3 版」，ジャパンタイムズ出版．（2020 年 10 月）

2.［教科書・共著］坂野永理，池田庸子，大野裕，品川恭子，渡嘉敷恭子「初級日本語 げんきⅡ第 3 版」，ジャパンタイムズ出版．（2020 年 10 月）

3.［研究論文（学術雑誌）共著【査読あり・筆頭著者】］池田庸子・岩見晴子・田中麻美・長田奈都子「日本語教師養成授業と米国の夏期集中日本語コースにおける遠隔授業交流の試み」，茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究（茨城大学全学教育機構），**4**，169-181．（2021 年 03 月）

4.［研究論文（学術雑誌）単著【査読あり】］池田庸子「読書が苦手な学習者の語りからみた多読授業の効果と影響」，茨城大学全学教育機構グローバル教育研究（茨城大学全学教育機構），**4**，39-46．（2021 年 03 月）

○ 学会発表等

1.［シンポジウム・ワークショップ パネル（指名）・単独］ 池田庸子「多読支援のための授業活動と創作プロジェクト」［国際シンポジウム日本語教育における多読・速読の理論と実践ー多読と速読で読みの流暢さを伸ばそう！ー・・］（2021 年 03 月）

2.［公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等・単独］ 池田庸子「日本語教授法クラスと海外の日本語クラスを繋ぐ試み―ペンシルバニア州立大学（米国）との授業交流」［コロナ禍のグローバル教育を考える～茨城大学の挑戦～・茨城大学グローバル教育センター主催シンポジウム・］（2021 年 03 月）

3.［口頭発表（一般）・共同］ Seo, Masaki, Ikeda, Yoko, Aoki, Kayoko ″International Exchange Activities after COVID-19¥［JALT 2020 46th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition・JALT・］（2020 年 11 月）

4.［ポスター発表・共同］ 八若壽美子，池田庸子，Widianti SUSI「インドネシアの理系大学教員のライフストーリーに見る留学評価」［全学語学教育学会海外留学 SIG Online Conference・・］（2020 年 09 月）

○ 競争的資金 共同・受託研究

1.［科学研究費助成事業］科学研究費補助金 基盤研究（c）」 19K00729「日本語読教育における多読教材の分析と学習者及び教師の意識変容に関する研究」（研究代表者）（2019 年度～2021 年度）

令和 2 年度における社会的活動，地域貢献など

○ 学外委員等

1.「公益財団法人水戸市国際交流協会」評議員

○ 学外教育

『げんき』第 3 版オンライン説明会（第 1 回）［ジャパンタイムズ，米国紀伊国屋］2020 年 08 月

『げんき』第 3 版オンライン説明会（第 2 回）［ジャパンタイムズ，米国紀伊国屋］2020 年 08 月

『げんき』第 3 版オンライン説明会 ［ジャパンタイムズ出版，オーストラリア紀伊国屋書店］2020 年 09 月

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 学長特別補佐（国際教育担当）
2. 国際交流委員会委員
3. AIMS 運営委員会委員長
4. 中央学生委員会委員
5. 全学教育機構学生支援部門『学生支援協力員』学生相談員

○ 機構の業務等

1. 全学教育機構国際教育部門長（グローバル教育センターセンター長）

国際教育部門	氏名　八若 壽美子

職名	教授
学位	修士（人文科学）［お茶の水女子大学］
学歴	お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 比較文化学 博士後期課程［2003 年単位取得満期退学］ お茶の水女子大学人文科学研究科修士課程日本言語文化専攻修了(1997 年)
職歴	茨城大学 全学教育機構 教授（2017 年 4 月～） 茨城大学留学生センター教授(2006 年 4 月～2017 年 3 月） 茨城大学留学生センター助教授(2001 年 9 月～2006 年 3 月） 立命館アジア太平洋大学専任講師(2000 年 9 月～2001 年 8 月）
所属学会	ﾖｰﾛｯﾊﾟ日本語教師会　日本言語文化学研究会　日本語教育学会
受賞歴	平成 14 年度茨城大学教育研究開発センター推奨授業表彰「総合科目社会国際系科目「日本事情Ⅰ」」(2003 年 03 月）
学内兼務	なし
専門分野	日本語教育
教育研究概要	1.教育概要:　日本語教育 2.研究概要:　日本語学習者に対する作文指導に関する研究，自律的言語学習に関する研究，元留学生の留学評価と日本語学習との関連に関する研究
	(キーワード）外国語(第二言語)としての日本語教育，日本語学習者に対する作文指導，自律的言語学習，言語学習環境，留学評価

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）学術日本語ⅡB【前期】学術日本語ⅡB（ｱｶﾃﾞﾐｯｸ・ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ），多文化社会と日本語教育【前期】，日本語教授法演習【後期】，思想・文学【3Q】日本語を考える（日本語文法），思想・文学【4Q】日本語を考える（日本語の諸相） 日本語レベル 3 総合【前期】，日本語レベル 4 口頭表現【前期・後期】
学生支援・国際交流支援・特記事項	新入学部留学生面談

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1.［研究論文（大学，研究機関紀要）共著【査読あり・筆頭著者】］八若壽美子，Susi Widianti「元留学生の日本留学評価　―インドネシアの大学教員の場合―」，全学教育機構論集グローバル教育研究（茨城大学全学教育機構），4，137-153.（2021 年 03 月）

2.［研究論文（大学，研究機関紀要）共著【査読あり・筆頭著者】］八若壽美子　小林英弘「タイの日系企業で働く元交換留学生の留学評価―翻訳・通訳業務従事者の場合―」，全学教育機構論集グローバル教育研

究（茨城大学全学教育機構），4，119-136.（2021 年 03 月）
3.［（MISC）研究発表要旨（全国大会，その他学術会議）単著］八若壽美子「タイの日系企業で働く元交換留学生の留学評価 ―留学期間による比較―」，2020 年度日本語教育学会秋季大会予稿集，364-369.（2020 年 11 月）

○ 学会発表等

1.［ポスター発表・単独］ 八若壽美子「タイの日系企業で働く元交換留学生の留学評価 ―留学期間による比較―」［2020 年度日本語教育学会秋季大会・日本語教育学会・日本(オンライン)］（2020 年 11 月）
2.［ポスター発表・共同］ 八若壽美子，池田庸子， Widianti Susi「インドネシアの理系大学教員のライフストーリーに見る日本留学評価」［JALT Study Abroad SIG Online Conference 2020・JALT・茨城大学 オンライン］（2020 年 09 月）

○ 競争的資金 共同・受託研究

［科学研究費助成事業］基盤研究(C)「元留学生の留学評価と日本語学習との関連に関する実証的研究(研究代表者)(2017 年度～2021 年度)

○ 学術貢献活動

シンポジウム「コロナ禍のグローバル教育を考える～茨城大学の挑戦～」コーディネータ

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. ダイバーシティ推進委員会委員
2. 全学教育機構学術委員会委員
3. 日本語教育プログラム部会委員
4. 就職・キャリアコーディネータ

○ 機構の業務等

1. グローバル教育センター主任
2. チューター指導

国際教育部門	氏名　瀬尾 匡輝

職名	准教授
学位	学士（第二言語としての英語教授法）［ハワイパシフィック大学］ 副専攻（社会科学）［ハワイパシフィック大学］ 学士（宗教学）［ハワイ大学マノア校］ 修士（第二言語研究）［ハワイ大学マノア校］ 博士（言語学）［上智大学］
学歴	ハワイパシフィック大学 国際学部［2005 年 05 月卒業］ ハワイ大学マノア校 人文学部 宗教学科［2006 年 08 月卒業］ ハワイ大学マノア校大学院 第二言語研究学科 修士課程［2008 年 12 月修了］ 上智大学大学院 外国語学研究科 言語学専攻 博士課程［2014 年 03 月単位取得満期退学］
職歴	茨城大学 全学教育機構国際教育部門 准教授（2019 年 4 月～） 茨城大学 全学教育機構国際教育部門 講師（2017 年 4 月～2019 年 3 月） 茨城大学 留学生センター 講師（2015 年 4 月～2017 年 3 月） 香港理工大学　人文学院中文及雙語学系 専任講師（2012 年 1 月～2015 年 3 月） 香港大学専業進修学院　助理講師（2009 年 9 月～2011 年 12 月） 香港大学専業進修学院　非常勤講師（2009 年 1 月～2009 年 8 月） ハワイパシフィック大学　非常勤講師（2008 年 1 月～2009 年 1 月） コンコーディア・ランゲージ・ビレッジ　森の池 教務主任（2007 年～2008 年） コンコーディア・ランゲージ・ビレッジ　森の池　夏季日本語教師（2005 年～2006 年）
所属学会	海外日本語教育学会 大学日本語教員養成課程研究協議会 日本教師教育学会 日本教育工学会 国立大学留学生指導研究協議会 開発教育協会 国際理解教育学会 異文化間教育学会 日本質的心理学会 日本教育社会学会 言語文化教育研究学会 日本語教育方法研究会 カナダ日本語教育振興会 アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会 全国語学教育学会 香港日本語教育研究会 日本語教育学会
受賞歴	The Patricia A. Williams Prize in Education（2005 年）
学内兼務	農学部・附属国際フィールド農学センター 協力教員
専門分野	日本語教育 外国語教育 教育社会学
教育研究概要	言語教育（特に日本語教育），教育社会学を専門としている。これまで海外を拠点に研究を行ってきたため，海外における日本語教育のあり方についての批判的な検討を学習者と教師の視点から試みてきた。 学習者の視点 学習者の動機や動機減退要因を調査していくなかで，余暇活動と消費としての日本語学習の存在を明らかにした。その上で，学習者の視点に立った実践研究を行っている。 教師の視点 海外で働く教師達にインタビューを行った結果から，教師達の対立や孤立感を浮き彫りにした。そして，海外で働く教師のためのオンラインコミュニティを立ち上げ，企画・運営した結果を実践研究という形で報告している。

	(キーワード)外国語/第二言語としての日本語教育(JSL/JFL), 批判的応用言語学, 第二言語習得研究の JSL/JFL への応用(e.g. タスク中心教授法, 内容中心教授法), グローバリゼーションと言語教育, 実践研究, 質的研究, 批判的教育

令和 2 年度における教育活動

担当科目	(基盤科目)多文化共生【前期】【水戸開講】短期海外研修Ⅰ(ブルネイオンライン), 多文化共生【前期】【水戸開講】短期海外研修Ⅱ(ブルネイオンライン), 人間とコミュニケーション【1Q】Japanese Pop Culture A, 人間とコミュニケーション【2Q】Japanese Pop Culture B, 日本語教授法Ⅰ【後期】, 多文化共生【後期】短期海外研修Ⅰ(マレーシアオンライン), 多文化共生【後期】短期海外研修Ⅱ(マレーシアオンライン), 多文化共生【後期】短期海外研修Ⅰ(ベトナムオンライン), 多文化共生【後期】短期海外研修Ⅱ(ベトナムオンライン), 日本語教授法演習【後期】, Studies in Particular Fields【3Q】, Studies in Contemporary Japan【4Q】, (日本語研修コース)レベル4(総合)【前期】【後期】, (阿見キャンパス日本語補習授業)初級日本語 II【前期】, 初級日本語 IV【前期】, アカデミックジャパニーズ【前期】, サバイバル日本語【前期】, 初級日本語 III【後期】, 初級日本語 IV【後期】, サバイバル日本語【後期】
学生支援・国際交流支援・特記事項	[国際交流支援]ペンシルバニア州立大学の学生とのオンライン授業交流(連携協定あり)(2020 年 5 月～7 月) [国際交流支援]ミシガン州立大学の学生とのオンライン授業交流(連携協定なし)(2020 年 10 月～12 月) [国際交流協定]ウィスコンシン大学スペリオル校の学生とのオンライン授業交流(連携協定あり)(2020 年 10 月～11 月) [国際交流支援]ハイフォン大学の学生とのオンライン授業交流(連携協定なし)(2020 年 11 月～2021 年 2 月) [国際交流支援]ブルネイオンライン短期海外研修への学生派遣(連携協定あり)(2020 年 8 月) [国際交流支援]マレーシアオンライン短期海外研修への学生派遣(連携協定あり)(2021 年 3 月) [国際交流支援]ベトナムオンライン短期海外研修への学生派遣(連携協定なし)(2021 年 3 月) [国際化・連携]茨城大学 令和2年度教育改革推進経費「オンラインによる国際交流活動の活性化」(2020 年 9 月～2021 年 2 月) [その他特記]日本学生支援機構 令和 2 年度海外留学支援制度(協定派遣)学生交流創成タイプ (タイプ B)「東南アジアの大学生との相互理解を目指した海外派遣プログラム」(2020 年 8 月～2020 年 9 月) [その他特記]九州大学 博士論文調査委員(2020 年 3 月～7 月)

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1.［研究論文（学術雑誌）単著【査読あり】］瀬尾匡輝「文化を批判的に教える―久保田（2008;2011）の4Dアプローチをもとにした実践」，大学日本語教員養成課程研究協議会論集，19，16-30．（2021 年 03 月）

2.［研究論文（大学，研究機関紀要）単著【査読あり】］瀬尾匡輝「台風 19 号災害支援ボランティアに参加した学生の参加の目的と経験―留学生と日本人学生の比較から」，茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究，4，93-105．（2021 年 03 月）

3.［研究論文（大学，研究機関紀要）単著【査読あり】］瀬尾匡輝「ブルネイ短期海外研修に参加した学生のレポートを電子書籍で出版する―事前・事後学習としてのレポート作成」，茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究，4，193-203．（2021 年 03 月）

4.［研究論文（大学，研究機関紀要）単著【査読あり】］瀬尾匡輝「自分たちの悩みを自分たちで解決するプロジェクト活動―留学生が抱える問題の解決策を考え，大学の担当者に働きかける」，茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究，4，183-192．（2021 年 03 月）

5.［研究論文（学術雑誌）単著【筆頭著者】］瀬尾匡輝「言語文化教育研究学会研究集会のこれまで―私と研究集会との関わりからふりかえる」，言語文化教育研究，18，213-232．（2020 年 12 月）

○ 学会発表等

1.［公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等・単独・招待有］「オンラインを駆使して「探究的」に日本語教育を学ぶ―ミシガン州立大学（米国）との授業交流」［茨城大学 グローバル教育センター主催シンポジウム コロナ禍のグローバル教育を考える～茨城大学の挑戦～・オンライン］（2021 年 03 月）

2.［シンポジウム・ワークショップ パネル（指名）・共同・招待有］ 瀬尾匡輝・有森丈太郎・瀬尾悠希子・橋本拓郎・古屋憲章「あらためて日本語教師の役割を考える」［韓國日語日文學會 2020 年度冬季学術大会・韓國日語日文學會・韓国・ソウル・オンライン］（2020 年 12 月）

3.［口頭発表（招待・特別）・共同・招待有］ 瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「『日本語教師の履歴書』にみる日本語教育者の役割意識とその構築・更新に影響を与えた経験」［韓國日語日文學會 2020 年度冬季学術大会・韓國日語日文學會・韓国・ソウル・オンライン］（2020 年 12 月）

4.［口頭発表（一般）・共同］ Masaki Seo, Yoko Ikeda, & Kayoko Aoki "International Exchange Activities after COVID-19［JALT 2020 46th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition・Japan Association for Language Teaching・Online］（2020 年 11 月）

5.［口頭発表（一般）・単独］ 瀬尾匡輝「ポストコロナにおける日本留学の意義―日本に入国・再入国できない留学生へのインタビュー調査から」［南アジア日本語教育国際シンポジウム・インド・ハイデラバード/英語外国語大学(EFLU)日本語学科，国際交流基金ニューデリー日本文化センター・オンライン］（2020 年 11 月）

6.［口頭発表（一般）・単独］ 瀬尾匡輝「オンラインによる新しい海外留学の可能性―コロナ後のブルネイ短期語学・文化研修プログラムの実践から」［JALT Study Abroad SIG Online Conference 2020・JALT Study Abroad SIG・Online］（2020 年 09 月）

7.［ポスター発表・単独］ 瀬尾匡輝「災害支援ボランティアに参加した留学生の声 ―参加の目的と経験」［異文化間教育学会第 41 回大会・オンライン］（2020 年 06 月）

○ 競争的資金 共同・受託研究

1.［令和2年度　茨城大学地域研究・地域連携プロジェクト］「地域の国際化を考える」（研究代表者）茨城大学社会連携センター（2020 年度～2020 年度）
2.［科学研究費助成事業］若手研究 20K13129「言語教育の商品化による格差の是正を目指した実証研究―公平性と言語間の比較を通して」（研究代表者）日本学術振興会（2020 年度～2023 年度）

○ 学術貢献活動

1.「言語文化教育研究学会第 8 回研究集会」，言語文化教育研究学会［企画立案・運営等］
2.「JALT Study Abroad SIG Online Conference 2020」，JALT Study Abroad SIG・茨城大学グローバル教育センター［企画立案・運営等,審査・評価,査読］

令和 2 年度における社会的活動，地域貢献など

○ 社会貢献活動

1.［その他］「令和2年度茨城大学と連携協定自治体との実務者間意見交換会　分科会「国際交流・多文化共生」におけるファシリテーター」［役割］:運営参加・支援［対象］:行政機関
2.「阿見町国際交流協会　ホームステイ委員会委員長」［役割］:運営参加・支援

○ 学外委員等

1.「韓国日語日文学会」編集委員
2.「国立大学留学生指導研究協議会」地区幹事
3.「日本語教育学会」審査・運営協力員
4.「言語文化教育研究学会」研究集会実行副委員長
5.「全国語学教育学会　分野別研究部会　海外留学」企画委員長
6.「日本語教育学会」国際連携委員会委員
7.「言語文化教育研究学会」理事

○ 学外教育

1.［公開講座］「多文化理解パートナー育成講座～茨城の多文化共生を考える～」，2 時間，150 名出席，茨城大学
2.［その他］「ボランティア日本語講師養成講座（茨城大学地域連携共催事業）」，10 時間，10 名出席，阿見町国際交流協会

令和 2 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 日本語教育プログラム部会
2. グローバル英語教育プログラム部会
3. 英語教育検討タスクフォース

○ 機構の業務等

1. 阿見・日立日本語補習授業 コーディネーター
2. 阿見キャンパス留学交流室チューターの支援
3. グローバル教育センターホームページ及び Facebook ページの管理
4. 阿見町国際交流協会との連携事業の促進

5. 阿見キャンパスの留学生家族の生活支援

国際教育部門	氏名　青木 香代子

職名	講師
学位	教育学博士［サンフランシスコ大学大学院］
学歴	サンフランシスコ大学大学院大学院 教育学部 国際・多文化教育 博士課程［2008 年 05 月修了］
職歴	中央大学 文学部事務室 嘱託職員（2013 年 2 月～2017 年 3 月） 国際教養大学 非常勤講師（2012 年 6 月～2012 年 7 月） 桑港学園日本語学校 講師（2008 年 9 月～2012 年 3 月）
所属学会	日本教育社会学会　日本国際理解教育学会　日本移民学会　日本オーラル・ヒストリー学会　Comparative and International Education Society　異文化間教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	教育学
教育研究概要	多文化教育，異文化間教育学，批判的教育学，社会正義のための教育などを中心に，近年は日本人性や人種差別をはじめとする抑圧と特権性に焦点を当てた社会正義のための教育実践開発を研究しています。
	（キーワード）多文化教育　異文化間教育　国際理解教育　批判的教育学

令和 2 年度における教育活動

担当科目	（基盤科目）多文化社会と日本語教育【前期】，学術日本語Ⅰ【後期】学術日本語Ⅰ（応用），日本語教授法演習【後期】，グローバル・スタディーズ【3Q】Diversity and Social Issues in Japan A，多文化共生【3Q】多文化共生，グローバル・スタディーズ【4Q】Diversity and Social Issues in Japan B，多文化共生【4Q】多文化共生，多文化共生【通年】【水戸開講】短期海外研修Ⅰ（オーストラリアオンライン），多文化共生【通年】【水戸開講】短期海外研修Ⅱ（オーストラリアオンライン） （日本語研修コース）レベル 3 総合 A【前期】日本事情 A【前期】，日本事情 B【後期】
学生支援・国際交流支援・特記事項	iOP チュートリアル「人種問題について考えよう」（2020 年 10 月～2020 年 11 月） 日本語教授法演習（後期）において，ウィスコンシン大学スペリオル校での教育実習指導を担当した。

令和 2 年度における研究活動

○ 著書・論文等

1.［研究論文（大学，研究機関紀要）単著【査読あり】］「アメリカ高等教育における社会正義のための教育の実践と課題」，茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究（茨城大学全学教育機構），4，1-14.（2021 年 03 月）

2.［研究論文（大学，研究機関紀要）共著【査読あり・筆頭著者】］「東南アジア交換留学生のアルバイトを通じてみた日本」，茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究（茨城大学全学教育機構），4，15-25.

（2021 年 03 月）
3.［研究論文（学術雑誌）単著【査読あり】］「大学における社会正義のための教育にむけた試み－特権性と抑圧の理解の授業実践を通して－」 異文化間教育, 52, 102-119.（2020 年 08 月）

○ 学会発表等

1.［公開講演・単独・招待有］「茨城大学のオンライン日本語教育実習の概要」［コロナ禍のグローバル教育を考える～茨城大学の挑戦～・茨城大学グローバル教育センター・］（2021 年 03 月）
2.［口頭発表（一般）・共同］ Masaki Seo, Yoko Ikeda, Kayoko Aoki "International Exchange Activities after COVID-19［JALT 2020 46th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition］（2020 年 11 月）
3.［ポスター発表・単独］「アメリカの社会問題を考える海外体験学習を通した学生の学び―社会正義のための教育の視点から―」［JALT Study Abroad SIG Online Conference 2020・The Japan Association for Language Teaching (JALT)］（2020 年 09 月）
4.［口頭発表（一般）・単独］「アメリカ高等教育における社会正義のための教育の実践と課題」［異文化間教育学会第 41 回大会］（2020 年 06 月）

○ 競争的資金 共同・受託研究

1. 科学研究費補助金 基盤研究（C）（一般）課題番号 19K02470「社会正義のための多文化教育のプログラム開発と実践」（研究代表者）（2019 年度～2020 年度）
2. 科学研究費補助金 基盤研究(C)「日本社会における外国人と日本人の異文化相互理解に関する質的実証研究」（研究分担者）（2017 年度～2020 年度）

令和 2 年度における社会的活動，地域貢献など

○ 学外委員等

1.「異文化間教育学会」若手交流委員会

④ 機構内各種委員会委員

R2.4.1

<table>
<tr><th>委員会</th><th>予算･施設委員会</th><th>学術委員会</th><th>点検評価委員会</th><th>人事委員会</th></tr>
<tr><td>委員長</td><td>篠嶋副機構長</td><td>青柳副機構長</td><td>西川副機構長</td><td>安評議員</td></tr>
<tr><td>総合教育企画部門</td><td>西川陽子</td><td rowspan="4">嶌田敏行
菊池　武
矢嶋敬紘
八若壽美子</td><td>嶌田敏行</td><td rowspan="4">小林邦彦
小磯重隆
山崎　大</td></tr>
<tr><td>共通教育部門</td><td>館　深雪
佐藤伸也</td><td>小西康文
上田敦子</td></tr>
<tr><td>学生支援部門</td><td>青柳直子</td><td>小磯重隆</td></tr>
<tr><td>国際教育部門</td><td>青木香代子</td><td>青木香代子</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td>評議員又は副機構長（＝委員長）
各部門から推薦された専任教員又は兼務教員５人（共通から２人）</td><td>評議員又は副機構長（＝委員長）
機構長から指名された専任教員　４人</td><td>評議員又は副機構長（＝委員長）
各部門から推薦された専任教員又は兼務教員５人（共通から２人）</td><td>評議員（＝委員長）
機構長から指名された専任教員　３人</td></tr>
</table>

（任期2年以内：R2.4.1～R4.3.31）

⑤ 別紙資料リスト

＜総合教育企画部門＞

資料 2-A-01_茨城大学 FD days（前期：新任教職員対象）
資料 2-A-02_茨城大学 FD days（後期：全学教職員対象）
資料 2-A-03_茨城大学シラバスガイド(令和 2 年 12 月)

＜学生支援部門＞

資料 2-C-01_茨城大学水戸地区合同企業 WEB 説明会
資料 2-C-02_茨大キャリアセンターMondayLIVE
資料 2-C-03_就活継続セミナー
資料 2-C-04_就職ガイダンス実績
資料 2-C-05_就職ガイダンス実施日程
資料 2-C-06_ライフデザイン・シラバス
資料 2-C-07_地方行政機関等業務説明会案内
資料 2-C-08_2020 年度前学期 学長と学生の懇談会（実施報告）
資料 2-C-09_2020 年度後学期 学長と学生の懇談会（実施報告）
資料 2-C-10_ゲートキーパー養成講座

＜国際教育部門＞

資料 2-D-1-01_短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（ブルネイオンライン）_2020 夏季
資料 2-D-1-02_短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（韓国オンライン）_2020 夏季
資料 2-D-1-03_短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（オーストラリアオンライン）_2020 春季
資料 2-D-1-04_短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（韓国オンライン）_2020 春季
資料 2-D-1-05_短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（ベトナムオンライン）_2020 春季
資料 2-D-1-06_短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（スペインオンライン）_2020 春季
資料 2-D-1-07_短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（マレーシアオンライン）_2020 春季
資料 2-D-2-01_第３弾　ZOOM で映画鑑賞会＆ディスカッション
資料 2-D-2-02_第４弾　オンライン海外留学サロン
資料 2-D-2-03_第５弾　茨城大学 元留学生のためのオンライン親睦会
資料 2-D-2-04_第６弾　日本の夏祭りで踊ろう！
資料 2-D-2-05_第７弾　オンライン坐禅ワークショップ
資料 2-D-2-06_第 8 弾　タンデム学習プロジェクト
資料 2-D-2-07_第 9 弾　国際交流のためのオンラインおりがみワークショップ
資料 2-D-2-08_第 10 弾　オンライン国際交流パーティー
資料 2-D-2-09_第 11 弾　国際交流のためのオンラインふろしきワークショップ
資料 2-D-3-01_コロナ禍のグローバル教育を考える～茨城大学の挑戦～

令和３年１１月
全学教育機構 点検評価委員会